



東京あだちキャンパス

# 事業報告書 2021年度

2022年5月31日  
学校法人 文教大学学園

## 学校法人の概要

<b>建学の精神・理念</b>	2
[1] 建学の精神・理念	2
<b>役員及び教職員に関する情報</b>	2
[1] 役員の概要	2
[2] 理事・監事一覧	2
[3] 評議員一覧	2
[4] 教職員の概要	2
<b>沿革</b>	3
<b>設置学校等</b>	4
<b>学園の中長期計画</b>	5
[1] 学園の中長期計画について	5
[2] BUNKYO ACTION PLAN 2025 ビジョンマップ	6

## 事業の概要

<b>当該年度の主な事業の概要</b>	8
[1] 主な事業の目的・計画	8
[2] 進捗状況	10
<b>教育研究の概要</b>	28
[1] 教育研究上の基本となる組織に関する情報	28
[2] 教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報	28
[3] 学生に関する情報	29
[4] 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報	36
[5] 学習環境に関する情報	37
[6] 学生等納付金に関する情報	43
[7] 学生等支援と奨学金に関する情報	48
<b>管理運営の概要</b>	52
[1] 文教大学学園	52
[2] 文教大学・大学院	53

## 財務の概要

<b>学校法人会計・勘定科目の概要</b>	54
<b>当該年度の財務状況</b>	55
[1] 財産目録	55
[2] 収支計算書	56
・資金収支計算書	56
・活動区分資金収支計算書	57
・事業活動収支計算書	58
・貸借対照表	59
<b>経年比較</b>	60
[1] 収支計算書の推移	60
・資金収支計算書	60
・事業活動収支計算書	61
・貸借対照表	62
[2] 財務比率の推移	63
・事業活動収支計算書の比率	63
・貸借対照表の比率	64
<b>経営状況の分析</b>	65
<b>監事の監査報告書</b>	66

# “教育力トップ”の 学園を目指して

文教大学学園 理事長 野島 正也



2021年度の学園の事業報告書を供覧いたします。本報告書は、文教大学学園が2021年度に実施した諸事業について関係各位に広くお知らせし、本学園についてのご理解を更に深めていただくための一助として作成したものです。

文教大学学園は、1927年創立の「立正幼稚園」、「立正裁縫女学校」を端緒として、現在では学習する園児・児童・生徒・学生等の総数1万人を超える総合学園として発展し、2022年には創立95年を数えます。これまでの学園の発展は、ひとえに関係各位のご支援の賜物であり、厚く御礼を申し上げます。

国内外の経済や社会の構造が目まぐるしく変化する中、来る100周年も含めた今後の学園の更なる発展のためには、一段の教育力向上や経営基盤強化が求められる状況となっております。

こうした課題意識のもと、学園はこれまで、中期経営計画として2009年から学園経営戦略「第1次中期経営計画(2009-2012)」、「第2次中期経営計画(2013-2016)」、「第3次中期経営計画:文教アクションプラン2021(2017-2020)」を3期12年間にわたり推進してまいりました。第1次中期経営計画では、学園のハード(校舎リニューアル等)とソフト(教育力充実、組織・制度改革等)両面にまたがる包括的かつ大規模な計画を実行、第2次中期経営計画では「教育力」と「経営力」の抜本的な強化によるアクションプランを経営・教学の緊密な連携の下で実行、第3次中期経営計画では、主体を各校とし、各校が目標やアクションプランを策定・実行し、経営は

財務等の面で各校を下支えする体制で実行してまいりました。

そうしたことを踏まえ、学園は2021年度、新たな中期経営計画となる「第4次中期経営計画『BUNKYO ACTION PLAN 2025』」を策定いたしました。新計画は、前計画において実施した各校の改革の実績を踏まえて、各校の主体性を重視し、各校における具体的な目標や事業計画(アクションプラン)をその主体となる各校が策定・実行する計画の枠組みを堅持しつつも、浮かび上がった課題の改善や新たな取り組みを加えた計画としています。今後、大学だけではなく付属学校も含めた学園全体における志願者獲得や教育力、進学実績、就業力の向上、経営における財政基盤の安定や組織ガバナンスの強化、各校の連携等、学園教職員一丸となって、計画を着実に実行してまいります。

これからも学園は建学の精神・理念である「人間愛」をベースとしつつ、「教育力トップ」の学園の実現を目指して、最大限の努力を傾注してまいります。皆様方の一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

建学の精神・理念

文教大学学園の建学の精神は「人間愛」です。「人間愛とは、人間性の絶対的尊厳と、その無限の発展性とを確信し、すべての人間を信じ、尊重し、あたたかく慈しみ、優しく思いやり、育むこと」です。

学園は、1927年に「立正精神」を建学の精神・教育理念として設立され、今日では幼稚園、小学校、中学校、高等学校、外国人留学生別科、大学7学部、専攻科、大学院5研究科を擁する総合学園に発展しました。学園設立当初の教育理念「立正精神」は日蓮聖人によって体得せられた法華經の精神で、人間性の絶対的尊厳と、その無限の発展性とを確信し、理想社会の実現を期するもので、現代においてこれは生命の尊厳を基盤とする「人間愛」という言葉で表わされています。

「人間愛」の精神は、なによりも「生命(いのち)を大切に作る心」の上に成り立っています。私たち一人一人の生命(いのち)は、それが誰の生命で

あっても、かけがえのないもので、何ものにも換え難く大切なものです。「人間愛」の精神は、人と人とが認め合い、尊敬し合い、許し合い、思いやる、そういう社会が必ず実現することを望み確信する心です。

学園では、園児・児童・生徒・学生等の学習者が知識や技能・技術を学修するに当たって、「人間愛」の精神(こころ)を人格の中核として形成することを大切に考えています。本来、教育の本旨は人格の形成にあるからです。

「人間愛」の教育の実践は、「園児・児童・生徒・学生の喜ぶ顔が見たい。子どもたちに悲しい思いをさせない。悲しむ顔は見たくない。」と教職員一同が心から思うところにあります。現在、学園では、教職員と子ども、子どもと子ども、教職員と教職員などの間で「人間愛」の精神が醸成され、各学校の教育の柱として展開されています。

[1] 役員の概要

役職名	定員数	現員数
理事	15~19	18
監事	2・3	2
評議員	41~58	52

[2] 理事・監事一覧

役職名	氏名(所属・選出)	担当名
理事長	野島 正也(理事長)	
副理事長	新熊 基(学園本部長)	危機管理対策、財務、広報(ブランド広報)
常務理事	宮原 辰夫(国際学部教授)	学園校友会、付属校、危機管理対策、広報(ブランド広報)
常務理事	根本 俊男(経営学部教授)	学園情報システム、寄附金、人事・労務、危機管理対策、財務、広報(募集支援広報)
常務理事	本田 勝浩(法人事務局長)	人事・労務、教育環境整備、広報(募集支援広報)、学園情報システム、危機管理対策、財務、寄附金、付属校
常務理事	宮越 昭彦(大学事務局長)	大学、人事・労務、学園情報システム、危機管理対策、広報(募集支援広報)
理事	中島 滋(文教大学学長)	大学
理事	高橋 克己(教育学部教授)	大学
理事	秋山 美栄子(人間科学部教授)	大学
理事	釈氏 孝浩(情報学部教授)	大学
理事	菅原 周一(国際学部教授)	大学
理事	保田 昇(附属幼稚園長)	学園校友会、教育環境整備、付属校
理事	相原 真佐巳(学園職員)	学園校友会、教育環境整備、広報(募集支援広報)
理事	青木 勉(学園職員)	人事・労務、教育環境整備、寄附金
理事/非常勤	岡本 久暢(学識経験者)	学園校友会、広報(ブランド広報)
理事/非常勤	小椋 郁乃(学識経験者)	
理事/非常勤	海谷 隆彦(学識経験者)	
理事/非常勤	若松 豊樹(学識経験者)	
監事/非常勤	佐藤 善吉	
監事/非常勤	須原 洋	

[3] 評議員一覧

役職名	氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
評議員(学内)	高橋 克己	評議員(学内)	佐久間 勲	評議員(学外)	石田 恒好
評議員(学内)	布柴 靖枝	評議員(学内)	松田 素行	評議員(学外)	中澤 仁
評議員(学内)	白井 啓介	評議員(学内)	菅原 周一	評議員(学外)	田辺 武光
評議員(学内)	佐野 昌己	評議員(学内)	鈴木 誠	評議員(学外)	戸田 あきら
評議員(学内)	海津 ゆりえ	評議員(学内)	村山 直樹	評議員(学外)	前田 久明
評議員(学内)	出井 雅彦	評議員(学内)	松川 佳史	評議員(学外)	岡本 久暢
評議員(学内)	神田 信彦	評議員(学内)	中山 敦子	評議員(学外)	小椋 郁乃
評議員(学内)	宮武 利江	評議員(学内)	相原 真佐巳	評議員(学外)	海谷 隆彦
評議員(学内)	釈氏 孝浩	評議員(学内)	青木 勉	評議員(学内)	新熊 基
評議員(学内)	松村 康弘	評議員(学内)	東 誠	評議員(学内)	中島 滋
評議員(学内)	小島 克己	評議員(学内)	大塚 尚弥	評議員(学内)	根本 俊男
評議員(学内)	石塚 浩	評議員(学内)	菅沼 隆昭	評議員(学内)	野島 正也
評議員(学内)	銅谷 新吾	評議員(学内)	羽田 宏壽	評議員(学内)	本田 勝浩
評議員(学内)	島野 歩	評議員(学外)	安岡 紀子	評議員(学内)	宮越 昭彦
評議員(学内)	保田 昇	評議員(学外)	和田 俊子	評議員(学内)	宮原 辰夫
評議員(学内)	三木 一彦	評議員(学外)	杉田 知佳子	評議員(学外)	若松 豊樹
評議員(学内)	秋山 美栄子	評議員(学外)	片柳 匡司		
評議員(学内)	紙 宏行	評議員(学外)	田口 恵利		

[4] 教職員の概要

区分(本務のみ)	教員	職員	計
学校法人	—	13	13
文教大学	241	140	381
文教大学付属高等学校	36	4	40
文教大学付属中学校	23	3	26
文教大学付属小学校	17	4	21
文教大学付属幼稚園	11	3	14
合計	328	167	495

\*文教大学教員数には、学長1人を含む。

和暦	西暦	沿革
昭和2年	1927年	▶馬田行啓、小野光洋によって荏原郡大崎町(現品川区東大崎)に立正幼稚園、立正裁縫女学校創立
昭和3年	1928年	▶財団法人立正学園設立、立正女子職業学校設立
昭和4年	1929年	▶立正女子職業学校を立正学園女学校と校名変更、荏原郡荏原町(現品川区旗の台)に移転
昭和7年	1932年	▶立正学園高等女学校設立
昭和22年	1947年	▶学制改革により立正学園中学校設立
昭和23年	1948年	▶学制改革により立正学園女子高等学校設立
昭和26年	1951年	▶財団法人立正学園を学校法人立正学園と法人組織変更 ▶立正学園小学校設立
昭和28年	1953年	▶立正学園女子短期大学設立、家政科設置
昭和37年	1962年	▶短期大学に英語英文科、児童科設置
昭和38年	1963年	▶短期大学に文芸科、栄養科設置
昭和41年	1966年	▶埼玉県越谷市に立正女子大学設立、家政学部家政学科設置
昭和43年	1968年	▶家政学部に児童学科増設 ▶立正学園女子短期大学を立正女子大学短期大学部と校名変更
昭和44年	1969年	▶立正女子大学に教育学部初等教育課程、中等教育課程設置
昭和51年	1976年	▶立正女子大学に人間科学部人間科学科設置 ▶立正女子大学を文教大学と、短期大学部を文教大学女子短期大学部と校名変更
昭和52年	1977年	▶文教大学を男女共学とする
昭和55年	1980年	▶文教大学に情報学部広報学科、経営情報学科設置
昭和58年	1983年	▶学校法人立正学園を学校法人文教大学学園と法人名称変更
昭和60年	1985年	▶情報学部及び女子短期大学部を神奈川県茅ヶ崎市に移転 湘南キャンパスとして開校 ▶品川区旗の台に文教大学経営情報専門学校設立
昭和61年	1986年	▶情報学部情報システム学科増設
昭和62年	1987年	▶文教大学に文学部日本語日本文学科、英米語英米文学科、中国語中国文学科設置
平成2年	1990年	▶文教大学に国際学部国際学科設置
平成4年	1992年	▶文教大学に専攻科教育専攻科教育学専攻設置 ▶立正幼稚園を文教大学学園幼稚園と名称変更
平成5年	1993年	▶文教大学に大学院設置、人間科学研究科修士課程設置 ▶文教大学に外国人留学生別科設置
平成10年	1998年	▶人間科学部に臨床心理学科増設 ▶教育学部の初等教育課程を学校教育課程と名称変更 ▶文教大学付属中学校・高等学校を男女共学とする
平成11年	1999年	▶大学院に言語文化研究科修士課程設置
平成12年	2000年	▶大学院人間科学研究科に博士(後期)課程増設 ▶国際学部国際コミュニケーション学科、国際関係学科増設 ▶女子短期大学部の文芸科を現代文化学科、英語英文科を英語コミュニケーション学科、栄養科を健康栄養学科、家政科をライフデザイン学科に名称変更
平成15年	2003年	▶教育学部に心理教育課程増設 ▶女子短期大学部を単科の健康栄養学科と組織変更
平成17年	2005年	▶大学院に情報学研究科修士課程・国際協力学研究科修士課程設置 ▶大学院人間科学研究科に人間科学専攻修士課程増設 ▶文教大学学園幼稚園を文教大学付属幼稚園と名称変更
平成19年	2007年	▶大学院に教育学研究科修士課程設置
平成20年	2008年	▶人間科学部に心理学科増設 ▶国際学部国際コミュニケーション学科を国際理解学科、国際関係学科を国際観光学科と名称変更
平成22年	2010年	▶文教大学に健康栄養学部管理栄養学科設置
平成24年	2012年	▶大学院言語文化研究科に博士(後期)課程増設
平成26年	2014年	▶情報学部を改組し、情報社会学科、メディア表現学科増設 ▶文教大学に経営学部経営学科設置
平成27年	2015年	▶大学院に国際学研究科修士課程設置
平成29年	2017年	▶文学部に外国語学科増設
令和2年	2020年	▶教育学部に発達教育課程増設
令和3年	2021年	▶国際学部・経営学部・国際学研究科を東京都足立区へ移転 東京あだちキャンパスとして開校

各キャンパス

文教大学

越谷キャンパス

埼玉県越谷市南荻島 3337

教育学部／人間科学部／文学部／教育学研究科  
人間科学研究科／言語文化研究科  
専攻科／外国人留学生別科



湘南キャンパス

神奈川県茅ヶ崎市行谷 1100

情報学部／健康栄養学部  
情報学研究科



東京あだちキャンパス

東京都足立区花畑 5-6-1

国際学部／経営学部  
国際学研究科



文教大学附属中学校・高等学校  
文教大学附属幼稚園

旗の台キャンパス

東京都品川区旗の台 3-2-17



文教大学附属小学校

石川台キャンパス

東京都大田区東雪谷 2-3-12



学校長



大学 学長  
中島 滋



中学校・高等学校 校長  
銅谷 新吾



小学校 校長  
島野 歩



幼稚園 園長  
保田 昇

[1]学園の中期経営計画について

文教大学学園は、中期経営計画として2009年から学園経営戦略「第1次中期経営計画(2009-2012)」、「第2次中期経営計画(2013-2016)」、「第3次中期経営計画：文教アクションプラン2021(2017-2020)」を3期12年にわたり着実に実行してまいりました。そして、新たな中期経営計画となる「第4次中期経営計画：『BUNKYO ACTION PLAN 2025』(2021-2024)」を2021年度に策定し、2022年度から本格的に実行してまいります。

学園経営戦略『BUNKYO ACTION PLAN 2025』策定の背景

昨今の社会情勢は、18歳人口の急激な減少期への突入やグローバル化・IT化・AIの進歩等の様々な大きな変化に加え、新型コロナウイルス感染症の流行により、学校法人の運営に大きな影響を及ぼしてきました。この教育機関を巡る環境の大きな変化によるこれまでにない他校との競争激化の中で、「将来の学園のあるべき姿、そこに到達するための道筋を主体的に描く工程表」の重要性が更に高まり、学校法人がより社会からの信頼と支援を得ていくために、中期経営計画を通して、社会に対し、学園の目指す方向性や具体的計画等を明示することが強く求められています。

学園経営戦略『BUNKYO ACTION PLAN 2025』の実行

『BUNKYO ACTION PLAN 2025』の構造は、第3次において実行した「各校の改革の実質化を図るために、各校の主体性を重視し、各校における具体的な目標や事業計画(アクションプラン)を主体となる各校が策定・実行、経営は組織や財政、教育環境等の面で各校を下支える構造」の枠組みを踏襲しながらも、浮かび上がった各種課題を改善し、より教職員が主体的に推進できる計画としています。学園のミッションは「人間愛の教育」、長期ビジョンは「教育カトップを目指す」で、4年後の目標は「総合学園の維持・発展：ていねいにたくましく育てる文教を実践し、トップクラスの教育機関を実現する」、達成指標は「学習者1万人以上、学習者の満足度90%以上」です。この学園の達成指標を実現するために、各校単位で4年後の目標と達成指標を掲げ、カテゴリーごとに「4年後の具体目標」を示し、「アクションプラン、具体的な取り組み内容、実施スケジュール、ワーキンググループ設置の有無、実行体制、各アクションプランの達成指標」を策定しています。

『BUNKYO ACTION PLAN 2025』のビジョンマップは次ページの通りです。

「BUNKYO ACTION PLAN 2025」の詳細は、以下URLよりご確認ください。  
[https://www.bunkyo.ac.jp/academy/information/action\\_plan2025/](https://www.bunkyo.ac.jp/academy/information/action_plan2025/)

学園及び各校の【4年後の目標】

学園・各校	4年後の目標
学園	総合学園の維持・発展
大学	学生が成長を実感できる大学
附属中学校・高等学校	『人間愛』の精神を育み、グローバルな社会・ボーダレスな社会で活躍できる人間の育成
附属小学校	「ふるさとのような学校」において世界に羽ばたく国際人の育成
附属幼稚園	満足度が高い選ばれる幼稚園

BUNKYO ACTION PLAN 2025 ビジョンマップ

ミッション  
Mission

# 『人間愛』の教育

長期ビジョン  
Vision

# ～教育力トップ

4年後の目標

## 総合学園の維持・発展

「ていねいにたくましく育てる文教」を実践し、  
トップクラスの教育機関を実現する

達成指標

### 大学

4年後の  
目標

学生が成長を実感できる大学

達成指標

学生生活の満足度向上、  
実志願者数7,000人の確保

### 中学校・高等学校

4年後の  
目標

『人間愛』の精神を育み、  
グローバルな社会・ボーダレスな  
社会で活躍できる人間の育成

達成指標

- 生徒・保護者の本校への  
入学満足度90%の達成
- 難関大学合格者130人以上の達成

### アクションプラン

#### 重点事業

○大学認知度の向上とアイデンティティの醸成 **A101 A102**

#### 学生募集

○志願者・入学者の安定的な確保 **A103 A104**

#### 教育

○質の高い教育の実施 **A105 A106 A107**

#### 研究

○研究体制の充実 **A108 A109 A110**

#### 学生支援

○充実した学生生活の提供 **A111 A112 A113 A114**

#### 付属学校

○総合学園としての発展 **A115**

#### 地域社会貢献

○大学と地域との連携による学内の活性化 **A116 A117**

#### 国際交流

○国際交流の活性化 **A118 A119**

### アクションプラン

#### 募集・広報

○入学者の質と量の確保 **B101**

#### 教育

○生徒の学力向上 **B102 B103 B104 B105**

#### 研究

○教員の指導力向上 **B106 B107**

#### 生徒生活

○礼儀と規律ある生徒の育成 **B108 B109 B110**

#### 進路・キャリア

○更なる進学実績の向上 **B111 B112 B113**

#### 地域・社会連携

○『人間愛』の精神の育成 **B114 B115 B116**

#### 国際交流

○海外研修プログラムの推進 **B117 B118**

### 経営・管理

### アクションプラン

#### 組織

○変化に対応できる組織力の強化

**K101 K102 K103**

# を目指す～

学習者1万人以上、学習者の満足度90%以上

## 小学校

4年後の  
目標

「ふるさとのような学校」において  
世界に羽ばたく国際人の育成

達成指標

- 倍率3倍以上の安定した志願者の確保
- 在校生並びに保護者の満足度90%以上の達成

## アクションプラン

### 募集・広報

- 倍率3倍以上の安定した志願者の確保 **C101 C102 C103**

### 教育

- Society5.0時代を生き抜く人材育成
- 21世紀型スキルとしてのSTEAM教育の推進

**C104 C105 C106 C107**

### 研究

- 1時間ごとに成長できる学校「深い学び」の推進
- 文教大学付属小学校型アクティブラーニングの確立

**C108 C109**

### 児童生活

- 人間愛あふれる「文教っ子八か条」に基づく豊かな教育の実践と推進

**C110 C111 C112**

### 進路指導

- 一人ひとりの夢を実現させる進路指導

**C113 C114 C115**

### 保護者・社会連携

- 学校教育と家庭教育の連携
- 地域に貢献し地域に愛される私立小学校としての確立

**C116 C117 C118**

### 国際交流

- オーストラリア短期留学の充実 ○ 外国語教育の充実

**C119 C120**

## 幼稚園

4年後の  
目標

満足度が高い選ばれる幼稚園

達成指標

募集定員60人の安定確保

## アクションプラン

### 募集・広報

- 安定した入園者の確保 **D101 D102 D103 D104 D105**

### 教育

- 素直で明るい元気な子どもの育成 **D106 D107 D108**

### 研究

- 新幼稚園教育要領に則したカリキュラム作り **D109 D110 D111**

### 園児生活

- 遊びを通して“生きる力の素”を育む **D112 D113 D114**

### 進路支援

- 付属小学校及び希望する小学校への進学実現

**D115 D116 D117**

### 保護者・地域連携

- 保護者との連携強化・地域に根ざした幼稚園の確立

**D118 D119 D120**

### 財政

- 強固な財政基盤の確立

**K104 K105 K106 K107 K108**

### 教育環境

- 競争力を持った教育環境の整備

**K109 K110 K111**

### 学園ブランド

- 学園ブランドの強化

**K112 K113**

## [1] 主な事業の目的・計画

## 学園経営戦略

## 学園経営戦略に関する事業

- ①寄附金事業の推進
- ②リスク管理対応体制の強化事業
- ③校友会活動の推進事業
- ④戦略的広報活動の展開
- ⑤越谷キャンパス新棟建設工事
- ⑥越谷・旗の台キャンパス 電話交換機等 設備一式更新工事
- ⑦湘南キャンパス 昇降機(エレベーター)更新工事

## 文教大学・文教大学大学院

## 当該年度の教育目標

建学の精神である「人間愛」を基盤に、人と人との絆を大切にしながら社会に貢献できる人材を輩出するべく、入学時の初年次教育から卒業時の卒業研究等に至る4年間を通じて、全ての学生に目が届ききめ細かい教育を行います。また、引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、本学の教育課程を実行します。

## 主な事業計画

## 当該年度の教育活動に関する事業

- ①入学前教育
- ②初年次教育
- ③学修成果可視化システムの試行
- ④担任制度とオフィサー制度
- ⑤キャリア形成支援
- ⑥国際交流事業の推進
- ⑦第3期認証評価に向けた対応
- ⑧各学部における取り組み
- ⑨大学院における取り組み
- ⑩専攻科における取り組み
- ⑪外国人留学生別科における取り組み

## 当該年度の研究活動・支援事業

- ①外部研究費(科学研究費補助金等)の獲得支援
- ②学内の競争的資金
- ③学術図書出版助成
- ④在外研究の支援

## 当該年度の学習者支援事業

- ①奨学金、奨励金及び授業料減免による学生への支援
- ②障がいのある学生への支援
- ③「100円朝食」の実施
- ④海外留学希望者に対する支援
- ⑤アジアからの協定校交換留学生に対する住居費補助
- ⑥キャリアイングリッシュ講座(東京あだちキャンパス)
- ⑦バス通学定期券等購入代金補助事業(湘南キャンパス)
- ⑧学生向け資格取得講座の開催

## 当該年度の保護者連携事業・地域連携事業

- ①地域、行政、企業と大学の連携・協力
- ②学部・研究科の教育・研究と結びつけた地域連携の取り組み

- ③高大連携の取り組み
- ④地域連携センターによる講座
- ⑤保護者との連携
- ⑥大学間の連携・協力

## 校舎施設整備の改善事業

- ①越谷キャンパス新棟建設工事
- ②湘南キャンパス昇降機(エレベーター)更新工事

## 入試制度、募集強化事業

- ①大学入学者選抜改革への対応
- ②募集強化計画の実施
- ③入試情報Webサイトの更なる改善
- ④全国入試成績優秀者に対する特待生制度の実施

## その他

- ①海外日本語教育インターン派遣プログラム援助金
- ②教員免許状更新講習
- ③図書館電子情報資料整備事業計画
- ④「文教生国際交流アンバサダー制度」の実施
- ⑤教育研究系情報システム
- ⑥新型コロナウイルス感染症への対応

## 文教大学付属中学校・高等学校

## 当該年度の教育目標

教育目標で掲げる「慈愛の心」「輝く知性」「世界に飛翔する力」の育成を進めます。具体的には、中学生には自立心を育てること、高校生にはグローバルな視点を持って将来の「自分像」が描けることを目標とします。また、生徒が希望する進路実現のため、「進学力」の向上を目指します。

## 主な事業計画

## 当該年度の教育活動に関する事業

- ①文教ステーション(Bステ)・各種講習・学習合宿の実施
- ②キャリア教育の充実
- ③タブレットPC活用の推進
- ④自立心を育てる
- ⑤オーストラリアへの短期研修・中長期留学とセブ島への語学研修の推進
- ⑥台湾修学旅行と台湾の大学進学へ

## 当該年度の研究活動・支援事業

- ①教員の授業力の向上
- ②進学実績の向上
- ③ICT機器の活用

## 当該年度の学習者支援事業

- ①「JETプログラム」による外国語(英語)指導助手の活用
- ②外国人英語講師の幅広い活用
- ③プログラミング教育の推進

## 当該年度の保護者連携事業・地域連携事業

- ①保護者アンケートの実施と学年便りの配布
- ②地域における生徒のボランティア活動

### 校舎施設整備の改善事業

- ①優れた学習環境の整備

### 入試制度、募集強化事業

- ①学校説明会の積極的な実施
- ②多様なニーズに応えた入試形態の設定
- ③魅力ある広報活動の実施
- ④生徒募集活動の成果分析の実施

### その他

- ①生徒指導上の留意点について
- ②新型コロナウイルス感染症への対応

## 文教大学附属小学校

### 当該年度の教育目標

- 「慈愛の心をもった子ども」「自ら学ぶ子ども」「情操豊かな子ども」「頑張る子ども」「明朗な子ども」の育成
- ・一人一人の可能性を大切に育み、一人一人が輝ける学校へ
  - ・「教えられる学校」から「学びを創る学校」へ
- 子どもたちが自分自身の思考において活動する能動的な学びを創ります。
- ・いついかなるときも、学校と子どもと家庭がつながり、学びを止めない、学び続けることのできる「強い学校」を創ります。

### 主な事業計画

#### 当該年度の教育活動に関する事業

- ①文教大学附属小学校におけるICT教育の推進
- ②国際社会で活躍する人材の育成：英語力の強化
- ③「全館図書館」のメリットを生かし、「読む力」「書く力」の言語力を強化
- ④プログラミング教育の充実
- ⑤知的能力を高める体験活動の充実
- ⑥自分の考えを明確にもち、交流により考えを深めていける人材に！  
【深い学びへ】～「文教大学附属小学校型アクティブラーニング」の構築 本校独自の年間指導計画・単元ごとの評価規準の充実と活用～
- ⑦指導体制の工夫による個に応じた指導
- ⑧基礎・基本の確実な定着
- ⑨多様な学習展開による学ぶ意欲の高揚
- ⑩日常的な運動継続による体力向上
- ⑪縦割り行事や全校自然体験学校の取り組みによる豊かな心の醸成
- ⑫「オーストラリア短期留学」の実践
- ⑬アフタースクールとの連携
- ⑭自然学校における自然体験の充実

#### 当該年度の研究活動・支援事業

- ①自分の考えを明確にもち、考えることが楽しめる人材の育成  
研究主題「学びの深化を目指して 自ら問い続ける子どもを育てる」  
文教大学附属小学校型アクティブラーニング」
- ②外部研修への積極的な参加と成果の共有・還元
- ③日常的な教材の研究と準備

### 当該年度の学習者支援事業

- ①系統的なキャリア教育
- ②個に応じた補習活動
- ③適切な進路指導
- ④一人一人の「夢に向かう進路指導」

### 当該年度の保護者連携事業・地域連携事業

- ①保護者参画による行事等
- ②年間を通じた保護者による参観や面談
- ③地域連携強化による防災
- ④協力・支援を生かす同窓会

### 校舎施設整備の改善事業

- ①ICT教育環境の整備

### 入試制度、募集強化事業

- ①広報活動の充実と応募者増への戦略
- ②学校説明会の充実
- ③学校外説明会の充実

### その他

- ①「人間愛」あふれる文教っ子 大切な八か条
- ②文教っ子スタンダード
- ③防災意識の向上
- ④新型コロナウイルス感染症への対応

## 文教大学附属幼稚園

### 当該年度の教育目標

- 学園の建学の精神「人間愛」のもと、「素直で明るい元気な子ども」を教育目標として掲げ、教職員一丸となって子ども達を育みます。
- ・元気に挨拶ができ、正しい生活習慣を身に付けた子ども
  - ・慈愛・感謝の気持ちや思いやりの心を持ち、感じたことを素直に表現できる子ども
  - ・自分の役割を果たすとともに、自分のことは自分でやろうと努力する子ども
  - ・好奇心が旺盛で、自ら積極的に行動できる子ども

### 主な事業計画

#### 当該年度の教育活動に関する事業

- ①新しい幼稚園教育要領の趣旨を生かしたカリキュラムづくり
- ②様々な「遊び」の中で、組織的かつ計画的に教育課程を実践し、“学ぶ、をあそぼう。”の具現化
- ③「遊び」「運動」「行事」「生活」等の活動を工夫した、生きる力の土台を広げる教育のさらなる推進
- ④動植物と触れ合う機会を増やし、自然の変化を肌で感じたり命の大切さを実感したりする活動を通じた、豊かな感性の育み
- ⑤コロナ禍での園行事制限下でも工夫を凝らした教育活動

#### 当該年度の研究活動事業

- ①品川区特別支援教育・巡回相談員の助言・指導を効果的に利用した、個々の園児の課題に対応した指導及びそれを踏まえた保護者との連携
- ②品川区私立幼稚園協会・東京都私立幼稚園連合会研修会への参加による教員の資質向上

③Webを利用した研修会・講演会等の積極的な利用

#### 当該年度の学習者支援事業

- ①「目標とする力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が身につく計画的な教育活動の実践
- ②真の学び力の育成
- ③付属小学校との連携及び保護者への積極的情報提供
- ④「文教幼児教室（課外活動として実施している外部業者による学習支援プログラム）」との連携

#### 当該年度の保護者連携事業・地域連携事業

- ①保護者との連携方法の工夫
- ②保護者と連携した諸行事の円滑な実施と品川区私立幼稚園「保護者教職員連合会」の諸行事への協力
- ③地域や家庭のニーズの把握と必要な対策の実施
- ④未就園児保護者との連携及び保護者同士の交流のための「ぶんぶん広場」の充実
- ⑤共働き保護者を対象とした預かり時間延長の推進

#### 校舎施設整備の改善事業

- ①園舎の施設設備機能の有効活用
- ②園児の目線に立った施設設備の整備

#### 入試制度、募集強化事業

- ①ホームページの精査と募集力強化
- ②保護者のニーズとのミスマッチの防止
- ③タイムリーな情報を発信できる動画やブログの有効活用
- ④プレスクール実施内容の工夫

#### その他

- ①「文教幼児教室」との募集方法、連携の仕方を工夫
- ②保護者の満足度を高める教育活動の充実
- ③新型コロナウイルス感染症への対応

## その他の施設（八ヶ岳寮）

### 主な事業計画

- ①八ヶ岳寮の運営

## [2]進捗状況

### 学園経営戦略

#### 学園経営戦略に関する事業

##### ①寄附金事業の推進

2021年度は、文教大学学園の各校（幼稚園、小学校、中学校・高等学校、大学）の就学支援・教育振興に資することを目的とした「文教サポーターズ募金」の募集を行い、577件、20,186,742円の寄附をいただきました。そのうち、2020年度に始めた新型コロナウイルス感染症対策学生支援にも、278件、4,872,000円と多くの寄附をいただき、当該学生の支援に充てました。また、2021年4月に開設した文教大学新キャンパスの環境充実にご協力いただく「東京あだちキャンパス開設募金」の募集も行き、募集最終年度となる2021年度は、229件、6,871,000円の寄附をいただきました。今後も、新規寄附金事業の策

定も含め、強固な寄附金募集体制の確立を推進していきます。

##### ②リスク管理対応体制の強化事業

大規模地震発生時の危機管理対応能力の強化のために、以下の施策を実施しました。

- 1) 大規模地震対応マニュアル周知訓練の実施  
新任職員を対象に、大規模地震対応マニュアルの周知訓練（参加者6名）を実施しました。
- 2) 第一次駆けつけ要員実地訓練の実施  
2021年4月に開設した東京あだちキャンパスの災害時の初動対応を強化すべく、「東京あだちキャンパス」が参集場所となっている事務職員管理職者を対象（対象者11名）に訓練を実施しました。
- 3) 災害備蓄品の整備・拡充  
想定残留者5,200名（越谷1,900、湘南630、あだち700、旗の台1,620、石川台350）が3日間滞在するために必要な災害備蓄品を整備する「備蓄品整備計画」を作成し、2012年度から実行中です。2021年度は、東京あだちキャンパスを新たに加えた「備蓄品整備計画」に基づき、備蓄品の整備を進めました。また、東京あだちキャンパスにおいては、災害時の対応ができるよう発電機やランタンといった備品を新規購入いたしました。

##### ③校友活動の推進事業

学園から卒業生に向けて積極的に情報発信を行うことにより、卒業生との連携強化を図りました。2021年8月下旬に文教大学学園校友会報『あやなり』第8号を発行し、幼稚園から大学院までの全卒業生約87,000名宛に送付し、これと連動したWebサイト「あやなり.web」も最新情報に更新しました。『あやなり』第8号では、2021年4月に開設した文教大学東京あだちキャンパスの誌上ツアーと、新型コロナウイルス感染症に対する各校の対応を特集で紹介しました。『あやなり』に同封したアンケートは約400通の返信があり、登録情報の変更や内容に対する貴重なご意見・ご感想をお寄せいただいたので、今後の活動に生かしていきます。

##### ④戦略的広報活動の展開

戦略的広報活動の展開として、「東京あだちキャンパスをキーとした新しい「文教大学」の広報展開」「受験生ニーズに応える募集支援広報の重点化」「効果的かつ戦略的な広報活動に向けた基盤整備」の3点を中心に行ってまいりました。

・東京あだちキャンパスをキーとした新しい「文教大学」の広報展開  
東京あだちキャンパスの広報展開計画（2017～2022年度）に沿って、伝えたい内容（東京あだちキャンパス開設、国際学部と経営学部、立地場所等）と対象の重点化を行ったうえで、広報を実施しました。2020年度に実施ができなかったオープニングイベントの代替えに関しては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施を見送りました。

・受験生ニーズに応える募集支援広報の重点化  
学園各校の志願者確保に向けた募集活動において、受験生ニーズに即した募集支援広報として、これまで実施してきたマス媒体や各種広告媒体を用いたプロモーション活動を継続しました。それとともに、ホームページへの流入先として適したLP（ランディングページ）の作成（Webオープンキャンパス等）や動画コンテンツの制作によるSNSやWeb広告を通じて情報発信を行いました。特に、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からも各校ホームページの充実には重要な意味を持つため、今後も継続して情報発信やWebコンテンツの充実を図ってまいります。

・効果的かつ戦略的な広報活動に向けた基盤整備

効果的かつ戦略的な広報活動を実施するにあたり、2019年度から各校に配置した「広報連絡員」により、各校の情報素材の掘り起こしや情報伝達を活発にすることで、情報発信量を増やす計画としています。2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、各校の情報素材の掘り起こしがあまり出来ませんでした、取り扱える情報素材の発信を丁寧に行いました。

### ⑤越谷キャンパス新棟建設工事

越谷キャンパスに講義室棟を新たに建築し、「新たな教育の展開」及び「授業運営の支障緩和」を図ることを目的として、「(仮称)文教大学越谷キャンパス新棟建設工事」を2020年度より3年間計画で実施しています。2021年度は、2020年度に作成した実施設計に基づき、計画通り建築工事を進めました。2022年7月上旬に全体竣工を迎える予定です。

### ⑥越谷・旗の台キャンパス 電話交換機等 設備一式更新工事

越谷・旗の台キャンパス電話交換機設備老朽化に伴い、部品の製造中止等による修理部品等の確保も困難な状況となったため、更新工事を実施しました。今回の更新工事実施により、突発的な故障リスクが低減され、利用者及び管理者の不安も解消され、安定した学校運営の継続が可能となりました。また、電話交換業務をこれまでの越谷・湘南・旗の台の3拠点から、旗の台キャンパス1拠点に集約することにより、電話交換業務委託費を削減させることも可能となりました。

### ⑦湘南キャンパス 昇降機(エレベーター)更新工事

湘南キャンパス事務棟昇降機について、油圧式からロープ式へと構造を変更する工事を実施しました。工法は、従来の「全撤去リニューアル工事」から、工事費用の低減及び工事期間の短縮が可能という利点がある他、ハツリ等による騒音・振動が発生する躯体改修工事を伴わない「制御リニューアル工事」で実施しました。今回の更新工事により、新安全基準に対応し、利用者の安全性を高めることができました。

## 文教大学・文教大学大学院

### [1]当該年度の主な事業内容

#### 当該年度の教育活動に関する事業

#### ①入学前教育

##### ア. 教育学部

学校教育課程においては、各専修の専門性に応じた課題、課題図書、問題集等を提示し、レポートや作品、解答を提出させました。発達教育課程においては、課題図書を提示し、レポートを提出させました。また、一部の専修では、自由課題として、在籍する高校で教師の仕事を経験する「教師1日体験」を課しました。

##### イ. 人間科学部

1) 人間科学科では、各コースの学びに関係する課題図書3冊中1冊を読み、内容を要約したうえで意見をまとめてレポートを作成させました。また、大学生活を送るうえでの抱負も記述させました。

2) 臨床心理学科では、まず学科のホームページにアクセスし、学科の学びの様子を確認させました。さらに、各教員の推薦図書の中から3冊を読み、内容を要約したうえで意見をまとめてレポートを作成させました。

3) 心理学科では、学科教員が中心となって執筆した入学後のテキスト『日々の生活に役立つ心理学』を読み、関心のある章のワーク1つを選択して、レポートを作成させました。また、大学生活を送るうえでの抱負も記述させました。

4) 人間科学科と心理学科では、上記のレポートを大学に送付させ、各学科教員がコメントをつけて返却しました。

5) 3学科共通で、英語力を養成する3コース、国語力を養成する2コース、コミュニケーション力を養成するコース、そして数学的思考力を養成するコース(データサイエンス入門)の7つの学びから1つを選択し自主的に学習を進めることを推奨しました。

##### ウ. 文学部

1) 日本語日本文学科では、古典文学・近代文学・日本語学等の6つの分野ごとに数冊ずつ提示された課題図書から1冊ずつを選んで計6冊を読み、内容に関するレポートを提出させました。担当教員が確認したうえで、必要に応じて添削・コメントを付すなどして返却しました。

2) 英米語英米文学科では、2つの課題を用意しました。1つ目は、推薦図書リストの中から1冊以上を読み、要旨と自分の意見をレポートとしてまとめさせました。2つ目は、Net Academy Nextを利用した英語の自主学习で、指定のユニットを受講し、学習記録を作成して提出させました。それぞれ提出物は担任が確認し、コメントを付けて返却しました。

3) 中国語中国文学科では、課題図書リスト中の興味のあるテーマの書籍1冊について、レポートを作成させました。入学後、研究基礎演習の時間を活用して本人にコメントしました。

4) 外国語学科では、Net Academy Next (TOEIC®L&Rテスト500点突破コース) Part1~Part7 (Unit1~28) に取り組み、受講記録シートを提出させました。また、2年次春学期必修の「短期留学」の準備の一環として、6カ国(米国、カナダ、アイルランド、マレーシア、ニュージーランド、オーストラリア)の中の8ヶ所の留学先の国と学校について調べ、英語(600~800ワード)か日本語(2,400~3,000文字)でレポートを書き提出させました。

##### エ. 情報学部

1) 情報システム学科及び情報社会学科では、SNSから課題を提示し、解答を提出させました。解答は学科教員により採点が行われました。また、情報システム学科では、数学プレースメントテストの結果を踏まえ、DVD講座(数学力・言語理解力)の学習を促しました。

2) メディア表現学科では、総合型選抜入試及び学校推薦型選抜入試の入学予定者に対して、入学前教育を実施しました。約70名の入学予定者へ課題指示書を郵送し、指定した図書の読後感をレポートにして作成させ、3月末の新入生オリエンテーション時に提出させました。

##### オ. 健康栄養学部

1) 合格者全員への必須課題として、①レシピの作り方と自分自身の食事記録をレポートにまとめる課題、②包丁の使い方に関する練習課題、③「食べること」を学ぶための英単語和訳を課しました。課題は入学後に提出させて担当教員から指導を行いました。

2) 高等学校までの数学、化学、生物の基礎力に不安がある学生を対象に、通信講座(DVD及びWeb授業)の学習を促しました。

3) 合格者全員を対象にZoomによる入学前スクーリングを実施しました。その中で学部の概要と管理栄養士についての説明や、大学での勉強の仕方・教科別学習のポイント解説を実施し、在学生がファシリテーターを務めてのグループ別交流会も行いました。

##### カ. 国際学部

1) 新入生に対する入学前教育の一環として、総合型選抜入試・学校推薦型選抜入試による入学予定者を対象に、オリジナルのWebベース教材による学習を課し(英語・数学・学科別課題)、入学後に添削指導を行いました。

2) 総合型選抜入試・学校推薦型選抜入試による入学予定者に対しては、1年生必修科目「国際学入門」のテキストである学部教員による著書『私たちの国際学の学び』(新評論)を事前に配布し、授業の予習とともに大学での新たな学びの準備を図りました。

##### キ. 経営学部

例年実施している内容について、Webを活用し以下のとおり実施しました。

1) 英語学習として、Net Academyの「道場単語ランキング」のインターネット学習を促しました。

2) 経営学にかかる基礎的知識を修得させるため、経済・経営のキーワードについて調べてもらう自主学习講座を実施しました。

3) 経営学部における「学び」の準備として、大学での学修について理解してもらう自主学习講座を実施しました。

#### ②初年次教育

各学部の特色を活かした初年次教育を実施しました。

##### ア. 教育学部

1年次開講の必修科目「基礎演習」において、大学での学習・研究を進めて

いくつか必要な知識や技能を身につけるため、まず大学での学びの意義について高校の学習との比較を行いました。次に、大学での主体的な学修・研究を進めていくために求められる「書くこと」「読むこと」「調べること」「発表すること」「話し合うこと」等について話し合いを通してしっかり捉え直させました。図書館の利用・活用方法、プレゼンテーションの方法、レポートの書き方等も指導し、最終的に大学生として必要な基準を満たすレポートを作成できるようにしました。なお、2021度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部オンライン授業を行いました。

#### イ. 人間科学部

1年次開講の必修科目「人間科学の基礎」において、大学における学びの意義と指針、図書館の利用・活用方法、情報や資料の収集方法、レジュメやレポートの作成の仕方、プレゼンテーションやディスカッションの方法等を、オンライン授業により指導しました。これにより、人間科学部で学ぶために必要な問題意識を高め、専門的な学修へのスムーズな導入を図りました。

#### ウ. 文学部

1年次開講の必修科目「研究基礎演習」(英文語英米文学科は「英語研究基礎演習」)において、大学生に必要なリテラシーの育成に努めました。大学で学ぶことの意義とその内容理解を始めとし、大学の授業におけるノートテイキング技法、図書館の利用・活用の方法やレポート・論文の書き方を学び、プレゼンテーション・ディベートの訓練を行う等、少人数の演習形式でスタディスキルの習得を行いました。オンライン・ハイフレックス授業となった2021年度も、この科目は対面形式の授業が主となり、さらにmanaba(学習管理システム)を活用したり、双方向的な授業を実施するなどして、例年と変わらない効果を上げられました。例年実施している、外国語学科の「EnglishCamp」(2日間英語のみで過ごす)という新入生合宿は、新型コロナウイルス感染症拡大により延期(2022年度秋学期実施予定)となりました。日本語日本文学科の1年次必修科目「日本文化研究」(こちらもmanaba(学習管理システム)で開講)の総まとめとしての1泊2日の研修旅行も中止しましたが、研究結果の報告冊子は例年通りのものを作成し、評価用紙・質問用紙等を準備したうえで、研究発表会部分はオンラインで行いました。

#### エ. 情報学部

2020年度に引き続き、1年次開講の必修科目「基礎演習A・B」及び「文章演習」「文章演習II」において初年次教育を行いました。具体的内容は学科によって異なりますが、大学での学びに必要な基礎的スキルや、日本語での論理的コミュニケーション能力を身につけることを目的に、小規模クラス編成での指導を行いました。また、目的養成系学部ではない情報学部では、各自が早くから自分の将来像を明確化したうえで自らの学びを設計することが大切です。これらの初年次教育科目では、そうした能動的な学習姿勢を涵養することも心がけました。全学部共通化を指向した教育プログラムの開発については、検討継続中です。

#### オ. 健康栄養学部

学内での昼食会を通して、入学当初から新入生同士、教員及び在学生とのコミュニケーションを深めることを計画していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止しました。また、専門科目の基礎となる「化学」について、オリエンテーション時にプレースメント試験を実施し、新入生の習熟度を確認しました。例年習熟度を確認した後、対象者を選定して学習支援室を用いて少人数制の授業を行っています。2021年度は密を避けるために対象者を2クラスにわけて広い実習室にて対面講義という形で実施しました。健康栄養学部として必要と考える項目を絞って12回の授業を2クラスで行いました。

#### カ. 国際学部

1年次開講の必修科目「新入生ゼミナール(春学期)」及び「基礎ゼミナール(秋学期)」を通して、通年にわたって基礎的なアカデミック・スキル修得に向けた指導を行いました。また、入学後の適応教育の一環として、4月上旬に1年生全員が新入生ゼミナール担当教員及び上級生のリーダー学生(約30名)とともに参加する「新入生交流会」をオンライン方式で実施し、教員・学生間のコミュニケーションを深め、大学生活への適応機会としました。

#### キ. 経営学部

初年度教育・適応教育の一環として毎年実施している新入生合宿は、新型コロナウイルス感染症防止のため、昨年度に引き続き、残念ながら中止としました。予定していた大学初年次への円滑な移行教育は通常の課程の中で実施しました。また、カリキュラムに盛り込まれている初年次教育の内容や授業実施体制を確認しました。

#### ③学修成果可視化システムの試行

ディプロマポリシーに対する学生個々の到達状況の判定や、より効果的な学生指導に資するための学修成果アセスメントシステム試行的導入に向けた検討を行いました。

#### ④担任制度とオフィサー制度

各制度について、文教大学ホームページや学生に配付する各印刷物に掲載して周知を行ったうえで継続して実行しました。ただし、2021年度においては新型コロナウイルス感染防止のため、各キャンパスに登校する学生が限られ、オフィサー制度は十分に機能させることができなかったため、2022年度においてはコロナ禍における学生支援の方策について改めて検討し、実行します。

#### ⑤キャリア形成支援

専門分野に対応したキャリア形成支援のための科目を各学部が開設した他、越谷及び東京あだちキャンパスの共通教育(教養)科目にキャリア形成を考える科目を開設しました。正課内外の授業及び取り組みにより、学生が職業観を身に付け、自らの職業を考えられるよう支援しました。これにより学生が各自の目標で社会への第一歩を確実に踏み出せるよう、就職活動支援の取り組みを強化しました。

2022年3月卒業生就職者の内訳は、【全キャンパス】教員25.7%、公務員6.1%、企業68.2%【越谷キャンパス】教員39.8%、公務員8.0%、企業52.2%【湘南キャンパス】教員0.3%、公務員3.0%、企業96.7%【東京あだちキャンパス】教員6.8%、公務員3.2%、企業90.0%でした。越谷キャンパスでは、低学年の学生を対象に各志望分野別(教員、企業、公務員、幼稚園教諭・保育士)に分けて、オンデマンドによる基礎ガイダンスを開催しました。3年生からは、具体的な4つの志望分野別(①教員、②企業、③公務員、④幼稚園教諭・保育士)に絞り各種ガイダンス、対策講座(一部有料)、面接講座、業界・仕事入門セミナーを主に実施しました。

湘南・東京あだちキャンパスは合同で学生支援を計画実施し、主に、毎週水曜日3時限目に3年生の企業就職希望者を対象としてガイダンス、業界研究、面接対策講座、各種講習・講座を実施しました。また、教員採用試験、公務員試験に向けた対策講座(一部有料)を希望者向けに開講しました。2020年度に続き、2021年度も一部を除く多くの行事を新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンラインで実施しました。オンラインでの実施については、その利によりキャンパスをまたぎ全キャンパスの学生に参加を募り支援を実施しました。

#### ◆全キャンパスでの取り組み

##### 面接対策合宿

3年生を対象に2日間の面接対策合宿(通い合宿)を実施しました。2021年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から宿泊ではなく、感染防止対策をとったうえで、東京あだちキャンパスを利用した集中研修としました。会場を東京あだちキャンパスとしたので、越谷キャンパスの学生も参加しました(参加者83名)。合宿では6~7名のグループに分かれて企業の人事担当者からマナー、集団・個人面接対策、グループディスカッション対策等を実践の中から習得しました。参加者は、事前研修の受講の他、面接練習で利用する履歴書の添削指導を夏期休暇中に受け、下準備をしたうえで合宿に臨み効果を上げました。さらに、1回の事後研修を実施し、各自の課題解決への取り組み状況を確認し、引き続きの研鑽を促しました。コロナ禍において対面でのコミュニケーションに自信を持てていなかったことから、多くの参加学生から対面での実施に感謝する声が上がりました。合宿の実施にあたっては、学生1人当たり14,000円の費用がかかりますが、そのうち12,000円を大学が負担し、学生の自己負担は2日分の昼食費用2,000円としました。なお2021年3月卒業の合宿参加者(2020年度プログラム参加者)の10月時点での就職率は約85%であり、早期内定者、複数内定者が多いことが特徴です。

## 学内業界研究セミナー

学生に業界の理解を促すうえで企業をつなぐ支援行事として、本学学生を採用する意欲の高い企業や団体を中心に学内業界研究セミナーを実施しました。今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、全てオンラインで実施しました。就職活動を目前に控える3年生を対象に当該セミナーを12月から2月にかけて以下の通り実施しました。また、オンラインの利点を活かして、全キャンパスから多くの学生が参加しました。

◇Web学内業界研究セミナー

実施日：2021年12月1日、8日、15日、22日

2022年1月27日、28日、2月3日、15日、16日

セミナーに合計195社(または団体)が集まり、多くの学生が、業界・業種の視野を広げ、就職につなげる良い機会となりました。毎年、当該セミナーをきっかけとして、多くの企業や団体から内定を獲得しています。

## ◆越谷キャンパスでの取り組み

2021年度は個別相談を対面形式だけではなく、本人の希望に応じてオンライン形式と電話を利用し実施しました。ガイダンス、講座、ゼミナール等の各種行事は、原則としてオンライン形式(リアルタイム型、オンデマンド型)で実施し、一部の行事は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策に配慮しながら、対面形式で実施しました。

## 教員就職の支援

豊富な現場経験を持つ「教職専門員」が週3日キャリア支援課に常駐し、教職に関する進路相談や、教員採用試験対策を通して、教員を目指す学生に対する支援に当たりました。教員採用者数の維持とともに、質の高い教員を輩出するために単なる試験対策に留まらない支援を全学年に向けて行いました。キャリア支援課を中心として、就職委員と教職担当者の協力により、採用試験の動向とその対策等をまとめた『教職への道—教採対策の基礎・基本—』を配布しました。

学年別にガイダンスや講座等を実施しました。詳細は以下の通りです。

- 職業体験として近隣の学校現場に赴くボランティア補助教員は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため一部実施を見合わせましたが、実施ができた学校もありました。
- 2年生には「教員就職ガイダンス」を通じて、教職を目指すことの意義や価値、そのプロセスについて解説しました。
- 3年生には筆記対策講座(有料・8~2月)をオンデマンド型で実施しました。「教員就職ガイダンス」にて教員採用試験の概要、攻略法等についての講座を実施しました。オンデマンド型の講座のため、3キャンパスで講座に参加できるように計画し、湘南・東京あだちキャンパスの学生も視聴しました。「教採対策基礎講座」では、自己アピール、論文等の概説を行い、教採対策ゼミ(11~3月)を実施しました。「学内実践ゼミ(2日間対面形式)」は2次試験の実践的な対策、演習を実施し、教員採用試験に向けた士気をより一層高め、各自の具体的な改善、対策を行いました。
- 4年生には「教員就職ガイダンス」において、願書・面接等における志願理由と自己アピールの基本講座、直前ガイダンスをオンライン形式で実施しました。「教採2次対策講座」を実施し、面接や模擬授業対策を行いました。採用試験合否結果確定後に、「先生になるための準備ガイダンス」を正規採用者、非正規採用者に分かれて実施し、4月から教壇に立つうえでの責任と自覚を促しました。

## 企業就職の支援

民間企業経験を持つ進路アドバイザー2名(月~金)と企業担当職員が連携しながら、個別相談を軸に各種支援行事を実施しました。3年生を対象に「NAVIGATOR~road to a job offer(企業就職のてびき)」を配布しました。昨年度に引き続き、感染症対策としてオンライン形式での支援が中心でしたが、一部対面形式での面接講座を実施しました。各企業の選考方法もオンライン面接等多岐に及び、企業ごとに異なる採用方式に対応することが求められているため、キャリア支援課を中心として、学生アンケート結果や社会情勢の変化に応じた支援行事を企画・実行したり、オンラインの利点を生かし湘南校舎、東京あだち校舎と共同で支援行事を実施したりするなど、2021年度も迅速かつ柔軟な対応を実施しました。詳細は以下の通りです。

## ●Web合同説明会・セミナー

各企業の参加を賜り、合同企業説明会をWeb形式で実施しました。従来はキャンパス毎に開催していましたが、Web形式での合同開催により全キャンパスからの参加がありました。

## ●ガイダンス・セミナー等

キャリア支援課を中心として3年生を対象に、「大学で得られる就活情報や活用する方法について」「秋から始める企業就職ガイダンス」「ライフラインチャートで自己分析」「入社後の働き方やキャリアアップとは?」「女子学生の就活とキャリアプラン」「オンライン就活座談会」「匿名参加OK!企業就活質問会」を実施しました。また、外部講師や各企業の協力を仰ぎ、「エントリーシート攻略講座」「地方就職セミナー」「企業人事が語る!採用側の視点とポイント」等を開催しました。さらに、幅広い学年を対象としたプログラムとして、「インターンシップ講座(夏期/秋冬)」「地方就職セミナー」「英語を使った仕事とは?」を実施しました。オンライン形式の強みを生かし、湘南キャンパス・東京あだちキャンパスと合同でも支援行事を実施しました。

## 公務員就職及び幼稚園教諭・保育士就職の支援

筆記試験対策(有料)は、1・2年生対象公務員試験対策基礎講座、3年生対象公務員試験対策(教養コース・教養・専門コース)、3年生対象保育士受験対策講座、志望別模擬試験を実施しました。公務員試験対策は、各学年別に「公務員就職ガイダンス」を実施し、公務員の仕事の内容や受験対策についての講座を実施しました。説明会・仕事入門セミナーとして、「公務員合同説明会」「仕事入門セミナー」(国税官、埼玉県警)「公務員志望者座談会」を開催しました。3月の学内公務員合宿は、対面形式で開催しました。幼稚園教諭・保育士試験対策では、「幼稚園教諭・保育士就職ガイダンス」を中心に、公務員・私立園の就職活動の概要の説明や自己分析、論文、面接の各受験対策を行いました。1・2年生を対象とした「就職ガイダンス」や、全学年を対象とした「卒業生保育士懇談会」、「公務員保育士合格体験報告会」、「私立園合格者交流会」をオンライン形式で開催しました。

## ◆湘南キャンパス・東京あだちキャンパスでの取り組み

### 各種筆記試験・模試の実施

湘南・東京あだちキャンパスについては、3年生を対象に、多様化する筆記試験対策として様々な種類の筆記試験模試を実施しました。なお、オンラインの利点を活かし越谷キャンパスの学生も参加しました。

◇SPIテストセンター型Webテスト模試

実施期間：2021年6月7日~2021年6月16日(利用人数：349名)

2021年10月25日~2021年11月7日(利用人数：377名)

### 筆記試験対策(SPI対策講座)

就職活動を目前に控える3年生が、就職に際しての筆記試験を理解し、継続して筆記試験対策を講じることができるよう、以下のとおり筆記試験対策講座を実施しました。2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から全ての講座をオンラインにて実施しました。対策講座を一定期間継続して実施することにより、継続して学習したい学生への指導体制の充実はもちろん、学習開始が遅れた学生指導も可能な体制を整えました。なお、オンラインの利点を活かし越谷キャンパスの学生も参加しました。

◇筆記試験スタート講座(オンラインライブ)

実施日：2021年10月20日~2021年12月25日(申込者数：429名)

◇基礎計算講座(オンデマンド)

実施期間：2021年5月10日~2021年6月20日(申込者数：277名)

◇筆記試験対策模試解説講座(オンラインライブ)

実施期間：2021年6月23日~2021年8月31日(申込者数：332名)

◇SPI非言語基礎講座(オンデマンド)

実施期間：2021年6月23日~2021年8月31日(申込者数：332名)

◇SPI言語解説講座(オンラインライブ)

実施日：2021年7月14日(申込者数：332名)

◇CAB玉手箱型講座(オンデマンド)

実施期間：2021年7月8日~2021年8月31日(利用人数：333名)

◇筆記試験全般解説講座(オンラインライブ)

実施期間：2021年10月20日~2021年12月25日(申込者数：246名)

- ◇SPI非言語応用講座(オンデマンド)  
実施期間:2021年10月20日~2021年12月25日(申込者数:377名)
- ◇筆記試験直前対策講座(オンラインライブ)  
実施期間:2021年10月20日~2021年12月25日(申込者数:61名)
- ◇SPI対策直前確認講座(オンデマンド)  
実施期間:2022年1月18日~2022年2月28日(申込者数:382名)

#### 面接・自己PR講座

自らの就職へ確固たる信念と高い志を持つ学生に対し、早期対策講座を実施しました。専門講師により約4ヶ月間にわたり、就活テクニックだけではなくキャリア形成意識の醸成を図る伝統講座です。従来は3年生向けの講座でしたが、就活準備の早期化に対応し、2年生から参加可能としました。また新型コロナウイルス感染拡大防止の観点と対面での採用試験への準備のバランスを考慮し、全12コマの講座では、感染防止の対策をとったうえでの対面講座とリアルタイムオンライン講座をバランスよく配置・実施し、19名の参加がありました。2021年3月に卒業した当該講座受講者(2020年度参加学生)の就職率は約95%であり、参加学生の多くが希望する業界の有名企業の内定を受けている他、早期内定者、複数内定者が多いことが特徴です。(受講生自己負担額は10,000円としています)

#### 企業説明会

- ◇Web個別企業説明会  
年間を通して直接的に学生へ企業を繋げるために、1日につき2社までの企業説明会を授業期間中に毎日開催しました。
- ◇Web合同企業説明会  
神奈川県企業団体等の協力を得て、年間を通じて学生の内定状況を確認しつつ機動的に合同企業説明会を開催し、学生と企業とのマッチングの機会を提供しました。

#### 学部学科特化型業界研究セミナー

- 学部学科の特性にマッチした企業を選定し、就職活動前の学生を対象に業界研究セミナーを実施しました。
- ◇Web学内業界研究セミナー(IT・メディア業界)(30社参加)  
実施日:2022年1月12日
- ◇栄養士・管理栄養士業界研究セミナー(12社参加)  
実施日:2022年2月22日

#### 進路相談とキャリアガイダンス連携による支援強化対策

増加している個別相談に対応するため湘南キャンパスに2名のキャリアカウンセラーをおき、そこに加えキャリアフラッグ株式会社から、キャリアガイダンスも対応可能なキャリアカウンセラー3名を湘南キャンパス・東京あだちキャンパスに配置し、対面及びオンラインにより学生対応を行いました。併せて中・小規模ガイダンスの企画と実施にも加わり、キャリアガイダンスとの連携を行いました。専任職員の他にキャリアカウンセラーを常時2~3名配置することが可能となり、進路相談体制の強化へつながっています。キャリアガイダンスの実施と、個別の相談業務を一体化させることで、学生個々に応じた指導の強化、キャリア支援課訪問者の増加、就職内定率の向上につながりました。特に、コミュニケーションを苦手とする学生には好評を得ており、学生の特性に合わせた就職ガイダンスの企画立案に貢献し、成果も上げています。

#### ⑥国際交流事業の推進

2021年度は、国際交流センターが改組された初年度となりました。2020年度以前は、学生への海外への送り出し及び留学生の受け入れ支援の両面を担う組織でしたが、より一層、受け入れと送り出し支援を強化するため、受け入れについては新たに留学生委員会で担い、送り出しは国際交流センターで担う体制となりました。

- 2021年度は、新しく4校の教育機関(インドネシア1校、マレーシア1校、米国1校、カナダ1校)と協定を締結しました。また、新規の協定以外に4校の教育機関(中国2校、韓国1校、ドイツ1校)との協定・覚書の更新を行いました。
- 2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、全ての国際交流プログラムにおいて学生の海外への渡航が中止になりました。一部のプログラムはオンラインプログラム等に変更し、海外研修代替えオンラインプログラムに58名、文学部外国語学科短期留学代替えオンラインプロ

ラムに64名、計122名が参加しました。

#### ⑦第3期認証評価に向けた対応

大学基準協会への2022年度認証評価(大学評価)申請に向け、2021年度版『自己点検・評価報告書』の作成及びそれに必要な根拠資料の収集、及び同協会からの指摘が予想される点の改善等の準備を進めました。

#### ⑧各学部における取り組み

##### ア. 教育学部

1) 教員・教育関係職に就く卒業生のネットワークづくり(経営戦略)と教職に就く卒業生と教職を目指す在学生の研修を目的とした「文教大学教育フォーラム」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2021年度はオンラインで実施しました。「学校におけるwithコロナとafterコロナ」をテーマに、教職に就いている卒業生6名に基調報告をお願いし、その後質疑と意見交換を行いました。79名の参加者により、活発な意見交換が行われ、教員養成において社会から高い評価を得ている文教大学の実力を再確認する場となりました。

2) アメリカ・メリーランド州の小・中学校での英語による教育実習体験を通して、アメリカの教育制度や文化を学ぶ「アメリカ学校教育研修」は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、現地教育委員会の判断と学生や関係者の健康と安全を考慮し、2020年度同様に中止しました。しかし、2021年度はオンラインでの研修プログラムを作成し、これまでの研修とほぼ同等の内容(英語での日本文化の授業のレクチャー作成・ビデオ作成・配信、メリーランド大学日本語クラス生との交流会、ビデオによる観光等)で実施しました。

3) 英語指導者を志望する学生向けにイギリス・ウォリック大学で3週間の英語教育力を高めるための研修は、現地での新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、受け入れ辞退の申し出もあり、中止しました。

4) 越谷市教育委員会との連携による「先生の助手」体験プログラムは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2020年度同様に9月期、2月期とも中止になりました。2022年の2月に行われる予定であったプログラムについては、実施に向けて学生の事前指導を進めてきましたが、緊急事態宣言の発出により中止のやむなきに至りました。2022年度は例年どおり実施できるよう、越谷市教育委員会との協議を重ねているところです。

5) 2020年4月から、学校教育課程と新たに設置した発達教育課程の2課程で新生教育学部をスタートしました。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、オープンキャンパス等を含め、対面での広報活動は限定されましたが、継続したホームページ、学部独自パンフレットの配布、オンラインでの説明会などを通して、教育学部が目指す方向性、教育内容、さらに取得可能な免許・資格の周知を図りました。

##### イ. 人間科学部

##### 1) スペシャル就活ゼミ

企業就職を目指す人間科学部の3年生を対象に、就職活動の前提となる仕事観・社会観の醸成を目指すとともに、主体的な活動体験によって就職活動を効果的に行うための学習の場の提供をめざしたものです。2021年6月から2022年3月まで月2回程度原則として水曜2限を使い、講義・ワークショップ、グループ活動と個別面談によって実施しました。コロナ禍のため講義・ワークショップ数回と個別面談はオンラインでの実施となりました。スペシャル就活ゼミは就職活動支援のためのワークショップ、キャリア・カウンセリングの組織的展開を目的に、2010年度から毎年度実施し現在に至っています。

##### 2) 社会福祉士及び精神保健福祉士受験対策講座

社会福祉士及び精神保健福祉士受験資格取得者に対して、2013年度から対策講座を実施しています。2015年度からは、東京社会福祉士会の国家資格取得者による国家試験対策講座を実施し、受験のポイントを指導しており、2021年度も引き続き同講座を実施しました。

##### 3) 『先輩からのメッセージ』刊行

就職活動に当たっての先輩の経験を後輩に伝えるべく、教職、公務員、企業、及び福祉・医療施設の各領域で就職が決定した4年生の就職活動の経験や留意点、後輩への助言等を資料としてまとめ、PDFファイルとして在学

生への配布を行いました。

4) 2017年度に新たに制定された国家資格「公認心理師」資格を取得するための大学における指定カリキュラムを提供し、資格取得を目指す学生を支援しました。

#### ウ. 文学部

##### 1) PROGテストの実施

2020年度に引き続き、文学部では1年生全員を対象に、ジェネリックスキル(社会で求められる能力である、コミュニケーションスキルや論理的思考力等)を測るPROGテストを実施しました。今回も、20日程度の期間を設けたうえで、各自が自宅からでもオンラインで受験できるようにしました。実施後には、学生ごとにテスト結果分析書を届けるとともに、オンライン及び希望者には対面形式でも、専門の講師による「解説セミナー」を開催し、グループワークも行い、テストの意義と各自の結果に対する理解を深めました。解説会後のアンケートでは、自分の強み発見率:95.8%、課題発見率:98.2%、と非常に高い数字が並び、さらにこれから何をしていけばいいのかという計画立案率も97.6%に上り、自分の現状を知ることに加えて「大学での学びの動機付け」という点に関しても効果が得られたと考えます。

##### 2) 語学検定試験(TOEFL等)の受験費用補助

2020年度からは、英語系検定については英米語英米文学科と外国語学科でそれぞれ分けて実施しています。2021年度は英米語英米文学科では語学検定補助金最終申請者は15名でした。1名が英検1級、7名が英検準1級に挑戦し、TOEICは6名、TOEFLは1名が受験しました。外国語学科では10名が英検を受検し、2名が準1級に合格しました。また直接留学に結びつくTOEFLを1名、IELTSを2名が受験しました。TOEICのL&Rは当初の想定の数となる8名が受験しました。フランス語技能検定はドイツ語技能検定とのダブル受験が可能となっています。フランス語技能検定は7名が受験し、4級に1名、5級に1名が合格しました。ドイツ語技能検定は5名が申請、3名が受験し、3級+4級に1名が合格しました。2022年度夏にフランスのコートダジュール大学のオンライン研修を企画しているのでフランス語に興味を持つ学生が増えることが期待されます。中国語関係の検定では、HSK(中国政府公認の語学資格)受検者5名が補助を受け、3級1名、5級4名が合格しました。前年度補助を受けた中の1名は2021年度の中国協定校(北京外国語大学)への留学が決定していましたが、コロナ禍のため中止となりました。留学に関しては、2021年度は協定校留学(北京外国語大学)に1名、認定校留学(台湾師範大学)に1名の希望者がいましたが、いずれもコロナ禍のために中止を余儀なくされました。入国規制が厳しく、留学を希望しても実現が難しい状況にあります。こうした状況下において、中国語中国文学科では昨年に引き続き、中国短期語学・文化研修をオンラインプログラム(華東師範大学)として提供し、5名の学生が参加しました。韓国語能力試験は、7名が受験補助を申請し5名が受験し、全員が合格しました。外国語学科からは韓国の韓国外国語大学校に1名が協定校留学しました。コロナ禍で出発が当初予定より延期となりましたが2022年2月に無事に渡航することができました。英米語英米文学科と外国語学科はTOEFLへの関心を高めるために、外部のTOEFLアカデミーに講師を依頼し、8月にTOEFL対策講座(5日間、15コマ)を企画しました。英米語英米文学科から8名、外国語学科から5名が受講しました。参加した複数の学生が次年度はTOEFLを受けると表明するなど好評であったため、来年度以降も継続予定です。

##### 3) 学部案内誌の作成

文学部独自の学部案内誌は、学部レベルの広報誌としては他大学に比して充実しているとの評価を得ています。学部の特徴、各学科のカリキュラム、取得可能な資格、海外研修プログラム、進路、卒業生、教員などの紹介が一通り網羅されており、学部や各学科について理解を深めるためのツールとして機能していると考えられます。今年度も改訂版を作成し、指定校や関東地方を中心とする約400の高校に送付しました。また、オープンキャンパス・指定校訪問・出張模擬授業の際などにも約2,000部を配布しました。

##### 4) 就職活動支援

文学部就職委員会が主体となり、4年生に依頼して就職活動体験談を執筆してもらったものを冊子「就職への道」としてまとめました。また、日本語教員職に就いた卒業生の体験報告会である「日本語教員への道」も開催しました。2021年度は、国内の日本語学校、中国の外国語学校、アメリカの大学に勤務する3名の卒業生に依頼をし、12月にオンラインで実施しました。参加者は多くはありませんでしたが、講演後の個別懇談が活発に行われるというメリットもありました。公務員試験と教員採用試験合格者の体験報

告会は、オンデマンドの動画配信としました。

##### 5) 外国語学科1セメスター留学

外国語学科の2年次春学期の必修科目である「短期留学」は、新型コロナウイルスの感染拡大状況を見定めながら実施の時期を延期してきましたが、2022年3月1日から代替プログラムとして留学予定教育機関の一つであるブリティッシュコロンビア大学(UBC)のオンラインプログラムの履修を開始しました。2022年度には5月下旬より10週間、国内のテンプル大学日本校での対面授業なども加えて、海外短期留学と同等の学びを提供する予定です。

##### 6) 国際研究交流

協定校等との国際交流の場として、毎年北京外国語大学・韓国日本語文化学会と共催で行っている「日中韓三国 日本語文化に関する国際学術シンポジウム」の第8回大会を、11月にオンラインで開催しました。中島学長も講演を行い、言語・文学・文化など四会場で発表者・参加者は50名を超える盛会となりました。

#### エ. 情報学部

1) 大学での学びに必要なレポート・論文執筆のスキルを身につけるために、初年度教育において、アカデミック・ライティングの基礎を学修するようにしています。また、簡にして要を得た文章を書くためには、新聞を中心としたジャーナリズムで培われた書き方が有効であるため、新聞記事を題材として文章演習を行うことで、効果的なコミュニケーションに必要な文章の構成法を習得させるという取り組みをしています。

2) 垣根を超えた情報のやり取りが益々進む現代にあって、学生にグローバルな感覚を植え付けさせることは不可欠です。そのためにベトナムやモンゴルの提携校との交流を推し進めています。2021年度も継続するコロナ禍で海外研修の実施が見送られましたが、モンゴル科学技術大学及びFPT大学とオンライン研修をそれぞれ企画・実施しました。そこでは計18名の学生が参加し、研修を通じて日本語と一部英語による交流を深めました。

3) 情報社会にあっては、今後も情報経路の拡大は一層進みます。しかし、どんなに情報の伝達経路が拡大したとしても、重要なのはそこに載せるコンテンツであることに変わりはありません。その中でも特に映像表現は重要です。学生の映像表現に関する感覚を研ぎ澄ませ、高い情報処理能力を育むために、2021年度も映像分野や芸能分野のエキスパートを講師に招いた実践的連続講義を行いました。

4) 学生による学習成果物を外部の展示会に出展する計画でしたが、2021年度は多くのイベントが中止となりました。これに代わり、オンライン学会が数多く開催されたため、希望する学生はゼミ担当教員の指導のもと、オンラインでの国際会議や学会発表に参加し、成果を学外に発表して高い評価を得ました。

5) オンライン授業(リアルタイム型)における一斉授業とグループ演習に対応できる会議システムとしてRemo Conferenceを選定し、対面授業が困難な環境にあって情報学部の学生によるグループ活動を伴う授業が円滑に行えるように環境を用意しました。情報システム学科「プロジェクト演習D・E」(3年次配当科目)「プロジェクト演習B・C」(2年次配当科目)では主に中間報告会、学期ごとの最終報告会での利用がありました。「プロジェクト演習A」(1年次配当科目)では、週間授業を通じて全15回の授業を実施しました。また、情報システム学科の1年次生から3年次生が一堂に会する「プロジェクト演習合同成果発表会」においては、外部参加者と入学予定者を含めて330名以上の参加者が8時間にわたるオンライン発表会を開催し、広く学生の成果を発表する手段の獲得にもつながりました。

6) 情報学部志願者獲得のための広報事業として、6月と2月に進研アドの「デジタル配信サービス」、11月にダイレクトメールを用いた広報を行い、情報学を含む学問系統を志願する受験生に対して本学情報学部の学習内容などの発信を行いました。

#### オ. 健康栄養学部

1) 理科系専門科目を学ぶうえで必須となる「化学」については、学生の基礎知識の底上げが必要です。化学の理解が他の授業の理解へとつながり、学習意欲向上が期待されるため、少人数制指導による「化学」の補習を引き続き行いました。

2) 管理栄養士国家試験対策として、2021年度も、専任スタッフによる個別

指導をベースとし、4年生には模擬試験(年10回:業者模試7回)及び模擬試験解説授業(夏期・秋期特別講座)、国家試験合格水準に達していないと判断される学生には科目別グループ指導、国家試験直前講座(2月)、模試業者解説授業、3年生には模擬試験(年3回)と学習用ノート作り等(夏休み・春休み課題)の指導・支援を行いました。2021年度は、上記の指導と支援を基本的には対面で実施しましたが、コロナ蔓延状況に応じて、オンライン形態(リアルタイムとオンデマンド式)でも実施しました。

#### カ. 国際学部

1) 入学前教育及び初年次導入教育については、それぞれ11,12ページに記載した形で計画を実施し、所定の成果を収めました。

2) 卒業予定学生には、卒業研究の発表を目的とした「卒業研究発表会」をオンラインで実施し、各自の大学生生活の集大成としての研究成果の発表を通して、主体的な社会人としての自覚を促しました。

3) 東京あだちキャンパスへの移転を機に、新キャンパス周辺の国際交流組織やボランティア団体などとの連携を深め、学生たちの学びの場として多くの活動に取り組みました。

4) コロナ禍により海外研修プログラムが軒並み中止となりましたが、2020年度に引き続き、ニューヨーク国連研修についてはオンラインによる代替プログラムを実施し、他学部学生を含めて多くの学生が参加しました。

5) 1年生全員を対象にしたTOEIC受検を実施し、学部生の進路に対する意識付けと英語能力確認及び学習意欲の喚起を図りました。また、就職支援の一環としてキャリア意識形成のための進路指導や就職対策講座をオンラインで実施しました。

6) 東京あだちキャンパスのPRと国際学部の入試広報の充実を図るため、各種メディアを通じた広報活動を積極的に実施しました。

#### キ. 経営学部

1) 2021年4月に改訂されたカリキュラムの円滑な実施に向け、対応を進めました。

2) 東京あだちキャンパスにおける経営学部のFDの更なる強化に向け、研修会等を実施しました。

3) 足立区をはじめ東京都や近隣の教育機関、企業、団体との関係づくりに取り組みました。

4) 就職支援活動「キャリア観醸成」及び「就労意識向上」を基盤としたワークショップ等、年間を通じ進路開発プログラムを実施しました。

5) 本学教員や外部研究者の現在の研究を知ってもらうため、経営学部セミナーを教員、学生等を対象に開催しました。

6) 海外プログラムは、新型コロナウイルス感染症拡大による渡航制限が実施されたため中止しました。

7) 留学生との交流は、新型コロナウイルス感染防止のため中止としました。

8) グローバル人材になるための必要な基礎づくりに向け、「パブリックリレーションズ講習会」を開催しました。グローバルなコミュニケーション力を高めることの大切さが理解されました。

9) キャリアアップ奨励金の支給を通じて、高度な資格の取得を支援しました。

10) 大学全体の事業であるべき「高大連携事業」を諸般の事情から、経営学部主催で実施しました。研究会等を実施し、多くの参加者を得ました。

### ⑨ 大学院における取り組み

#### ア. 教育学研究科

1) 越谷市教育委員会及び越谷市立小学校・中学校等の地域社会と連携した実践研究と対話型の徹底した少人数教育を行いました。(ただし、新型コロナウイルス感染症対応のため、一部大学での講義に振り替えて実施しました。2022年度は対応を検討中です。)

2) 2021年度から教育現場における教育諸課題に対応するためのカリキュラム改革(心理学関連科目の充実を含む)を実施しました。

3) 現職教員等の大学院受入れに力を入れ、広報パンフレットを広範に配布しました。

#### イ. 人間科学研究科

1) 新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、院生室の利用、研究科

付属臨床相談研究所での実習を継続し、学修の質を落とすことなく、院生が安心して研究・実習に取り組めるような対策を講じました。

2) 臨床心理学専攻では、公認心理師・臨床心理士養成に必要な実習が、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い制限される中で、国の基準に合う実習代替授業を工夫して行いました。

3) 第8回地域連携フォーラムを生活科学研究所と共催で、ハイブリッドにて開催し、約100名の参加を得ることができました。

4) 博士後期課程に従事する教員を増やし、博士課程後期の体制の充実を図りました。

5) 内部質保証のPDCAのチェックの一環として、院生全員に学習及び学習環境に関する研究科独自の「学生アンケート」を実施しました。その結果に基づき、改善措置を講じると共に、各専攻ごとに院生に直接フィードバックを行いました。

6) 修了生の臨床心理士及び第4回公認心理師の合格率100%を達成しました。(参考:全国平均合格率は約60%)

7) アドミッション・ポリシーの見直しを行いました。

8) 修士論文・博士論文・実習に関する学修評価に関するルーブリックを作成し、試行しました。

9) 論文コンテストの応募は、2021年度はありませんでしたが、ホームページにて応募方法や過去の受賞者の情報を掲載し、本事業を周知するための広報対策を講じました。

#### ウ. 言語文化研究科

1) 国際的学術交流として、2020年度に新型コロナウイルス感染拡大によって開催できなかった日中韓三国日本言語文化に関する国際学術シンポジウムを、本学を発信拠点として11月13日にZoomリモート形式で実施しました。中島学長による開催校代表講演、白井言語文化研究科長による基調講演のほか、本研究科所属教員4名の研究報告を行いました。

2) 海外協定校との学術連携強化を図るため、北京外国語大学教員2名による特別講義を2022年1月14日に、北京大学外国語学院教授による講義を1月18日に実施し、大学院生にとって大きな刺激となりました。これに対応する形で、本研究科から北京外国語大学日語学院MTI(翻訳通訳修士)課程学生に対して、2022年3月7日～11日と3月21日～25日に、それぞれ集中講義をおこないました。リモート形式ではあっても、授業の創意工夫次第で、一定の効果を挙げられるものと認識を新たにしました。

3) アドミッション・ポリシーの見直しを行いました。

4) 修士論文に関する学修評価に関するルーブリックを作成し、試行するとともに、研究科教員全体でこれを共有し活用するための研修会を実施しました。

#### エ. 情報学研究科

情報学研究科では、2021年度は東京あだちキャンパス開設に伴う構成員の2キャンパス化初年度にあたり、これまでの各種準備を実施段階に移行しました。2021年度は講義及び会議、また、大学院生の報告会等にてTV会議システムのみ、あるいは、対面を併用した遠隔化を実施しました。これらはいずれも特に問題の発生もなく順調に実施され、ここまでの準備の成果と考えられます。2020年度より講義並びに会議運営に新型コロナウイルス感染防止対策が学園で実施され、遠隔授業及び教授会等の会議の遠隔化が導入されたことにより、教員ならびに学生側に慣れがあったことが、スムーズな移行の助けとなりました。さらに、ここまで研究指導における2キャンパス化を由来とする遠隔化の実施例はないことから、課題抽出等、運用方法の点検を行いました。引き続き、構成員の2キャンパス体制による研究科運営と教育研究指導運用の定着化をはかっていきます。

#### オ. 国際学研究科

1) 茅ヶ崎市と大学院の連携事業として2013年から始めた茅ヶ崎市の職員研修を同市との包括協定に基づき実施しました。2021年度は茅ヶ崎市の他、平塚市、寒川町の職員も参加しました。

2) 海外協定大学である中国・廊坊師範学院からの受験生を対象としたII期入試では、コロナ禍もあり、2021年度の志願者はありませんでした。

3) ドイツ・オズナブリュック大学の文化社会学科と国際学部及び国際学研究科は、協力協定を締結しており、2021年度も協定を継続しました。オズナブリュック大学から、2021年度の研究者受入れの要請がありましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となりました。

4) 韓国・南ソウル大学との協定を視野に入れて続けていた交流は、コロナ禍により中止となりました。

5) 毎年秋に外務省その他国際協力団体などが主催、企画する「グローバルフェスタ2021」は10月9日・10日に開催され、10月9日に学部・大学院共催でサイドステージ(オンライン)に出展しました。

6) 国際開発ジャーナル社が主催する「国際協力キャリアフェア」が11月27日に開催され、大学院として出展し、プレゼンテーションと個別相談への対応を行いました。

7) 国際文化学会との連携で設けている「インターカルチュラル・コーディネーター」資格取得プログラムを継続していますが、コロナ禍の影響もあり2021年度は大学院生の参加はありませんでした。

8) 国際学研究科ホームページの更新が完了し、4月から一新されたホームページの運用が始まりました。

## ⑩専攻科における取り組み

### A. 教育専攻科

1) 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、一部オンライン授業を実施した科目もありましたが、春学期、秋学期ともほぼ対面授業で実施することができました。高度な実践的指導力が身につくよう工夫して指導しました。学生1名は、小学校教諭専修免許状を取得しました。また、埼玉県公立学校教員採用選考試験で、小学校教員に合格しました。

2) 小学校での現場体験については、越谷市立鷺後小学校でボランティアとして実施しました。

## ⑪外国人留学生別科における取り組み

1) 春学期は感染対策を徹底したうえで、対面授業によって、日本語、日本事情、地理歴史、英語などの授業を行い、各学生の進路指導を行いました。

2) 秋学期は中国から4名の新入生を迎えましたが、コロナ禍の水際対策によって入国できず、中国在住のままオンラインで授業を受講し、在学生2名が引き続き対面で授業を受講しました。

3) 2020年度秋学期入学者2名のうち、1名は聖学院大学に合格し、1名が工学院大学の研究生となりました。

4) 日本語能力試験では1名がN2合格という結果でした。

5) 各学期の最終日に学習発表会をオンラインで開催し、総合日本語の授業で日本文化や日本事情に関する事柄について調査してきたことを、中国在住の学生を含め、全員が口頭発表しました。

6) 文学部の日本語教員養成コース「日本語教育実習Ⅳ-(1)」「日本語教育実習Ⅳ-(2)」の履修者による日本語教育実習が行われました。春学期は文学部の履修者10名を実習生としてオンラインで、秋学期は同学部履修者7名を実習生としてオンライン及び対面を併用して教育実習が行われました。

7) コロナ禍のため、越谷市内見学、学外宿泊研修などは中止となりましたが、その代替研修として、2月に感染対策を徹底したうえで、東京都内の文化施設(江戸東京博物館、浅草寺、食品サンプル館など)を見学し、食品サンプル作りを体験しました。

8) 受験生確保に向けた多言語版ホームページを制作しましたが、残念ながらコロナ禍の影響が大きく、今年度の受験生確保には繋がりませんでした。

9) 3月に海外の留学希望者を対象としてオンラインによる別科説明会を2回実施しました。

## 当該年度の研究活動・支援事業

### ①外部研究費(科学研究費補助金等)の獲得支援

教育研究推進センター(研究推進部)を中心に、説明会を開催しました。そのほか、科学研究費補助金に不採択となった研究計画について、翌年度の申請を条件とし、2022年度の科学研究費の申請に向けて研究及び研究準備を行う意思のある者に対して、文部科学省・日本学術振興会の審査結果の評価レベルに応じて20万円から60万円の範囲内で5名に支援をしました。

### ②学内の競争的資金

学長調整金(学内の競争的資金)による教育改善支援として1件当たり最大200万円、研究成果の発表支援として1件当たり最大50万円、事業支援として1件当たり最大100万円の支援を行いました。文部科学省・日本学術振興会が定める研究種目において、研究代表者として交付決定額が500万円以上の研究課題(研究種目「研究成果公開促進費」は除く)に採択された者のうち、科学研究費のみでは研究費が不足する者に対し、研究環境改善経費として2名に研究費を支援しました。

### 教育改善支援

所属	教員名	テーマ
人間科学部	田積 徹	ブラナリアの実験設備整備による人間科学教育の充実への取り組み
国際学部	小林 勝法	デジタル・トランスフォーメーション(DX)関連科目の授業開設準備のための基礎的研究

### 事業支援

組織	教員名	テーマ
経営学部 将来構想委員会	森 一将	入試戦略やデータサイエンスに関するシンポジウム・セミナーの実施
経営学部 就職委員会	新井 立夫	2022年2月19日実施HOC(High school On Campus)「キャリア形成を担うイノベーション高大連携」研究会

### ③学術図書出版助成

2021年度は学術図書刊行に際し、1件の出版に対して助成しました。

所属	教員名	助成対象図書の題名
国際学部	宮原 辰夫	ムガル皇帝の肖像 —細密画に描かれた皇帝一族の光と影—

### ④在外研究の支援

専任教員の在外研究について、6名の派遣枠で募集し、3名を在外研修に派遣しました。

所属	教員名	研修機関	研修国	テーマ
教育学部	平 正人	パリ第一大学・フランス革命研究所	フランス	フランス革命ジャーナリズム研究に関わる現地調査
人間科学部	宮田 浩二	名桜大学付属環太平洋地域文化研究所	日本	現代人におけるウェルネスライフが精神的健康に及ぼす効果—沖縄と本土の比較調査研究—
情報学部	竹林 紀雄	日本大学芸術学部芸術研究所(大学院芸術学研究科)	日本	映像メディアにおける表現の変遷についての研究

## 当該年度の学習者支援事業

### ①奨学金、奨励金及び授業料減免による学生への支援

- 本学は国の高等教育修学支援制度の対象となり、学生に必要な情報提供を行ったうえで、支援に必要な諸手続を適切に実施しました。
- 文教大学奨学金制度による経済的に修学困難な学生への支援を実施しました。文教大学奨学金制度では216名、文教大学大学院奨学金制度では5名を採用し、支援しました。なお、緊急特別奨学金制度は、2021年度該当者がいませんでした。また、新型コロナウイルス感染症の影響で修学が困難な学生に対し、緊急特別奨学金規程の一部を改正し、文教サポーターズ募金を原資とした奨学金制度を設け、5名を採用し、支援しました。
- 成績優秀者への奨励金制度では、各学科・学年(2年生以上)の成績優秀者52名に奨励金を給付しました。
- 私費外国人留学生に対する学納金減免制度及び奨学金制度による経済的に修学困難な留学生への支援を行いました。学納金減免制度では36名(学部生22名、大学院生14名)、奨学金制度では27名(学部生19名、大学院生8名)の留学生に学納金の減免または奨学金を給付しました。

## ②障がいのある学生への支援

越谷キャンパスでは、教育学部4名、人間科学部21名、文学部11名の学生が「配慮願」を活用し、授業の担当教員や事務局窓口対応における情報の共有を図りました。2021年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、通常行っている対面・電話・メール・Google Meetを利用したオンラインでの相談にも対応しました。また、2022年度入学予定者に対し保健センター（相談室・医務室）と学生支援室との連携により「入学前相談」を実施し、相談者の希望により、入学予定の学部学科専修と情報の共有も行い、安心して学生生活に入れるように対応しました。また、聴覚障がいを持つ学生への情報保障の対応として、学生サポーターの協力による授業支援を実施しました。対面授業・オンライン授業のPCテイク、オンデマンド授業の文字起こしのサポートに約80名の在学生在が協力しました。

湘南キャンパス及び東京あだちキャンパスでは、保健センター医務室と教育支援課が連携し、当該学生のニーズに合わせ、学生生活を送るうえで支障があるかどうかを建設的に相談しながら具体的な施策を検討し、配慮に努めました。授業関係では、越谷キャンパスと同様に「配慮願」を作成し、届出があった情報学部3名、健康栄養学部3名、国際学部4名、経営学部2名に対する支援を教員に依頼し、対応しました。

キャリア支援関係では、各キャンパスのキャリア支援課共通事項として、困難を抱える学生が他の学生と同じく平等にキャリア支援事業に参加できるよう、それぞれの障がい特性や困りごとに合わせた支援を実践し、障がいのある学生のインターンシップ参加や企業等への就職について支援をおこないました。

## ③「100円朝食」の実施

2021年度秋学期より、本学在在学生を対象として定食やカレーライス等を数量限定で提供する「100円朝食」が再開されました。

## ④海外留学希望者に対する支援

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行が収束せず、2020年度に引き続き、海外留学の実施を見送りました。今後も、新型コロナウイルスの感染状況を見極めつつ、留学の再開時期や代替プログラムの実施などについて検討を進めます。

## ⑤アジアからの協定校交換留学生に対する住居費補助

日本と住居費が大幅に異なるアジアの国・地域からの交換留学生に対して、住居に係る経費の一部を補助する事業です。本学への留学の可能性を広げ、今後ますます重要となるアジアの大学及び学生との交流の深化・活性化を図ることを目的としたものです。2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で日本政府による水際対策の強化により、留学生の日本への入国が停止したことを受け、全ての交換留学生の受入れが中止されました。

## ⑥キャリアイングリッシュ講座（東京あだちキャンパス）

東京あだちキャンパスでの対面講座を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響によりオンライン講座に変更し、ネイティブ講師による年間100回の英会話レッスンを実施しました。受講者数は教育学部1名、人間科学部1名、文学部3名、国際学部4名、合計9名と少人数ではありましたが、参加学生は大変熱心で、充実した講座となりました。平均出席率は年間86%、受講生への終了後アンケートからは、「TOEICで600点以上取れるようになった」「海外の文化の特色等を知ることができた」「少人数なのでとても話しやすかった」等の声が寄せられました。

## ⑦バス通学定期券等購入代金補助事業（湘南キャンパス）

新型コロナウイルスの感染状況に応じてハイフレックス型、ハイブリッド型を含めて対面授業を再開したことから、湘南キャンパスの通学問題対策の一つとして、学生のために大学と茅ヶ崎駅、大学と湘南台駅、大学と寒川駅の3路線を対象に、購入した通学バス定期券について補助を行いました。

## ⑧学生向け資格取得講座の開催

地域連携課では、学生向けに講座及び検定試験を開催し、学生のスキル向上への意欲に応えました。開講講座数及び受講者数は以下のとおりです。

		講座数	受講者・受験者
資格取得講座（オンライン）		6講座	155人
検定試験	越谷キャンパス	5検定	145人
	東京あだちキャンパス	2検定	20人

## 当該年度の保護者連携事業・地域連携事業

## ①地域、行政、企業と大学の連携・協力

ア. 越谷市との連携包括

越谷市との連携包括協定に基づき、定期的な連絡会を持ち、行政や地域との連携について協議を深め、新型コロナウイルス感染防止対策を十分に行いながら、可能な範囲で連携事業を実施しました。市との連絡会はこれまで市と大学の一対一で行われてきましたが、2021年度より市と協定を結んでいる大学・短大が一堂に会する形となり、また、年1回開催から年2回の開催へ変更され、市内全体の状況をふまえた連携を行う体制が強化されました。

イ. あいのみ文庫

2021年度は新型コロナウイルス感染症の流行が続くなか、新型コロナウイルス感染拡大防止に関する文教大学付属図書館の活動指針に基づき可能な範囲で活動を行いました。12月にはクリスマスに合わせてあいのみ文庫スタッフによる「お楽しみ会動画」を配信、年度末には感染防止措置を取りながら、幼いお子さんを持つ保護者向けの講座「第14回わくわく絵本教室」や子どもたちを対象とした「お楽しみ会」を開催しました。

ウ. 越谷市消防団との連携

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、2021年度も越谷市消防団「学生機能別団員」の地域及び大学の中における活動は実施できませんでした。なお、団員の登録をしていた学生が2021年度で全員卒業するため、新規団員の募集を2021年度内から実施しています。

エ. 神奈川県警察との連携

「神奈川県警察と文教大学とのサイバー犯罪の防止に係る連携協力に関する協定」に基づき、県民に対して安全・安心なインターネット利用環境を提供するための共同研究、ボランティア活動への協力などの取組みを行いました。また「サイバーパトロール支援システム」は神奈川県警以外からも利用希望があり、広島県警、全国青少年警察ボランティア協会、岩手県警、福島県警など多くの団体が利用が開始されました。その他の主な活動は以下の通りです。

- 警察庁が主催するサイバー防犯ボランティア意見交換会議への出席（2021年9月）
- 綾瀬市立天台小学校にてサイバー教室を開催（2021年11月）
- 茅ヶ崎市地域教育講演会（サイバー教室）に補助学生を派遣（2022年1月）

オ. 神奈川県寒川町との連携

寒川町民を対象とした文教大学出張講座への講師派遣を予定し準備を進めていましたが新型コロナウイルスの感染拡大に伴う寒川町の対策方針により中止となりました。

カ. 足立区及び足立区内の5大学との連携

足立区と区内にある6大学が集まって開催される「足立区六大学学長会議」がオンラインで開催され、「足立区におけるSDGsの取り組みと大学の役割～次の10年に向けて～」のテーマに基づき、各学長の講話及び意見交換を行いました。また、「足立区と文教大学との包括的な連携協力に関する協定書」に基づき、本学教員による地域住民向けの講座をオンラインにて

開催し、地域の方々の学習に貢献することができました。2021年度に開催した講座は以下のとおりです。

- 足立区生涯学習センターと連携し、東京あだちキャンパス開設記念リレー講座として地域住民向けに6講座、高校向けに1講座を実施(2021年8月～2022年1月)
- 足立区教育委員会と連携し、小学生向け英語講座を実施(2022年2月)
- 足立区シティブロモーション課と連携し、足立区6大学リレー企画による多文化共生講座を実施(2022年2月)

#### キ. 第一勧業信用組合及び足立成和信用金庫との連携

連携協定に基づき、第一勧業信用組合及び足立成和信用金庫と定期的な情報交換会を実施しました。

- 第一勧業信用組合とは取引企業等の内、本学と親和性の高い企業を紹介いただき、事務局と情報交換を行いました。
- 足立成和信用金庫とは連携事業として、足立成和信用金庫が地域応援事業として実施する「あだち夢のお菓子コンテスト」への入賞作品(応募用紙)の展示を東京あだちキャンパスはなはたステージにて実施し、連携企業との地域貢献活動に関して学生への認知度を高めることができました。

#### ク. 茅ヶ崎市との連携

2021年5月に「茅ヶ崎市と文教大学との包括連携に関する協定」を締結し、学長と茅ヶ崎市によるオンライン締結式を実施、12月には協定締結記念学長特別講演を開催しました。また地域社会の発展に寄与するという協定の目的に鑑み、湘南キャンパスの教員が茅ヶ崎市GIGAスクールに関する打合せ等に出席しました。

### ②学部・研究科の教育・研究と結びつけた地域連携の取り組み

#### ア. 文学部

文学部の日本語教員養成コースでは、2009年度から松伏町役場と連携して、「まつぶし日本語ひろば」を開講してきました。松伏町に在住する外国人を対象として、毎週土曜日10～12時に学生が日本語を教えたり、参加者全員による文化交流を行ったりしています。2021年度は春学期に開講し、4名の学生が参加しました。また、春日部市で開催されている、外国にルーツを持つ子どもの学習教室「たけのこ」ではミャンマー、フィリピン、ナイジェリアにルーツを持つ子ども達の学習支援を行いました。「たけのこ」は月3回、日曜日に開講されています。春学期に12名の学生が3回ずつ参加しました。

#### イ. 国際学部

1)2015年度から始まった事業として、岐阜県高山市飛騨世界生活文化センターとの共同による「オープン・カレッジin飛騨」を引き続き実施し、高山市における地域社会や観光の持続可能な発展とその人材育成に協力しました。

2)教職課程を履修する学生たちが、例年どおり小学校・中学校・高校での学習支援ボランティアを実施しました。

3)東京あだちキャンパスでの新たな活動として、学生有志の企画による「子ども食堂」を計2回実施しました。この「子ども食堂」は、地元の支援団体と協力しながら今後も継続的に実施する予定です。

#### ウ. 経営学部

行政が抱える課題の解決を目指す実践的な演習科目として2016年度に開講した「公共経営実地演習」について、東京あだちキャンパスが所在する足立区の協力のもと、演習を実施し1月に成果報告会を行いました。足立区生涯学習センターと本学地域連携センターとの連携事業として行われた「リレー講座」に、経営学部から3名の教員が講師として参加しました。

#### エ. 教育学研究科

例年「実践研究」協議会を越谷市教育委員会、関係小学校・中学校、研究科(教員、大学院生)の参加により開催しています。ただし、2021年度は新型コロナウイルス対応のため、実習自体は行いましたが、協議会は未実施とし、実施報告書を作成し関係者に配布することをもって代えました。

#### オ. 人間科学研究科

新型コロナウイルス感染症拡大のため、対面による多くの事業が中止になりましたが、「獨協大学地域と子どもリーガルサービスセンター(以下、獨協リーガル)」との連携事業は、下記①～③を実施しました。

①感染症対策を十分に行い、臨床心理士の資格を持つ本学の教員が交代で獨協リーガルにおける専門相談にあたりました(年8回)。

②草加市及び獨協リーガルの共催によるオンライン子育て支援事業の講師を本学教員が務めました。

③獨協リーガルの弁護士の協力を得て、実習授業において「いじめ問題」「個人情報と守秘義務」「機関連携」について法的な観点から3回オンライン講演を実施しました。

#### カ. 国際学研究科

国際学研究科と茅ヶ崎市により2013年度から実施してきた、大学院における実践的な教育・研究の充実と地域の実態に則した市の政策や行動に資する協働事業は、2021年4月に締結された茅ヶ崎市との包括協定に基づき、2021年度も実施しました。茅ヶ崎市の声かけにより平塚市、寒川町からも参加がありました。

### ③高大連携の取り組み

地域連携センターとして高大連携事業をどのように取り扱っていくか、部門長を中心に課題整理を行い、主任の意見を聴取して今後の方向性を検討しました。2021年度の具体的な活動は以下のとおりです。

●千葉県立安房高等学校からの依頼により、教員基礎コース集中講義への講師派遣(オンライン)を行い、本学の特色を生かした高大連携に寄与しました。

●神奈川県立総合教育センターとの連携による現職教員向けの講座を開催し、県内教員の能力向上に寄与しました。

●令和4年4月開校予定の足立地区チャレンジスクール開設準備室の先生と打合せを行い、高校生、本学学生及び教員を繋ぐ連携実現に向けた検討を行いました。

### ④地域連携センターによる講座

地域連携センターにおいて「公開講座」「オープンユニバーシティ」等を開催し、一般市民の方々の学習に貢献しました。2021年度に実施した事業は以下のとおりです。

	講座数	受講者
公開講座(オンライン)	1講座	23人
オープンユニバーシティ(オンライン)	6講座	29人

さらに、越谷キャンパスでは、埼玉県「大学の開放授業講座(リカレント教育事業)」の趣旨に賛同し、「文教大学シニアアカデミー」として埼玉県在住で55歳以上の方のオンラインによる授業聴講を受入れ、春学期、秋学期合計11科目において延べ24名が受講しました。

### ⑤保護者との連携

#### ア. 父母と教職員の会との連携

父母と教職員の会(学生の父母と教職員で構成する協力団体、以下、「父母教」という)が主催する行事を大学(教職員)と連携し、父母に大学への理解を深めていただく機会の創出に取り組みました。

●新任教職員をお迎える会:中止(新型コロナウイルス感染拡大防止のため)

●代議員会:オンライン開催(2021年6月5日)

●学長主催パーティー:中止(新型コロナウイルス感染拡大防止のため)

●父母のための一日大学:オンライン開催  
越谷キャンパス(2021年12月4日・12月5日) 湘南キャンパス(2021年11月28日) 東京あだちキャンパス(2021年12月12日)

●親と子のための進路問題研修会:オンライン開催 YouTube配信(2021年11月28日から12月19日まで)

●本部役員研修会:オンライン開催(2022年2月19日)

●支部長研修会:オンライン開催(2022年2月19日)

●各支部総会等への教職員派遣

支部総会は、対面を避け書面決議により決議を実施しました。新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いた状況で対面による支部総会を実施できた支部もあり教職員の派遣も可能となりました。

●大学との共催事業である授業期間中の「100円朝食」は、秋学期より再開し今年度開設された東京あだちキャンパス、越谷キャンパス、湘南キャンパスの3キャンパスで実施しました。

●2021年度より遠隔医療相談アプリLEVERを導入し、学生が健康相談を行える環境構築を行いました。新型コロナウイルス感染症の収束が見えず以前と異なる環境下での生活で体調不良等の相談者は少なくなく効果的でした。

イ. 情報・国際・経営学部は保護者対象学部教育説明会の実施情報学部は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となりました。国際学部では、父母と教職員の会が開催する「一日大学」において、参加された保護者との懇談会を実施しました。経営学部は入学予定者の保護者を対象とした「新入生と保護者の会」を、Webにて実施しました。保護者との連携を一層強めることで、学生指導の充実を図りました。

### ⑥大学間の連携・協力

ア. 越谷キャンパスでは、「埼玉県東部地区大学単位互換に関する協定書」に基づき、埼玉県立大学、獨協大学、及び日本工業大学との学生相互の単位互換制度を行っています。2021年度は、2020年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、各大学と協議し、年間を通じて、本学への受入れ及び他大学への送り出しを見送ることとしました。

イ. 名桜大学との単位互換に関する協定に基づき、単位互換特別聴講生を募集しましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、本学からの希望者はなく、派遣は行いませんでした。名桜大学からは、情報学部メディア表現学科で学生1名(通年)の受入れをしました。

ウ. 2012年度に加入した「神奈川県内の大学間における大学院学術交流」に基づき、情報学研究科において、他大学院と授業の相互開放を行いました。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、本学の授業履修者及び他大学院への履修者はいませんでした。

### エ. 教員養成の高度化に係る連携事業

東京学芸大学との教員養成の高度化のための連携協定、上越教育大学との連携・協力に関する協定、埼玉大学との埼玉県における教員養成の高度化推進に関する連携協定に基づき、教員養成の高度化の連携にあたって、各大学へ進学を希望する学生の募集及び推薦選考を実施しました。東京学芸大学大学院教育学研究科教員養成高度化大学間連携コースに4年生3名が合格し進学が決定しました。3年生は2名推薦することが決定しました。推薦された3年生は、本学在学中、次年度から大学院授業科目を先取りして学修します。また、上越教育大学大学院学校教育研究科には1名推薦、埼玉大学大学院教育学研究科教職実践専攻には2名推薦し、それぞれ合格しました。

## 校舎施設設備の改善事業

### ①越谷キャンパス新棟建設工事

越谷キャンパスに講義室棟を新たに建築し、「新たな教育の展開」及び「授業運営の支障緩和」を図ることを目的として、「(仮称)文教大学越谷キャンパス新棟建設工事」を2020年度より3年間計画で実施しています。2021年度は、2020年度に作成した実施設計に基づき、計画通り建築工事を進めました。2022年7月上旬に全体竣工を迎える予定です。

### ②湘南キャンパス 昇降機(エレベーター)更新工事

湘南キャンパス事務棟昇降機について、油圧式からロープ式へと構造を変更する工事を実施しました。工法は、従来の「全撤去リニューアル工事」から、工事費用の低減及び工事期間の短縮が可能という利点がある他、ハツリ等による騒音・振動が発生する躯体改修工事を伴わない「制御リニューアル工事」で実施しました。今回の更新工事により、新安全基準に対応し、利用者の安全性を高めることができました。

## 入試制度、募集強化事業

### ①大学入学者選抜改革への対応

大学入学者選抜改革への対応については、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、初年度に予定していた選考方法で「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の学力の3要素を多面的・総合的に評価するための入試を実施しました。

また、2022年4月入学の高校1年生から新教育課程が開始されることから、新学習指導要領に対応した2025年度入学者選抜における変更の予告を可能な限り早期に行えるよう、引き続き検討を進めます。

### ②募集強化計画の実施

オープンキャンパスについては、対面式とWeb式のオープンキャンパスを実施しました。対面式については、感染症対策のため入場者数の制限を設け、3キャンパスにおいて実施しました。東京あだちキャンパスと越谷キャンパスの同日開催日においては、YouTubeによるライブ配信を試み、実施後にはオンデマンドによる視聴を可能としました。また、高校訪問や高校ガイダンス・模擬授業については、高校側に配慮しながら可能な限り対面で実施しました。会場形式の相談会等も積極的に参加しました。

### ③入試情報Webサイトの更なる改善

入試情報Webサイトについては、入学試験要項や志願者情報等の受験生が見たい情報にわかりやすく導くよう工夫をし、出願しやすい動線としました。合格者専用サイトのリニューアルも行い、手続の促進につながるようデザインを変更しました。

### ④全国入試成績優秀者に対する特待生制度の実施

特待生制度は2011年度入試で導入後、2018年度入試で現在の制度に見直し、5年目となる2022年度入試では11名の特待生入学者を予定しています。入試結果や特待生入学者数等を参考とし、引き続き、特待生制度の妥当性について検証を進めます。

## その他

### ①海外日本語教育インターン派遣プログラム援助金

2021年度独立行政法人国際交流基金が実施する業務連携事業「海外日本語教育インターン派遣プログラム」に、文学部の海外研修プログラム1件(中国日本語教育研修)が採択されました。採択されたことにより、参加学生への援助金として往復航空券・空港利用税・航空保険料・住居費・海外傷害保険料等が参加学生に支給されます。2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で現地への渡航が叶わなかったため援助金は辞退しましたが、オンラインプログラムに変更し、9名の学生が参加しました。

### ②教員免許状更新講習

教育職員免許法に基づく教員免許状更新講習を開催し、教職に就いている卒業生や地域の教員等の資質能力保持に寄りました。開設数及び履修認定数(延べ数)は越谷キャンパスにて23講習(必修3、選択必修4、選択16)、1,159名でした。なお、うち7講習535名はオンラインで実施しました。

### ③図書館電子情報資料整備事業計画

2021年度より図書館ホームページをリニューアルしました。越谷図書館・湘南図書館・東京あだち図書館の3館で一つの図書館という基本方針の下、共通の学術情報ポータルとして電子情報資料へのアクセスを簡便にしました。コンテンツ編成の適正化や、既存の印刷体資料との関連については、新たに策定した「文教大学附属図書館資料の構築・編成に関する方針」に基づき、全学的な観点で整備を継続していきます。

### ④「文教生国際交流アンバサダー制度」の実施

この制度は、留学経験者等が学生アンバサダーとして、後輩達の留学を促進し、また、留学予定の学生達を先輩が支援する制度です。

学生アンバサダーは、制度の趣旨を理解し参画できるようなイベントを企画及び実施します。学生アンバサダーにとっては、帰国後に本学における活躍の機会を得て、本学の国際交流活動の重要な役割を担う一人であると位置づけられ、卒業までの取り組みの一つとして自信へとつなげられることを目指しています。また、これから留学を目指す学生にとっては、身近な先輩達と交流を深めながら、安心して自分に合った留学を実現させていく経験ができます。2021年度の初年度は、第1期生として春学期13名、秋学期9名の学部及び研究科の学生達がアンバサダーとなり活動しました。新型コロナウイルス感染症の影響で、対面でのイベント開催が難しい環境でしたが、それぞれの得意な分野でチームに分かれ、企画を考え、広報媒体の作成、SNS等で自身の経験を発信していく活動を行いました。

### ⑤教育研究系情報システム

2021年4月の東京あだちキャンパス開設に合わせて、越谷情報センター及び湘南情報センターを統合し、全学組織としての情報センターを発足させました。また、各校舎で独自に提供していた情報システムに関しても、3キャンパス統一となる教育研究系情報システムの稼働を開始し、学生・教職員の利便性を高めることができました。その結果として、コロナ禍においても学生の学びを止めることなく、質の高い教育環境を整えることの一翼を担うことができました。

### ⑥新型コロナウイルス感染症への対応

「新型コロナウイルス感染拡大防止に関する文教大学の活動指針(ガイドライン)」を策定しました。授業・教育活動(学内外)、研究活動、学生・学外者の入構、課外活動(学内外)、施設借用、会議等の活動指針を新型コロナウイルス感染拡大状況に応じてレベル別に設定し、社会の状況に対して柔軟に対応しました。授業については、大規模授業(過去3年の履修者数平均が80名以上)は原則オンライン開講としました。大規模授業であっても、分散登校などの対応をとり、1回あたりの対面での受講者数を抑えることが可能な場合は対面で授業を行うことも可能としました。対面授業については、講義室の収容定員6割(3分の2)程度を上限として、受講者数に応じた適切な規模の教室を配当し、教室内の密を避けて講義を行いました。パソコン教室など、定員の6割を超えて利用しなければならない教室においては、飛沫防止のアクリル板を設置するなどして授業を実施しました。また、湘南キャンパス、東京あだちキャンパスでは大学拠点接種(職場接種)を実施し、学内関係者(学生、教職員)のみならず、地域企業や自治体職員、近隣の教育関係者を受入れました。

## 文教大学附属中学校・高等学校

### 当該年度の教育活動に関する事業

#### ①文教ステーション(Bステ)・各種講習・学習合宿の実施

放課後の「自立学習支援システム(Bステ)」を設置しており、自主的な学習時間の確保のため、校内で自習室を運営するとともに、オンラインを併用するなど、新型コロナウイルス感染症への配慮や生徒の学習機会の多様化に対して、さまざまな工夫を施し、放課後学習習慣の定着を図りました。中学Bステでは、自習室以外に、英語・数学に関しての単元ごとの補習講座も実施して、基礎の徹底を図りました。高校Bステでは、希望者に対して「模試対策ゼミ」、「難関大チャレンジゼミ」等の講座を実施して、多くの受講生を集めました。また、高校3年生を対象に、専門の外部講師による「総合型・学校推薦型対策講座」を新規実施したところ、とても好評となりました。これらの取り組みは、成績中位層の生徒の基礎学力の向上はもちろん、校内模試の

結果の向上や、総合選抜型入試、推薦入試を受験するにも有効となりました。学習合宿は、感染症対策として中止しました。

#### ②キャリア教育の実践

文教版キャリア学習副読本「ニュートン」を活用した、キャリア教育を各学年で実施しています。また、オンラインも活用しながら、大学生による大学紹介、大学教員が来校して実施する大学体験授業、職業講演会、国際理解講演会、探究学習発表会を実施して、進路意識を醸成するとともに、将来のキャリア形成に向けた指導も継続しています。

#### ③タブレットPC活用の推進

2019年度から年次進行で進めたタブレットPCの導入が、2021年度で完了し全生徒が使用することとなりました。各教員のスキルや活用方法も大幅に向上して、授業はもちろん、学校行事や委員会活動、部活動などでも、有効に活用できるようになりました。また、生徒や保護者への連絡、生徒への課題配信なども、スピーディに行うことができました。さらに、オンライン授業期間においては、各学年の時間割通りの授業をオンラインで提供することで、学習進度や内容への影響をきわめて少なくすることができました。今後は、さらにタブレットPCを活用することで、学力の向上、進学実績の向上にもつながるような取り組みを進めていきます。

#### ④自立心を育てる

学校行事において、自立心や主体的に取り組む態度を育てるため、各行事の生徒による自主的な運営を進めました。体育祭、文化祭などにおいて、生徒会役員や実行委員会が中心となり、企画の検討・実施計画の作成から、さまざまな調整をして実施することができました。生徒の創意工夫により、コロナ禍でも、安全面の対策や、ICTの活用などでさまざまな工夫がされていました。トリニティーキャンプやオリエンテーション合宿などの宿泊行事は、中止とせざるを得ませんでした。

#### ⑤オーストラリアへの短期研修・中長期留学とセブ島への語学研修の推進

オーストラリア短期・中長期留学とセブ島への語学研修は、相手国の入国禁止措置により中止としました。代わりに、カナダへの中長期留学を新規実施し、2022年1月より、高校1年生3名(6ヶ月1名、12ヶ月2名)が、留学を開始しました。

#### ⑥台湾修学旅行と台湾の大学進学へ

台湾修学旅行は中止としましたが、台湾の大学進学については、華語講座をオンラインで実施し、予定通りのプログラムを実施しています。また、台湾大学への進学は、講習受講者全員の15名が達成できました。

### 当該年度の研究活動事業

#### ①教員の授業力の向上

教員の授業力の向上と生徒の授業満足度向上のために、「生徒による授業評価アンケート」を各授業担当が実施し、結果を踏まえて、各教員が授業改善に取り組んでいます。研究授業については、実施予定日がオンライン授業期間となったため、やむなく中止としました。

#### ②進学実績の向上

大学進学実績の向上に向けて、生徒カルテ(毎年の模試結果、成績、出欠状況、課外活動、面談記録、各種検定取得などの情報を随時更新したデータ)を面談や進路指導に有効活用しました。さらに、大学の情報・出願指導計画の情報共有・受験生出願傾向の把握な

どの教員研修の実施や、進学指導研究会を年3回実施し、生徒の進路面談での受験計画の作成のアドバイス、個別生徒の受験プランの検討などにより、難関大学へのチャレンジを進めました。また、大学入学共通テスト結果を踏まえて、「出願指導検討会」を実施し、生徒の国立大学への出願先の選定に向けた指導を徹底して行いました。2021年度の難関大学合格者は、国立大学8名 早慶上理14名 GMARCH等55名となりました。

### ③ICT機器の活用

教室の電子黒板を活用した授業を実施するための研修を実施し、非常勤講師も含めて、全教員が電子黒板を活用しています。また、2021年度は、タブレットPCを導入して3年目となり、すでに対面の授業や課題配信、オンライン授業、学校行事などの様々な場面で有効活用が進められています。2度のオンライン授業期間もありましたが、年間計画通りに授業を実施することができました。

## 当該年度の学習者支援事業

### ①「JETプログラム」による外国語(英語)指導助手の活用

「JETプログラム」による外国人指導助手1名を活用して、授業支援や海外留学プログラムの支援、英語検定に向けた面接練習等を行いました。

### ②外国人英語講師の幅広い活用

常勤の外国人英語講師を活用して、専任教員とともにティーム・ティーチング授業への参画、授業計画の作成、リスニング教材の作成、教科の会議への参加などの、幅広い活用を進めました。

### ③プログラミング教育の推進

論理的思考力や創造性、問題解決能力等の育成のため、中学校では「技術・家庭科」、高等学校では「情報科」において、プログラミング授業を進めています。また、中学校入学希望者向けの「理科実験教室」においても、プログラミングを取扱い、ICTを活用している本校のPRに役立てています。

## 当該年度の保護者連携事業・地域連携事業

### ①保護者アンケートの実施と学年便りの配付

2020年度まで、保護者の学校評価アンケートは、業者を活用して有償で実施していましたが、2021年度は、全校で既に活用している、学校用ICT支援サービスのClassiを使用して、オンラインでの配信・集計を実施しました。評価結果を踏まえて、今後進めるべきことや改善点を確認して、2022年度に生かしていきます。学年便りについては、教育活動の様子や行事の報告、連絡伝達事項などの内容を記載して、各学年とも月1回発行しています。また、2021年度からは、紙での配付だけでなく、Classiを活用して、オンラインでの配信も実施しています。

### ②地域における生徒のボランティア活動

地域における生徒のボランティア活動については、コロナ禍により、すべての地域行事や校外でのボランティア活動が中止となったため、実施することができませんでした。2022年度以降の実施に向けて検討を進めています。

## 校舎施設設備の改善事業

### ①優れた学習環境の整備

日常の清掃活動の徹底とともに、生徒会の整備委員会が中心となり、

学期末、行事終了後、入試広報イベント前には、大掃除として校内様々な箇所での徹底した清掃美化活動を実施し、きれいな状態を保つ努力をしています。また、校内のWi-Fi化の推進や、自習室の整備などを継続することで、コンパクトながらも、学習環境に優れ、施設設備の整った学び舎であることを積極的にPRして、人を呼べる校舎の追求を進めています。

## 入試制度、募集強化事業

### ①学校説明会の積極的な実施

学校説明会については、オンラインを併用しながら、予定通り実施することができました。毎回、定員制を設けたうえで、ホームページからの申込受付をしていますが、実施内容は大変好評でした。中学校や学習塾への訪問については、地域や過去の実績をもとに訪問対象を絞りながらも、全教員で分担して、各校へ年間2回の訪問を実施しました。

### ②多様なニーズに応えた入試形態の設定

中学入試において、応募者が伸び悩んでいた適性検査型の「みらい創造入試」をとりやめ、第5回入試に定員を割り振ることで、成績上位層の確保を目指しました。高校入試においては、2020年度から実施した第3回入試を継続するとともに、特待生の選抜も兼ねた入試とすることで、特待生枠の活用や、成績上位層の入学者の確保に取り組みました。

### ③魅力ある広報活動の実施

ホームページやInstagram、LINEの活用を一層進めて、入試広報イベントのスピーディな周知を実施しました。また、学校生活や生徒の様子がよくわかるような広報活動を目指しました。

### ④生徒募集活動の成果分析の実施

10月に生徒募集の前期の途中経過と他校の状況について、学校経営のコンサルティング会社より、現状分析の報告・提言を受けました。それを踏まえて、後期からの生徒募集活動を修正し、説明会の回数増やターゲットの絞り込みを進めました。その結果、中学入試応募者は、前年度比で228名増加(17.2%増)し、高校入試応募者は、前年度比で118名増加(33.1%増)となりました。

## その他

### ①生徒指導上の留意点について

コロナ禍により、生徒が学習や進路への不安を抱いたり、生徒同士の間関係が希薄となったりすることが多いため、面談等を重視し、日常的に生徒の心身の状況把握を行いました。いじめにつながりかねないトラブルや悪口、SNSの不適切な活用などを未然に防ぐことや、問題の早期発見、早期解決を各教員に徹底させました。また、月に一回のTV放送による「校長メッセージ」で、人間愛やいじめ防止について伝えるなど、様々な取り組みをおこないました。

### ②新型コロナウイルス感染症への対応

1学期は短縮授業の実施、9月と1月下旬から3月初旬までは、オンライン授業としました。また、登校時には、検温や手指消毒、机イスの消毒、黙食の徹底などをしました。学校行事においては、内容の工夫や時期の変更、時間や観客の制限をするなどして、なるべく中止とすることがないようにして、宿泊行事以外は、ほぼ通常の学校行事が実施できました。

## 文教大学付属小学校

### 当該年度の教育活動に関する事業

#### ①文教大学付属小学校におけるICT教育の推進

個別最適化された学びを実現すべく具体策を実践することができました。教職員一同、年度初めに、本校のICT教育において、Society5.0時代を生きる子どもたちが「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、生きる力」をつけていくという共通の目的をもてたことも成果をあげるのヒントになりました。

<展望の成果>

◇鉛筆・定規等と同様に、ICT機器を文房具の一つとして使える人材に!

一人一台のPC活用により、ICT機器を文房具の一つとして使える人材を目指し、ICT教育を推進することができました。

◇学校内におけるネットワーク環境整備計画について

- ・全児童一人一人へGoogleアカウント(学校管理)を配布
- ・一人一人のGoogleアカウントを使用し、Google Classroomを開始
- ・Google G Suite Educationの利用環境の構築
- ・普通教室での無線LAN接続環境の整備

上記の4点を実現できたことも大きな成果でした。

<内容としての成果>

◇ICT教育で目指す3つの力

- ・情報活用の実践力
- ・情報の科学的理解(コンピューターリテラシー)
- ・情報社会に参画する態度

◇各ブロックにおける目標

- ・低学年(1年生、2年生)遊び的な活動を通して、コンピューターやインターネットに慣れ親しむ。
- ・中学年(3年生、4年生)グループにおける問題解決や表現活動を進め、基礎的な情報活用の実践力を身につける。
- ・高学年(5年生、6年生)個人やグループにおける課題解決学習を中心とし、主体的な情報収集・発信・伝達手段の選択ができ、情報活用の実践力を高める。

◇「情報モラル」について

上記3点を軸に活動を提供してきたことで、発達段階に合わせて系統的に指導を進めるとともに、教師自身も「目標・力」を深く理解したうえで指導にあたることができました。

#### ②国際社会で活躍する人材の育成:英語力の強化

◇「TOKYO GLOBAL GATEWAY」への参加・「ENGLISH TIME」の継続

国際社会で活躍する英語力の育成を推進することができました。「英語が話せる文教大学付属小学校生」を目指して、2019年度まで週1時間だった英語の時間を、2020年度全ての学年において週2時間の設定とし、英語に触れる機会を更に増やし、2021年度もこの英語時数を確保してきました。45分の枠に縛られない短時間学習(毎日10分×2回):モジュールタイムにおける「ENGLISH TIME」を、今年度も継続して設置し英語力を強化することができました。また、英語村「TOKYO GLOBAL GATEWAY」に3年生以上が参加することも継続することで、施設の中で使われる言語は全て英語という環境の中で、授業で身につけてきた英語の力を発揮することができました。

◇「英語の絵本コーナー」の充実

図書館が校舎の中央部にある特長を活かし、「英語の絵本コーナー」を充実させることができました。日本語でも馴染みのある絵本の英語シリーズを取りそろえたことで、自然な形で英語に親しめる環境を2021年度も充実させることができました。

◇「英語の電子辞書」の活用

子どもたちの手に取りやすい場所に英語の電子辞書を設置し、わからない単語があれば検索し、興味のある言語に触れる機会をできるだけ生活の中に溶け込む形で活用したことで、「生きて働く英語のチカラ」を育成することができました。

#### ③「全館図書館」のメリットを生かし、「読む力」「書く力」の言語力を強化

どの学校にもない唯一無二の文教大学付属小学校独自の特色を最大限に生かし、「読む力」「書く力」を中心とした言語力を強化することができました。

●【読む力】国語の学力テストの平均点が向上してきたことに加え、子どもの姿に変化が見られています。子ども同士の話題がテレビやゲームの話から本の話に変わってきています。また、子どものかばんの中にはいつも本が入っている、そのような変化も見られます。モジュールタイムを活用した本に親しむ時間を意図的・計画的に組むことで、子どもの読む力が確実についてきました。

●【書く力】日々のおたよりノート(日記)を通して、自己を振り返り、考えや思いを文章で表現する書く力を養ってきました。

●【話す力】弁論大会の取り組みを通し、論を立てまとめて表現する力をつけてきました。国語の授業の中で書き溜めた小文の中から、各自がテーマをひとつ取り出し、そこに道筋をつくって論を組み立てていくことによって、書く活動から自分の考えを明確にし表現していく力を育むことができています。

#### ④プログラミング教育の充実

人型ロボット「Pepper」を活用し、子どもたちに論理的思考力をつけるべく「プログラミング教育」を充実させることができました。

●「2DAYS Pepper」

2日間ずつPepperが教室をまわり、プログラミングの授業を設定しやすくしたり、触れ合ったりする機会を学期ごとにとることで、発達段階に応じて、Pepperと遊んだり、プログラミングを組んだりして、プログラミングの力を育成することができました。

#### ⑤知的能力を高める体験活動の充実

新型コロナウイルス感染拡大予防のため、本校の特色である宿泊学習が2021年度は、6年生の北アルプス自然教室のみとなりましたが、「知的能力を高める体験活動の充実」はぶれることなく、社会科見学等、感染リスクを回避した形で実体験を踏みながら活動の学びを重ねることができました。3年生の社会科見学では「郷土資料館」にて先人のものづくりの精神と伝統文化・産業について体感することができました。6年生は、国会議事堂を見学し、普段見ることのない政治の中核を目の前にし、政治を身近に感じることができました。学校で学んだ知識が点となり、体験活動が線となることで、点が結ばれ生きた学びとなるよう、今後も知的能力を高める体験活動を大切にしていきます。

#### ⑥自分の考えを明確にもち、交流により考えを深めていける人材に!【深い学びへ】~「文教大学付属小学校型アクティブラーニング」の構築 本校独自の年間指導計画・単元ごとの評価規準の充実と活用~

4年間かけて構築してきた「文教大学付属小学校型アクティブラーニング」を継続しつつ、子どもたちが「どのように学ぶか(論点整理)」に光を当て、「主体的・対話的で深い学び=アクティブラーニング」を実践することができました。

#### ⑦指導体制の工夫による個に応じた指導

ティーム・ティーチングや習熟度別学習、課題別グループ活動等を適切に行い、個に応じた指導を徹底し、基礎学力の定着と学力向上を図ることができました。特に学力差のつきやすい算数においては、どの学年でもティーム・ティーチング、習熟度別学習を徹底し、一人一人の学力を確実なものとしています。

## ⑧基礎・基本の確実な定着

モジュールタイム、漢字検定(年間2回)、全学年辞書の日常活用、家庭学習の徹底(10分×学年数+20分と取り組みカード活用)、ノート指導等、きめ細かな指導を積み重ね、基礎学力を定着させることができました。

## ⑨多様な学習展開による学ぶ意欲の高揚

校舎の図書館や多目的スペースの活用計画を作成し、各教室の電子黒板等を有効に活用して、分かりやすく思考が深まる多様な学習展開を工夫し、子どもの意欲を高めることができました。

## ⑩日常的な運動継続による体力向上

休み時間終了前5分間の「マラソントime」、始業前の外遊び、週2回の体操朝礼を、意図的・計画的に教師も一緒に行うとともに、体育の授業の指導内容改善・充実を図り、体力向上を図ることができました。

## ⑪縦割り行事や全校自然体験学校の取り組みによる豊かな心の醸成

全学年が参加する全校遠足などを通し、高学年は低学年への優しさやリーダーとしての責任感を育み、低学年は高学年から、リーダーとしてあるべき姿の頼もしさと自分が果たすべき役割を学ぶことができました。

## ⑫「オーストラリア短期留学」の実践

2021年度は、新型コロナウイルスの影響で、オーストラリアへ渡航することはできませんでしたが、Webを通じて交流したり、手紙を交換したりすることで関係継続に取り組みました。今後も「世界の中の日本」を意識した国際理解教育・異文化理解教育の充実を図ります。

## ⑬アフタースクールとの連携

アフタースクールのスタッフと更に連携を深め、放課後における児童一人一人の生活・学習を知り、児童理解を深めることができました。

## ⑭自然学校における自然体験の充実

新型コロナウイルスの影響で、多くの体験を積むことはできませんでしたが、日帰り遠足や、日帰り農業体験など、可能な範囲での充実した体験は積むことができました。体験をあきらめることなく、活動を重ねてきました。

## 当該年度の研究活動事業

①自分の考えを明確にもち、考えることが楽しめる人材の育成  
研究主題「学びの深化を目指して 自ら問い続ける子どもを育てる! 文教大学付属小学校型アクティブラーニング」

- 新たな未来を築く人材育成として「主体的に問題を解決し解を見出していく能動的学習(アクティブラーニング)」を実践してきました。子どもたちが「どのように学ぶか(論点整理)」に光を当て、「主体的・対話的で深い学び=アクティブラーニング」としての授業を展開すべく研究を追究することができました。
- 「学ぶことを楽しむ!文教大学付属小学校型アクティブラーニング」を主題に校内研究を充実させることができました。校内研究日を設定し、どの教員も研究授業を通してお互いの授業を見合うことで、授業力を磨いてきました。

## ②外部研修への積極的な参加と成果の共有・還元

全教員が、年3回の私学連合研究会(全国大会を含む)と個別課題研修に必ず参加し、研修成果をまとめて共有し、実践につなげてきました。

## ③日常的な教材の研究と準備

全教員は、週ごとの指導計画記入と教材準備について、管理職の指導を受けて、日常的に授業改善を重ねてきました。

## 当該年度の学習者支援事業

## ①系統的なキャリア教育

個に応じたきめ細かな進路指導のために、1年生から6年生までの系統性を明確にしたキャリア教育計画を活用して、全教育活動を通して指導を進めてきました。

## ②個に応じた補習指導

4年生から6年生は、更に具体的に中学校選択への支援ができるように、児童・保護者への調査を行うとともに、面談を通じてニーズを正確に把握しました。それに基づいて、補習計画を立てるとともに、指導内容や方法を改善・充実させてきました。

## ③適切な進路指導

進路指導部が中心となり、情報の収集や共有を行いました。中学校受験への具体方策も組織的に提案することができました。

## ④一人一人の「夢に向かう進路指導」

付属中学校も含めた中学受験指導は、一人一人の将来の夢を実現するための第一歩とし、進路指導部を中心に子ども・保護者との丁寧な面談を重ね、指導に向かうことができました。

## 当該年度の保護者連携事業・地域連携事業

## ①保護者参画による行事等

父母の会との連携を大切にし、内容の充実を図ることができました。父母の会主催の文教まつりやくじ引き大会も、子どもたちにとって、心に残るものとなりました。

## ②年間を通じた保護者による参観や面談

学校生活の状況を正確に知ってもらうためにも、保護者の行事参加や授業風景配信を定期的に行いました。

## ③地域連携強化による防災

地域防災会議(オンライン)への参加や関係部署との連携を引き続き密に行いました。そのことで、更に最良の判断で最善を尽くせる組織体制ができています。

## ④協力・支援を生かす同窓会

月に1回本校で同窓会役員会を開いて連携を密にすることができました。キャリア教育や児童募集等への参画を更に強めていきます。

## 校舎施設設備の改善事業

## ①ICT教育環境の整備

児童一人一台のパソコン導入に伴い、校舎内の無線LAN環境を整備したことで、ICT教育の充実が図れました。今後もICT機器を文房具の一つとして使える人材育成を目指し、ICT教育を継続推進します。

## 入試制度、募集強化事業

## ①広報活動の充実と応募者増への戦略

積極的に受験冊子や教育誌等へ広告を掲載する等、広報活動を工夫し、多くの家庭に「選ばれる学校」を目指してきました。

## ②学校説明会の充実

幼児体験教室や模擬試験等、幼児保護者のニーズを踏まえ、年間5回の説明会の内容を回ごと(オンライン含む)に工夫し、充実したものにしてきました。

### ③学校外説明会の充実

幼児教室（外部業者）主催の本校単独学校説明会が多くの保護者に本校を理解していただくうえで効果的でした。引き続き、このような学校外説明会を広報として有効に活用します。

## その他

### ①「人間愛」あふれる文教っ子 大切な八か条

「豊かな人間性」とともに、「学ぶ楽しさ」「学びの発見や友達との共感、わかった・できたという実感、もっと探究したいという意欲」を育てています。

- 一、大きな声であいさつ・返事ができること。
- 二、背中をまっすぐ伸ばして、いい姿勢で過ごせること。
- 三、素直な気持ち、謙虚さをもって人に接すること。
- 四、人のせいではなく、自分で責任がもてること。
- 五、めんどうなことを後回しにしないこと。
- 六、提出物、宿題について、ちゃんとやれること。
- 七、困っている友達に進んで声をかけることができること。
- 八、整理整頓、片付けがしっかりできること。

上記の八か条が子どもの中に根付いてきました。

### ②文教っ子スタンダード

建学の精神「人間愛」に基づく本校の教育方針や教訓、服装・持ち物、その他で家庭と共通理解したいこと等を記した「文教っ子スタンダード」を作成し配布することにより、教育活動における一定の理解のもと家庭と子どもたちの品位を保持することができました。

### ③防災意識の向上

さまざまな設定において充実した避難訓練を実施できました。「防災の日」を設定し、どのような災害においても「自助・共助・公助」の精神で、生命を守っていけるよう、防災意識を高めています。

### ④新型コロナウイルス感染症への対応

子ども達の生命と安全を第一に、感染の状況を踏まえ、対面授業とオンライン授業を組み合わせながら、学びの場を保証してまいりました。今後も、状況に合わせて、さまざまな学びの形を組織的に探ってまいります。

## 文教大学付属幼稚園

### 当該年度の教育活動に関する事業

#### ①新しい幼稚園教育要領の趣旨を生かしたカリキュラムづくり

新幼稚園教育要領が施行されて4年目。学習指導要領等に基づき教育課程を編成し、それを実施・評価し改善していく「カリキュラム・マネジメント」が最も重要であることを認知し、本園のカリキュラムとの関連性の確認と見直しを行いました。

#### ②様々な「遊び」の中で、組織的かつ計画的に教育課程を実践し、「学ぶ、をあそぼう。」の具現化

2021年度はコロナ禍により様々な「遊び」が制限されましたが、罹患防止対策として各学年（少人数）での保育活動に組織的かつ計画的に切り替えたことで、一人一人の個性に合わせた「遊び」が満足度の高いものとなり、「学ぶ、をあそぼう。」の具現化の一助とすることができました。

#### ③「遊び」「運動」「行事」「生活」等の活動を工夫した、生きる力の土台を広げる教育のさらなる推進

2021年度はコロナ禍によりそれぞれの活動が制限されましたが、罹患防止対策として各学年（少人数）での保育活動に組織的かつ計画的に切り替えたことで、「遊び」「運動」「行事」「生活」等においても、限られた時間の中で集中して活動することで、個々の能力向上と自己肯定感をさらに醸成し、生きる力の土台を広げる教育活動を推進することができました。

#### ④動植物と触れ合う機会を増やし、自然の変化を肌で感じたり命の大切さを実感したりする活動を通した、豊かな感性の育み

2021年度はコロナ禍により年中園児の「芋ほり遠足（バス利用）」が中止になりましたが、5月に附属中学校・高等学校の緑地の一部を借用して、芋畑（20株程度栽）を開墾しました。身近に苗の植え付けから成長過程までを観察することができるため、植物の変化を感じ取ったり、収穫する喜びを実体験する活動により、豊かな感性を育むことができました。

#### ⑤コロナ禍での園行事制限下でも工夫を凝らした教育活動

三密を避けた園行事の実践のため、5月の「親子遠足」は「遠足ごっこ」に変更し、近隣散策（バス利用なし及び親同伴なし）として実施。8月の「お泊り保育」は「サマースペシャル」に変更し、各種ゲーム・お化け屋敷・盆踊り等を各クラスで1日ずつ実施。10月の「運動会」は「スポーツデー」に変更し、各学年で2日間に分けて実施。12月の「お菓子バイキング」は「GO・TO・お菓子」に変更し、幼稚園ホールでの飲食は行わず、チケット制のお菓子持ち帰りとなりました。どの行事も園児たちが楽しめる内容をふんだんに盛り込み、一瞬一瞬の喜びを感じ取れるように工夫を凝らした教育活動としました。

### 当該年度の研究活動・支援事業

#### ①品川区特別支援教育・巡回相談員の助言・指導を効果的に利用した、個々の園児の課題に対応した指導及びそれを踏まえた保護者との連携

2021年度は品川区特別支援教育・巡回相談員の助言・指導を3回にわたり受けることができました。特別支援を必要とする園児の対応には、相談員の行動観察及び担任教諭からの情報提供により、対象園児に適切な指導が行われるように、幼稚園・保護者・担任教諭の3者の共通認識と連携について、効果的な助言・指導を受けることができました。

#### ②品川区私立幼稚園協会・東京都私立幼稚園連合会研修会への参加による教員の資質向上

2021年度はコロナ禍により、品川区私立幼稚園協会・東京都私立幼稚園連合会研修会は中止になりました。

#### ③Webを利用した研修会・講演会等の積極的な利用

8月の幼稚園教諭研修はオンライン研修に8名が参加しました。12月品川区幼稚園協会園長研修会で実施した講演「これからの幼稚園経営」をWeb配信（品川区私立幼稚園協会会員限定配信）しました。1月品川区私立幼稚園協会で開催した特別支援研修「保護者と一緒に考える子どもたちとの関わりのコツ」をWeb配信しました。（品川区私立幼稚園協会会員限定配信）

## 当該年度の学習者支援事業

## ①「目標とする力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が身につく計画的な教育活動の実践

2021年度はコロナ禍により、一年間の保育時間数が少なくなりましたが、「遊び」を通して身につく力の素について、時間を効果的に使って実践できるよう「カリキュラム・マネジメント」の検討を重ね、短時間でも楽しめる内容に変更しながら保育活動を組織的かつ計画的に実施しました。

## ②真の学ぶ力の育成

「遊び」を通して「意欲」「見出す力」「実行力」等の素を育み、「認める・見守る・ともに楽しむ」という“文教スタイル”を継続して自己肯定感を育て、真の学力を育成しました。

## ③付属小学校との連携及び保護者への積極的情報提供

2021年度はコロナ禍により、付属小学校への見学は中止となりましたが、付属小学校説明会は実施できました。その他付属小学校だよりの配布や、付属小学校入学希望者への保護者面談を2回に増やすなど、付属小学校に関する情報提供を積極的に行いました。

## ④「文教幼児教室（課外活動として実施している外部業者による学習支援プログラム）」との連携

2021年度はコロナ禍により、基本的に幼稚園が閉鎖された時は閉室としましたが、この幼児教室は保護者からの期待度も高く、コロナ禍期間中は年中・年少クラスともに定員10名を設け、密を避けながら実施しました。年中4名、年少4名が課外活動として参加しました。

## 当該年度の保護者連携事業・地域連携事業

## ①保護者との連携方法の工夫

2021年度はコロナ禍により、登降園時や掲示板での至急の連絡ができないときは、保護者が登録している安否確認システムを活用して、幼稚園からの発信を速やかに行いました。また、保育活動の様子については、ホームページブログで簡単に閲覧できるように配慮しました。

## ②保護者と連携した諸行事の円滑な実施と品川区私立幼稚園「保護者教職員連合会」の諸行事への協力

2021年度はコロナ禍により、品川区私立幼稚園「保護者教職員連合会」が主催する連合大会はWeb配信し保護者が視聴できるようにしました。保護者による「あしなが育英会募金」は従来どおり実施できました。

## ③地域や家庭のニーズの把握と必要な対策の実施

2021年度も保護者アンケートを実施しました。コロナ禍で幼稚園行事が通常どおり実施できない中、代替行事の実施などを保護者の方がどのように感じているか、生の声を反映できる貴重な情報です。今後も継続して保護者のニーズを把握し対策を講じていきます。

## ④未就園児保護者との連携及び保護者同士の交流のための「ぶんぶん広場」の充実

2021年度はコロナ禍により、「ぶんぶん広場」は6回(4回中止)実施しました。Web登録を開始してから2年目ですが、70名あまりの登録者がありました。参加された保護者の方も顔を合わせる機会も増え、保護者同士の交流の一助となりました。

## ⑤共働き保護者を対象とした預かり時間延長の推進

2021年度は1学期から共働き保護者のみ18時(通常預かりは17時)

まで延長しました。コロナ禍であるため、延長預かり人数の上限定員(15名)を設けましたが、毎回、上限いっぱい申し込みがあり、時間延長を推進することができました。

## 校舎施設設備の改善事業

## ①園舎の施設設備機能の有効活用

幼稚園施設の定期点検や用務員による園庭の管理はいつも細部まで行っています。2021年度もコロナ禍であったため、換気機能の充実した大型冷暖房機器の使用により、窓やドアをあけ放って、快適に過ごせるよう有効活用することができました。

## ②園児の目線に立った施設設備の整備

幼稚園施設のコンクリート部分や鋭角な部分には、クッション性の高いゴムで覆い園児の安全を心がけています。また、毎朝、教員による園舎内の点検・清掃についても従来通り行い、安全管理に努めています。なお、2021年度はコロナ禍であったため、園児の降園後に遊具・おもちゃの消毒を毎日欠かさず行い、罹患防止に努めました。

## 入試制度、募集強化事業

## ①ホームページの精査と募集力強化

2020年度にリニューアルしたホームページの閲覧状況を毎月アクセス解析し、どの内容部分が一番閲覧されているか随時確認することにより、入園を希望する保護者のニーズに合うホームページ作りに努めました。

## ②保護者のニーズとのミスマッチの防止

2021年度はコロナ禍により、5月の幼稚園説明会は中止、外部の幼稚園説明会も不参加としましたが、9月に幼稚園で実施する入園説明会は、3密を防ぐ措置を行いながら実施しました。また、10月に個別相談会も定員制で実施しました。

## ③タイムリーな情報を発信できる動画やブログの有効活用

2021年度はホームページ閲覧状況を分析し、保護者の方が必要と感じるページを中心に、コロナ禍でも幼稚園活動が明確に見える形でブログの更新回数を増やしました。これにより、保護者が新しい情報を得やすくなりました。

## ④プレスクール実施内容の工夫

2021年度は5月と9月のプレスクールを緊急事態宣言中のため中止、2022年2月のプレスクールも第6波のため中止としましたが、開催を楽しみにしている子ども達のために、5月は「こいのぼりの作り方」をYouTube配信しました。6月以降(9月・2月を除く)は、3密を防止しながらできる範囲で行い、参加人数が多い時は2回に分けて実施しました。

## その他

## ①「文教幼児教室」との募集方法、連携の仕方を工夫

2021年度もコロナ禍により、「文教幼児教室」の開室は、幼稚園が開園していれば実施することとしました。また、「文教幼児教室」の入会については、保護者との齟齬が発生しないように、入会希望者との面談を行うことによって、入会時期や家庭に必要な教育の仕方など、幼稚園と連携した内容を工夫して実施しました。

### ②保護者の満足度を高める教育活動の充実

2021年度もコロナ禍により、全ての活動が時間短縮であったり、学年別に行ったりしましたが、2021年度の保護者アンケート結果は、全体的に満足度が向上しました。コロナ禍であっても、幼稚園での行事がスペシャルデーにアレンジされて、子ども達の喜ぶ姿がたくさん見られたことが理由の一つと捉えています。

### ③新型コロナウイルス感染症への対応

2021年度も保護者には「健康チェックカード」を登園時に持つてくることをお願いし、毎日の子どもの様子や家族の様子を検温と共に記載してもらいました。登園時は再度園児の検温を行い、37.5℃以上ある時は、登園できないこととしました。幼稚園内では、3密を防ぐことの徹底と手洗い・消毒・換気(うがいは罹患防止のため、幼稚園内では行わない)を続けています。お弁当はアクリルパテーションを利用して黙食15分を基本としました。罹患者が出た場合は、幼稚園が休みの時でも幼稚園のメールアドレスに連絡していただき、その連絡を元に品川区に詳細を報告して濃厚接触者の確定を行いました。保護者は保健所と速やかに連絡を取ることを基本とし、3者が密な連携を取ることで、幼稚園内の罹患防止に努めました。

## 八ヶ岳寮

### 当該年度の主な事業内容

経年劣化による建物・設備等の不具合について修繕工事等を適宜実施し、利用する学生・生徒・児童・園児・教職員に対しての教育環境の整備を継続しました。また2021年度は新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで運営しました。

2021年5月1日現在

[ 1 ] 教育研究上の基本となる組織に関する情報

大学等	学部・研究科等	学科等	課程等
文教大学	教育学部	学校教育課程	国語専修
			社会専修
			数学専修
			理科専修
			音楽専修
			美術専修
			体育専修
		家庭専修	
		英語専修	
		発達教育課程	特別支援教育専修
			初等連携教育専修
			児童心理教育専修
			幼児心理教育専修
			人間科学科
	臨床心理学科		
	心理学科		
	文学部	日本語日本文学科	
		英米語英米文学科	
		中国語中国文学科	
		外国語学科	
	情報学部	情報システム学科	
		情報社会学科	
		メディア表現学科	
	健康栄養学部	管理栄養学科	
	国際学部	国際理解学科	
		国際観光学科	
	経営学部	経営学科	
大学院	教育学研究科	学校教育専攻	修士課程
	人間科学研究科	臨床心理学専攻	修士課程 博士(後期)課程
		人間科学専攻	修士課程
		言語文化研究科	言語文化専攻
	情報学研究科	情報学専攻	修士課程
	国際学研究科	国際学専攻	修士課程
専攻科	教育専攻科	教育学専攻	
外国人留学生別科			
文教大学付属高等学校		全日制課程普通科	
文教大学附属中学校			
文教大学附属小学校			
文教大学附属幼稚園			

[ 2 ] 教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報

専任教員数 ※大学の教員数には学長を含みません。

大学等	学部・研究科等	学科等	教員数*1	
文教大学	教育学部	学校教育課程	45	
		発達教育課程	11	
		心理教育課程	8	
		人間科学部	人間科学科	14
	臨床心理学科	15		
	心理学科	13		
	文学部	日本語日本文学科	10	
		英米語英米文学科	10	
		中国語中国文学科	8	
		外国語学科	12	
	情報学部	情報システム学科	11	
		情報社会学科	10	
		メディア表現学科	9	
	健康栄養学部	管理栄養学科	17	
	国際学部	国際理解学科	17	
		国際観光学科	13	
	経営学部	経営学科	17	
大学付属研究所	生活科学研究所	1		
大学院	教育学研究科	学校教育専攻(修士課程)	(24)	
	人間科学研究科	臨床心理学専攻(修士課程)	(15)	
		臨床心理学専攻(博士(後期)課程)	(6)	
		人間科学専攻(修士課程)	(22)	
	言語文化研究科	言語文化専攻(修士課程)	(28)	
		言語文化専攻(博士(後期)課程)	(11)	
	情報学研究科	情報学専攻(修士課程)	(22)	
	国際学研究科	国際学専攻(修士課程)	(14)	
	専攻科	教育専攻科	教育学専攻	(17)
	外国人留学生別科			(4)
文教大学付属高等学校		全日制課程普通科	36	
文教大学附属中学校			23	
文教大学附属小学校			17	
文教大学附属幼稚園			11	

\*1) ( )内数字は大学との兼任教員数

教員の保有学位

※学長を含みません。

教育学部	博士:36人	教育学、学校教育学、心身障害学、文学、理学、学術、芸術学、美術、体育科学、医学、心理学、D.Ed.、PhD in Applied Linguistics、学術情報学
	修士:26人	教育学、社会福祉学、文学、社会科学、音楽、体育学、保健学、家政学、理学、心理学
	学士:2人	教育、音楽
人間科学部	博士:20人	心理学、教育学、医学、学術、人文科学、カウンセリング、社会学、社会福祉学、医療福祉ジャーナリズム学、医科学
	修士:21人	心理学、カウンセリング、社会学、教育学、法学、学術、文学、体育学、経営学、医科学
	学士:1人	教育
文学部	博士:25人	文学、言語学、人文科学、教育学、学術、国際関係学、人間文化、Ph.D.、地域研究、イギリス文学、応用言語学、図書館情報学
	修士:15人	文学、M.A.、言語学、教育学、英語教育、学術
情報学部	博士:17人	工学、情報学、理学、政策・メディア、文学、学術、システムズ・マネジメント、社会学、Ph.D.
	修士:10人	映像身体学、芸術学、理学、文学、法学、学術、社会心理学、図書館情報学
	学士:3人	造形、文学、社会学
健康栄養学部	博士:8人	食品栄養学、保健学、医学、理学、体育科学、農学、社会学
	修士:6人	家政学、教育学、心身健康科学、栄養学、理学
	学士:3人	農学、理学
国際学部	博士:11人	Ph.D.、環境学、地域研究、文学、経済学、法学、農学、政策科学、人間・環境学
	修士:17人	国際学、社会学、文学、経済学、商学、教育学、法学、M.A.、M.Ed.、経営管理学、体育学
	学士:2人	文学、経済学
経営学部	博士:12人	経営学、経営工学、経済学、社会学、組織行動学、言語学、学術、商学
	修士:4人	経営学、商学、法学
	学士:1人	商学
生活科学研究所	学士:1人	社会福祉学

教員個別の保有学位及び業績の詳細は、文教大学ホームページで公開しています。

<https://www.bunkyo.ac.jp>

Home > 研究情報・図書館 > 研究者情報データベースを参照して下さい。

### [3] 学生に関する情報

#### 学生・生徒・児童・園児数

大学等	学部・研究科等	2021年5月1日現在				2022年5月1日現在	
		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数	卒業者数	進学者数
文教大学	教育学部	350	367	1,400	1,517	419	12
	人間科学部	400	412	1,600	1,717	424	28
	文学部	360	315	1,440	1,484	394	22
	情報学部	285	311	1,140	1,247	268	3
	健康栄養学部	100	71	400	392	84	0
	国際学部	245	279	980	1,098	264	3
	経営学部	165	183	660	727	191	11
大学院	教育学研究科	10	2	20	4	2	0
	人間科学研究科 (修士課程)	30	13	60	33	17	0
	人間科学研究科 (博士(後期)課程)	2	0	6	0	0	0
	言語文化研究科 (修士課程)	10	1	20	11	9	2
	言語文化研究科 (博士(後期)課程)	2	1	6	3	0	0
	情報学研究科	6	6	12	13	5	1
	国際学研究科	5	5	10	9	0	0
専攻科	教育専攻科	15	1	15	1	1	0
外国人留学生別科		40	2	40	2	2	2
文教大学付属高等学校		270	294	810	791	255	224
文教大学付属中学校		200	155	600	515	181	181
文教大学付属小学校		50	56	300	332	55	55
文教大学付属幼稚園		60	60	180	158	58	58

#### 志願者数・受験者数・合格者数

学部	課程・学科・専修	志願者数	受験者数	合格者数	
教育学部	学校教育課程	国語専修	797	773	154
		社会専修	883	867	165
		数学専修	861	826	151
		理科専修	396	369	104
		音楽専修	176	164	47
		美術専修	75	74	30
		体育専修	407	392	85
		家庭専修	138	131	43
	英語専修	480	463	128	
	小計	4,213	4,059	907	
	発達教育課程	特別支援教育専修	275	264	106
		初等連携教育専修	607	584	170
		児童心理教育専修	445	434	145
		幼児心理教育専修	241	229	122
小計	1,568	1,511	543		
合計	5,781	5,570	1,450		
人間科学部	人間科学科	956	924	560	
	臨床心理学科	765	729	500	
	心理学科	887	851	587	
	合計	2,608	2,504	1,647	
文学部	日本語日本文学科	859	833	422	
	英米語英米文学科	525	506	385	
	中国語中国文学科	202	191	169	
	外国語学科	275	260	221	
	合計	1,861	1,790	1,197	
情報学部	情報システム学科	537	507	161	
	情報社会学科	433	403	251	
	メディア表現学科	475	450	166	
	合計	1,445	1,360	578	
健康栄養学部	管理栄養学科	338	303	265	
	合計	338	303	265	
国際学部	国際理解学科	749	706	404	
	国際観光学科	536	503	320	
	合計	1,285	1,209	724	
経営学部	経営学科	784	733	371	
	合計	784	733	371	
大学合計		14,102	13,469	6,232	

## 文教大学・大学院

### 文教大学3つのポリシー

#### 【学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)】

文教大学は、建学の精神である「人間愛」に基づき、人間を信頼し全ての人に対して温かい愛情を持つ人材の育成を実践し、人間に直接関わる課題、現代社会が抱える様々な問題に関する専門的知識、技術を身に付け、本学の各教育課程に定める所定の単位を修め、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学士の学位を授与します。

- ①専門的知識・技能の活用力  
各分野における理論的、専門的な知識と技術を修得し、それらを活用することができる。
- ②問題発見・解決力  
修得した知識と技術を生かし、問題を発見し、解決していくことができる。
- ③人間愛の実践  
他者を尊重し、リーダーシップ、コミュニケーションをとることができ、積極的に行動し、社会に貢献することができる。

#### 【教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)】

文教大学は、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に定める人材育成の目標を達成するため、建学の精神である「人間愛」の教育の実践を基盤とし、以下の点を踏まえて、共通教育・共通教養科目、専門教育科目をはじめとした教育課程編成に必要な科目を次の方針で編成します。

- ①幅広い教養の育成と専門領域の深化を目標とした教育課程を編成する。
- ②教員と学生の対話を重視し、ゼミナール等の少人数教育を重視した教育課程を展開する。
  - (1)3年次、4年次ではゼミナール、卒業研究等の科目において学修の成果である卒業論文、レポート、作品等をまとめられるよう少人数教育を実践する。
  - (2)開設する各科目において、授業方法として講義、実験、実習を適切に組み合わせ、知識、技術の修得を促進する。
  - (3)将来の進路を見据えキャリア形成科目、キャリアを考える機会を提供する。
- ③留学、インターンシップ等の学外・海外実習プログラムを設け、学外においてコミュニケーション等の技術、専門的知識を学修できる場を提供する。

#### 【入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)】

文教大学は、次のような学生の入学を期待しています。

- ①人間愛の教育に対する理解と共感を有する人
- ②志望する学部・専門分野に対する関心と学ぼうとする意欲を持っている人
- ③志望する学部で学ぶにあたり必要な一定の学力を有する人

## 文教大学附属中学校・高等学校

### 【求める生徒像】

- ①学園の建学の精神である「人間愛」の意味を理解し、自分と同様に人を大切に思いやり、その思いを社会奉仕などに具現化できる生徒。
- ②将来自分の進む進路の実現に向けて、日々の勉学に取り組む強い意志と向上心を持つ生徒。
- ③学校行事・部活動等に積極的に参加し、人との交わりの中で協調性・社会性を養うことができる生徒。

## 文教大学附属小学校

### 【求める児童像】

- ①「慈愛の心をもった子ども 自ら学ぶ子ども 情操豊かな子ども 頑張る子ども 明朗な子ども」
- ②「人間愛」あふれる文教っ子八ヶ条から、
  - ◎大きな声であいさつ・返事ができること
  - ◎素直な気持ち、謙虚さをもって人に接すること
  - ◎人のせいではなく、自分で責任がもてること

## 文教大学附属幼稚園

### 【求める園児像】

満3歳に達し、心身共に健康な子で、学園の建学の精神である「人間愛」の教育方針並びに幼稚園の教育目標「素直で明るい元気な子ども」に、御理解・御賛同いただける御家庭のお子様。

各学部・大学院研究科のポリシーは、文教大学ホームページで公開しています。

<https://www.bunkyo.ac.jp/about/basicpolicy/>



### 学部

教育学部



人間科学部



文学部



情報学部



国際学部



健康栄養学部



経営学部



### 大学院

教育学研究科



人間科学研究科



言語文化研究科



情報学研究科



国際学研究科



就職者数及び卒業後の進路

文教大学

学部・学科		状況別卒業生数 (2021年度卒業生数)	大学院研究科	大学学部	短期大学本科	専攻科	別科	就職者	専修学校 外国の学校	進学準備中	就職準備中	その他	不詳	合計
教育学部	学校教育課程		9	0	0	1	0	281	1	0	4	1	6	303
	心理教育課程		0	1	0	0	0	116	0	0	0	0	0	117
	合計		9	1	0	1	0	397	1	0	4	1	6	420
人間科学部	人間科学科		4	0	0	0	0	134	1	0	0	1	4	144
	臨床心理学科		16	0	1	0	0	97	3	1	0	0	5	123
	心理学科		2	0	0	0	0	144	1	1	5	1	3	157
合計		22	0	1	0	0	375	5	2	5	2	12	424	
文学部	日本語日本文学科		3	0	0	0	0	93	0	0	6	1	7	110
	英米語英米文学科		3	0	0	1	0	107	4	0	1	0	4	120
	中国語中国文学科		5	0	0	0	0	70	3	0	2	0	3	83
	外国語学科		0	1	0	0	0	74	2	0	0	1	3	81
合計		11	1	0	1	0	344	9	0	9	2	17	394	
情報学部	情報システム学科		1	0	0	0	0	76	0	0	2	1	4	84
	情報社会学科		0	0	0	0	0	86	0	0	2	0	3	91
	メディア表現学科		0	0	0	0	0	84	2	0	5	0	2	93
	合計		1	0	0	0	0	246	2	0	9	1	9	268
健康栄養学部	管理栄養学科		0	0	0	0	0	79	0	0	5	0	0	84
	合計		0	0	0	0	0	79	0	0	5	0	0	84
国際学部	国際理解学科		1	0	0	0	0	113	1	0	2	3	2	122
	国際観光学科		1	0	0	0	0	137	0	0	0	3	1	142
	合計		2	0	0	0	0	250	1	0	2	6	3	264
経営学部	経営学科		4	1	0	0	0	167	6	0	7	3	3	191
	合計		4	1	0	0	0	167	6	0	7	3	3	191
大学合計			49	3	1	2	0	1,858	24	2	41	15	50	2,045

主な就職先

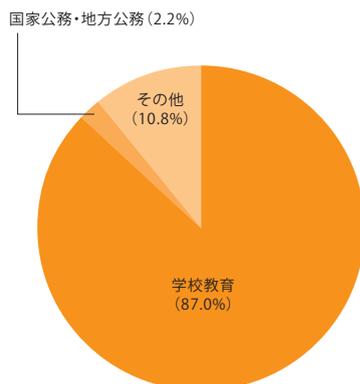
教育学部

公立小学校教員／公立中学校教員／公立高等学校教員／公立特別支援学校教員  
 公務員保育士(埼玉県さいたま市、春日部市、東京都江戸川区・中央区、栃木県宇都宮市)／(株)NTT東日本ー南関東／日本製紙クレシア(株)  
 (株)クレスコ／エヌ・ティ・ティ・データ・システム技術(株)／(株)LITALICO／アイリスオーヤマ(株)／(株)日本マンパワー／(株)河合塾マナビス  
 (学)東京理科大学／(株)スプリックス／(社)福弘和会／台東区役所／千葉市役所／加須市役所／宇都宮市役所

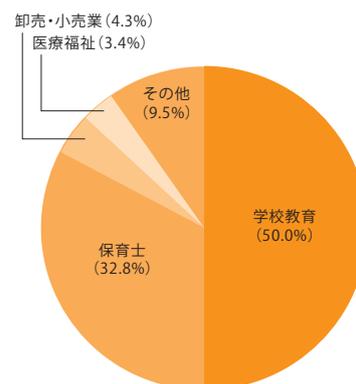
【産業別就業者の割合】

※一時的な仕事に就いた者を除く。

【学校教育課程】



【心理教育課程】



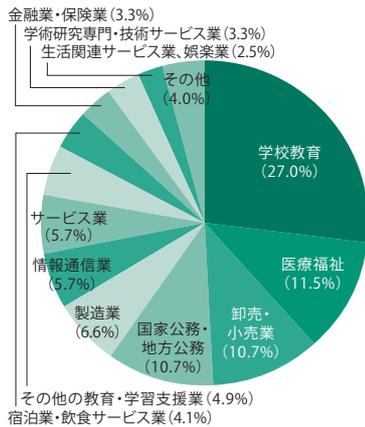
## 人間科学部

(株)ネクスコ・メンテナンス関東/フランスベッド(株)/興国インテック(株)/綜研化学(株)/KOA(株)/(株)大塚商会/ディップ(株)/(株)学情(株)LITALICO/東日本旅客鉄道(株)/フルサト工業(株)/(株)マルゼン/三菱電機住環境システムズ(株)/(株)サンドラッグ/(株)ベルク(株)栃木銀行/東京信用金庫/東京海上日動調査サービス(株)/穂高(株)/(株)目黒雅叙園/(社福)聖隷福祉事業団(医)IMSグループ(板橋中央総合病院グループ)/(株)Kaizen/ポラス(株)/独立行政法人 国立青少年教育振興機構/さいたま市役所 江戸川区役所/埼玉県庁/千葉県庁/公立学校教員

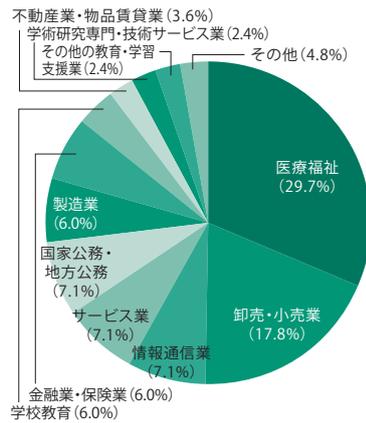
### 【産業別就業者の割合】

※一時的な仕事に就いた者を除く。

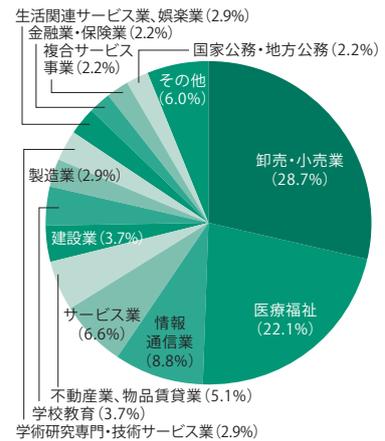
【人間科学科】



【臨床心理学科】



【心理学科】



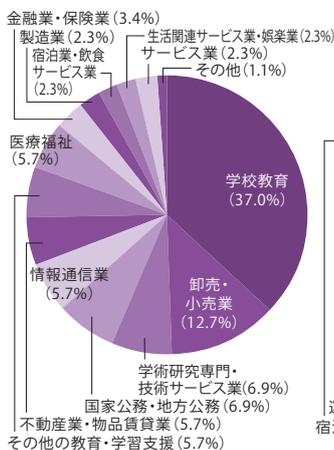
## 文学部

(株)マキタ/理研計器(株)/(株)日本デジタル研究所/ドコモ・データコム(株)/(株)ぎょうせい/東京地下鉄(株)/(株)丸和運輸機関(株)星医療酸器/(株)メディセオ/(株)TTC/(株)あさひ/(株)ヤオコー/イオンリテール(株)/第一勧業信用組合/(株)足利銀行 積水ハウス不動産東京(株)/ISIグローバル(株)/(株)森ビルホスピタリティコーポレーション/(株)東横イン/(株)星野リゾート・マネジメント(株)臨海/エン・ジャパン(株)/(株)トヨタユーゼック/(社福)佑啓会/(株)BP/自衛隊幹部候補生/越谷市役所/宇都宮市役所/八王子市役所 公立学校教員

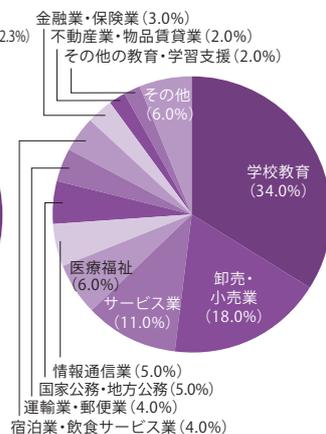
### 【産業別就業者の割合】

※一時的な仕事に就いた者を除く。

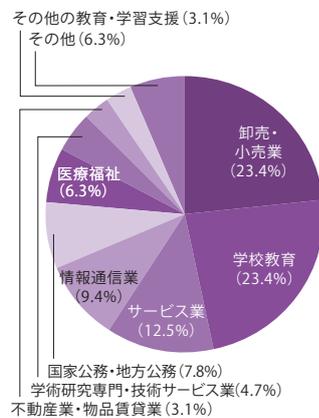
【日本語日本文学科】



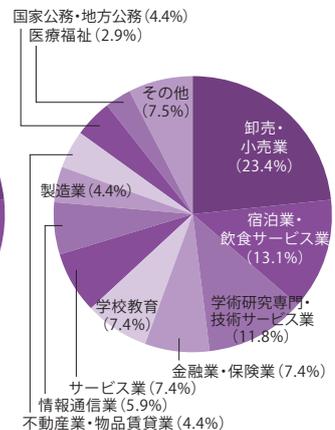
【英米語英米文学科】



【中国語中国文学科】



【外国語学科】



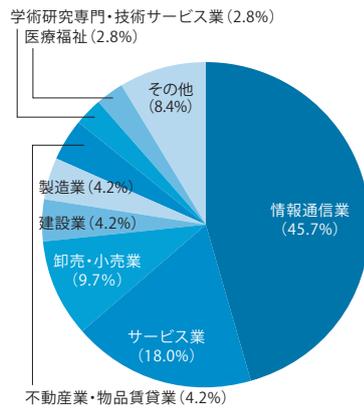
## 情報学部

富士通ネットワークソリューションズ(株)／富士ソフト(株)／日本情報産業(株)／日本システム技術(株)／神奈川県警察本部／広島県警察本部  
 公益財団法人 日本道路交通情報センター／茅ヶ崎市役所／旭情報サービス(株)／ネットワンシステムズ(株)／ダイワボウ情報システム(株)  
 公立学校教員／かんぼシステムソリューションズ(株)／エヌ・ティ・ティ・アドバンステクノロジー(株)／ウチダエスコ(株)／アイリスオーヤマ(株)  
 NRIシステムテクノ(株)／JCOM(株)／DHLサプライチェーン(株)／(株)日立ソリューションズ／(株)日本総研情報サービス  
 (株)日テレアクセス／(株)トミーテック／(株)タミヤ／(株)サイバーエージェント／(株)インテック／(株)TBSアクト／(株)NTTデータNJK  
 (株)JR東日本情報システム／(株)DTS

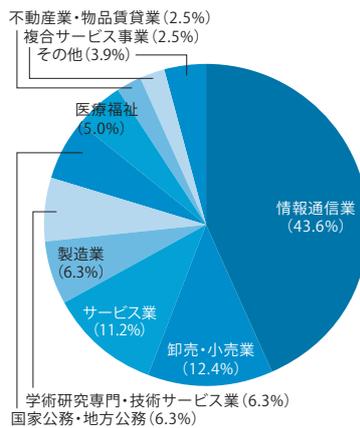
### 【産業別就業者の割合】

※一時的な仕事に就いた者を除く。

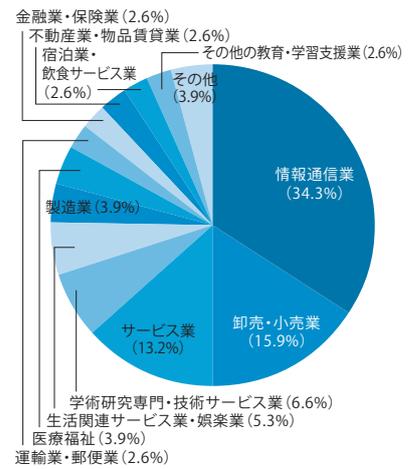
#### 【情報システム学科】



#### 【情報社会学科】



#### 【メディア表現学科】



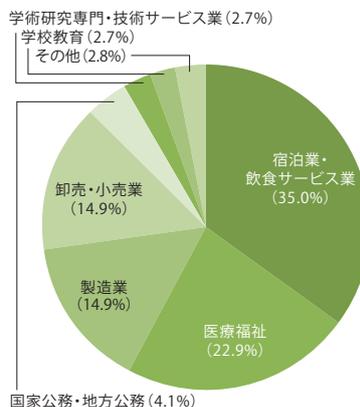
## 健康栄養学部

(医) 社団康心会／(医) 正史会／(株) LEOC／(株) グリーンハウス／(株) ココカラファインヘルスケア／(株) スギ薬局／(株) ブロンコビリー  
 (株) メフォス／(株) レパスト／(株) ローソン／(株) 学研ココファン・ナーサリー／(株) 原田／(株) 叙々苑／(株) 武蔵野／(株) 北川製菓  
 (社福) 厚生館福祉会／(社福) 慈光福祉会／ウエルシアホールディングス(株)／エームサービス(株)／カネ美食品(株)／ソシオフードサービス(株)  
 ソントン食品工業(株)／公益財団法人積善会／神奈川県庁／帝京大学医学部附属溝口病院／東京都庁／日清医療食品(株)  
 日本KFCホールディングス(株)／富士産業(株)／薬樹(株)

### 【産業別就業者の割合】

※一時的な仕事に就いた者を除く。

#### 【管理栄養学科】



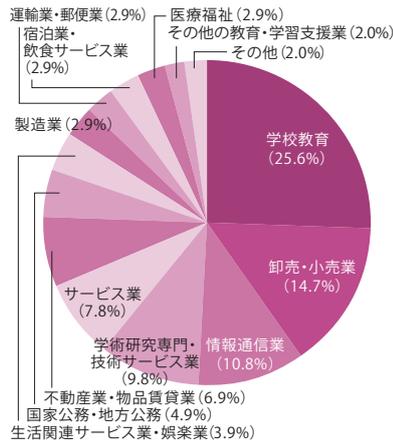
## 国際学部

(株)一条工務店 / (株)でん六 / (株)アルファ / (株)バンダイ / (株)メニコン / (株)日立システムズエンジニアリングサービス / (株)インテック  
 ヤマト運輸 / (株)アイリスオーヤマ / (株)ヨドバシカメラ / (株)常陽銀行 / (株)神奈川銀行 / (株)静岡銀行 / (株)ニトリホールディングス  
 キリンホールディングス / (株)東急リゾート&ステイ / 森トラスト・ホテルズ&リゾート (株) / 東京ベイヒルトン (株)  
 (株)星野リゾート・マネジメント / アパホテル (株) / 東武トップツアーズ (株) / 横浜ベイサイドマリーナ (株) / 日本郵便 (株)  
 エン・ジャパン (株) / 三井不動産商業マネジメント (株) / (株)日立システムズ / 水戸市役所 / 上田市役所 / 神奈川県警察本部 / 公立学校教員

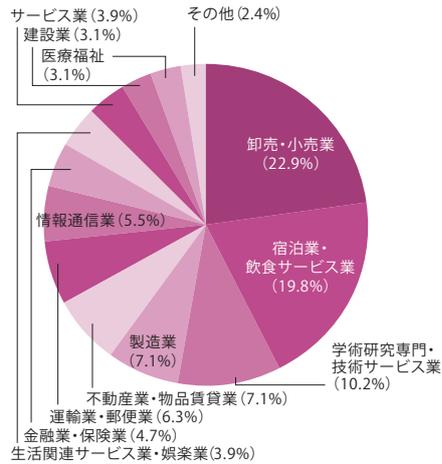
### 【産業別就業者の割合】

※一時的な仕事に就いた者を除く。

【国際理解学科】



【国際観光学科】



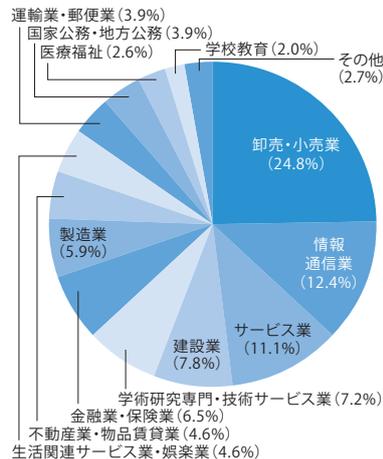
## 経営学部

大成建設 (株) / 新日本建設 (株) / 積水ハウス (株) / (株)ラコステジャパン / (株)ヤマダコーポレーション / (株)ミロク情報サービス  
 ディップ (株) / フコク情報システム (株) / 富士ソフト (株) / (株)システナ / ASKUL LOGIST (株) / (株)ACN / サミット (株)  
 (株)ヨドバシカメラ / (株)東和銀行 / (株)筑波銀行 / (株)ゆうちょ銀行 / さわやか信用金庫 / 第一勧業信用組合  
 神奈川県市町村職員共済組合 / 栃木県住宅供給公社 / 大和ハウス工業 (株) / 長塚歩税理士事務所  
 一般財団法人日本モーターボート競走会 / 日本郵便 (株) / さがみ農業 (協) / 総合警備保障 (株) / 日本空調サービス (株) / 前橋市役所  
 公立学校教員

### 【産業別就業者の割合】

※一時的な仕事に就いた者を除く。

【経営学科】



## 就職者数及び卒業後の進路

### 文教大学大学院・専攻科

大学院・専攻科		大学院研究科	大学学部	短期大学本科	専攻科	別科	就職者	外国の学校 専修学校	進学準備中	就職準備中	その他	不詳	合計
教育学研究科	学校教育専攻	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
人間科学研究科	臨床心理学専攻 (修士課程)	0	0	0	0	0	12	0	0	1	1	0	14
	臨床心理学専攻 (博士課程)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	人間科学専攻 (修士課程)	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	3
言語文化研究科	言語文化専攻 (修士課程)	0	0	0	0	0	1	2	0	6	0	0	9
	言語文化専攻 (博士課程)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
情報学研究科	情報学専攻	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	5
国際学研究科	国際学専攻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教育専攻科	教育学専攻	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

#### 主な就職先

公益財団法人日本財団ボランティアセンター／(医)ラック／(医)恵愛会／東京特別区職員／法務省／埼玉県教育局／足立区

## 就職者数及び卒業後の進路

### 外国人留学生別科

別科	就職者	進学者	その他	不詳	計
外国人留学生別科	0	2	0	0	2

[4] 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報

大学等	学部・研究科等		修業年限	必要修得単位数	科目区分ごとの修得単位数		取得可能な学位及び専攻名称	
					必修	選択		
文教大学	教育学部	学校教育課程	4年	124単位	86単位	38単位	学士 (教育学)	
		発達教育課程			特別支援教育専修 初等連携教育専修	96単位		28単位
					児童心理教育専修 幼児心理教育専修	100単位		24単位
	人間科学部	人間科学科	4年	124単位	32単位	92単位	学士 (人間科学)	
		臨床心理学科			28単位	96単位		
		心理学科			42単位	82単位		
	文学部	日本語日本文学科	4年	128単位	42単位	86単位	学士 (文学)	
		英米語英米文学科			40単位	88単位		
		中国語中国文学科			38単位	90単位		
		外国語学科			56単位	72単位		
情報学部	情報システム学科	4年	124単位	36単位	88単位	学士 (情報学)		
	情報社会学科			48単位	76単位			
	メディア表現学科			36単位	88単位			
健康栄養学部	管理栄養学科	4年	130単位	93単位	37単位	学士(栄養学)		
国際学部	国際理解学科	4年	124単位	32単位	92単位	学士 (国際学)		
	国際観光学科			(留学生:34単位)	(留学生:90単位)			
経営学部	経営学科	4年	124単位	30単位	94単位	学士(経営学)		
大学院	教育学研究科	学校教育専攻修士課程	2年	30単位	14単位	16単位	修士(学校教育)	
	人間科学研究科	臨床心理学専攻修士課程	2年	43単位	25単位	18単位	修士(心理学)	
		臨床心理学専攻博士(後期)課程	3年	16単位	12単位	4単位	博士(心理学)	
		人間科学専攻修士課程	2年	30単位	6単位	24単位	修士(人間科学)	
	言語文化研究科	言語文化専攻修士課程	2年	30単位	0単位	30単位	修士(文学)	
		言語文化専攻博士(後期)課程	3年	16単位	0単位	16単位	博士(文学)	
	情報学研究科	情報学専攻修士課程	2年	30単位	8単位	22単位	修士(情報学)	
	国際学研究科	国際学専攻修士課程	2年	30単位	6単位	24単位	修士(国際学)	
専攻科	教育専攻科	1年	30単位	0単位	30単位	-		
	外国人留学生別科	1年	38単位	8単位	30単位	-		

授業科目のシラバスは、文教大学ホームページで公開しています。

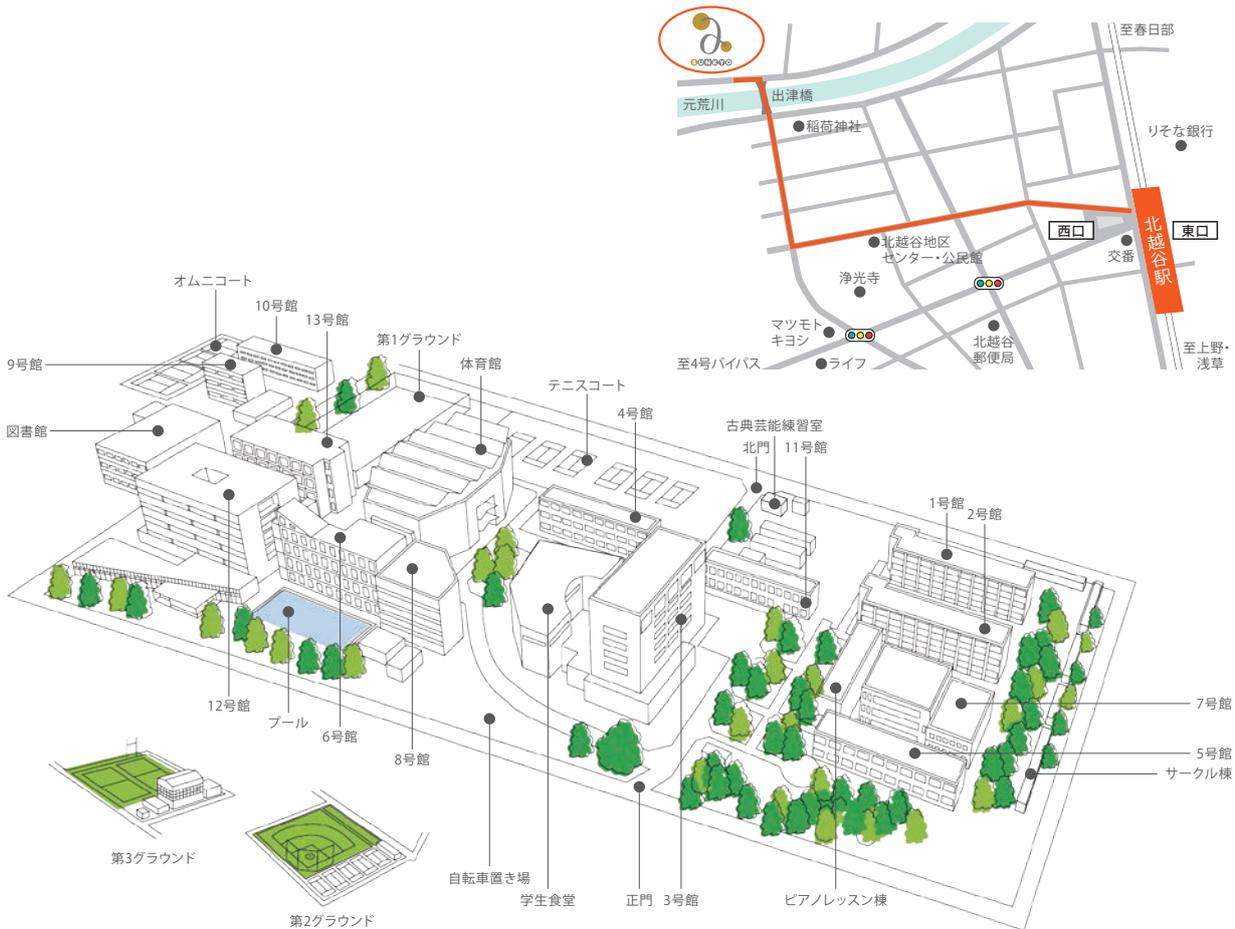
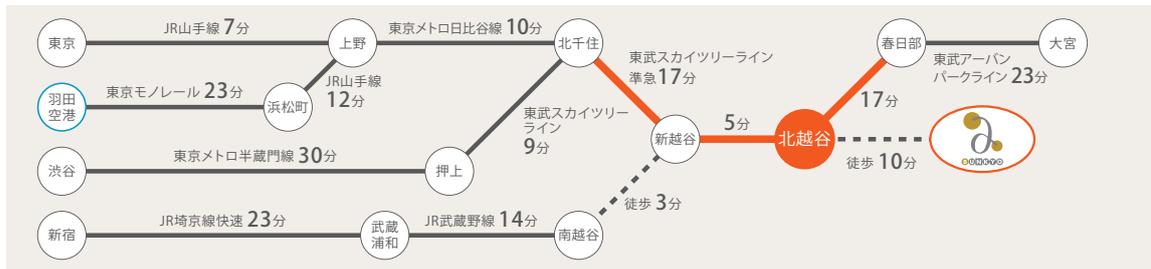
<https://www.bunkyo.ac.jp>

Home > 大学案内 > シラバス照会を参照して下さい。

[5] 学習環境に関する情報

越谷 キャンパス	所在地	埼玉県越谷市南荻島3337
	主な交通手段	東武スカイツリーライン「北越谷」駅下車
	設置学校等	○大学(教育学部/人間科学部/文学部) ○大学院(教育学研究科/人間科学研究科/言語文化研究科) ○専攻科(教育専攻科) ○外国人留学生別科

キャンパスの概要

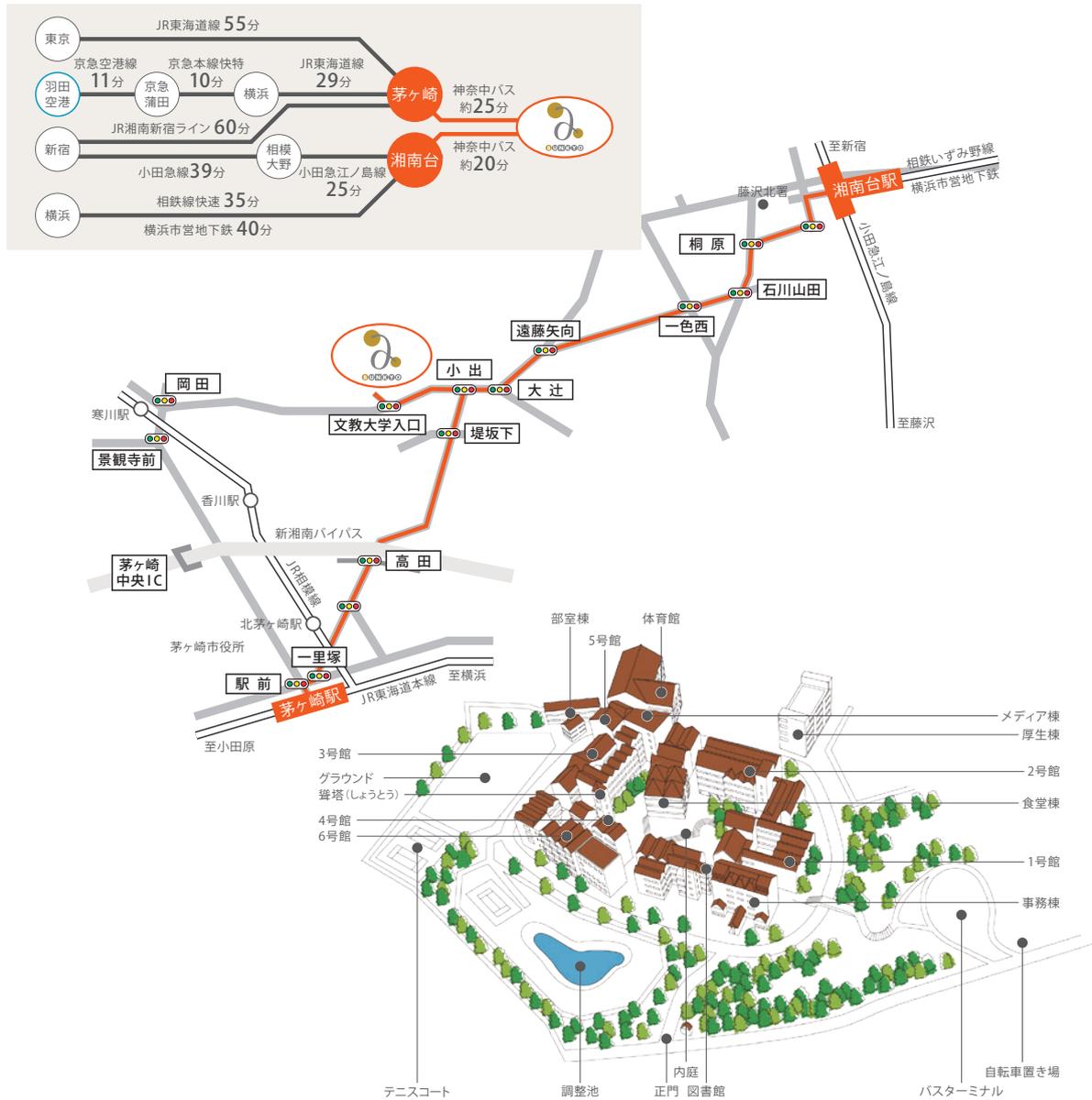


運動施設の概要

- ▶体育館(メインアリーナ1,160㎡/サブアリーナ442㎡/トレーニングルーム172㎡)
- ▶学内テニスコート(全天候型10面3,383㎡) ▶学内グラウンド(クレー3,304㎡)
- ▶第2グラウンド(テニスコート5面3,792㎡/野球場2面9,826㎡)
- ▶第3グラウンド(第2体育館384㎡/弓道場37㎡/人工芝グラウンド18,402㎡) ▶プール(400㎡)

湘南 キャンパス	所在地	神奈川県茅ヶ崎市行谷1100
	主な交通手段	小田急江ノ島線「湘南台」駅下車 西口より神奈中バス「文教大学」下車 JR 東海道線「茅ヶ崎」駅下車 北口より神奈中バス「文教大学」下車
	設置学校等	○大学 (情報学部/健康栄養学部) ○大学院 (情報学研究科)

キャンパスの概要

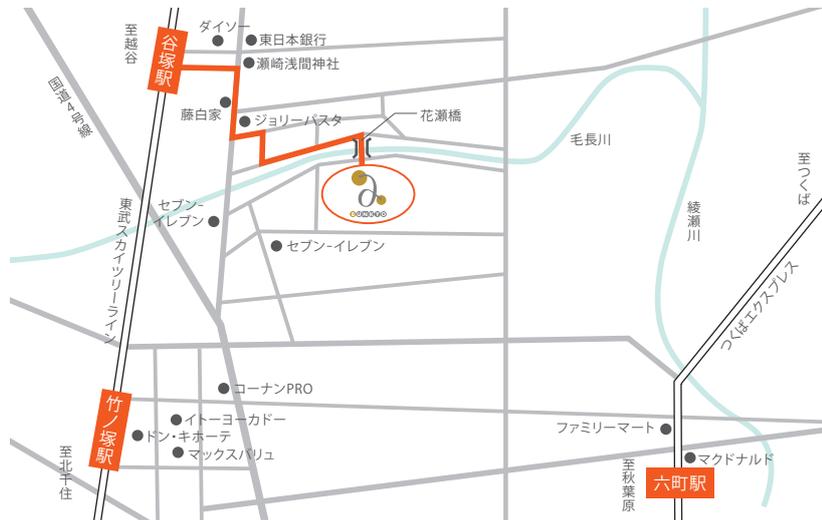
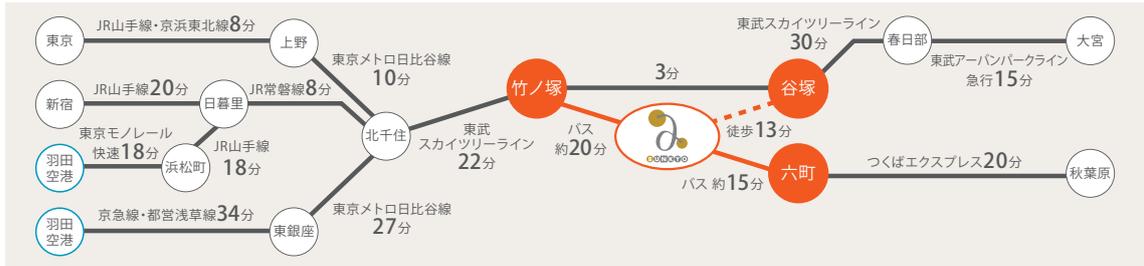


運動施設の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶体育館(大アリーナ952㎡/小アリーナ272㎡) ▶部室棟(トレーニングルーム43㎡)</li> <li>▶学内テニスコート(全天候型3面) ▶学内グラウンド(クレー8,032㎡)</li> <li>▶厚生棟屋上(弓道場435㎡)</li> </ul>
---------	--

# 東京あだち キャンパス

所在地	東京都足立区花畑5-6-1
主な交通手段	東武スカイツリーライン「谷塚」駅下車 徒歩 約13分 東武スカイツリーライン「竹ノ塚」駅下車 バス 約20分 つくばエクスプレス「六町」駅下車 バス 約15分
設置学校等	○大学(国際学部/経営学部) ○大学院(国際学研究科)

## キャンパスの概要

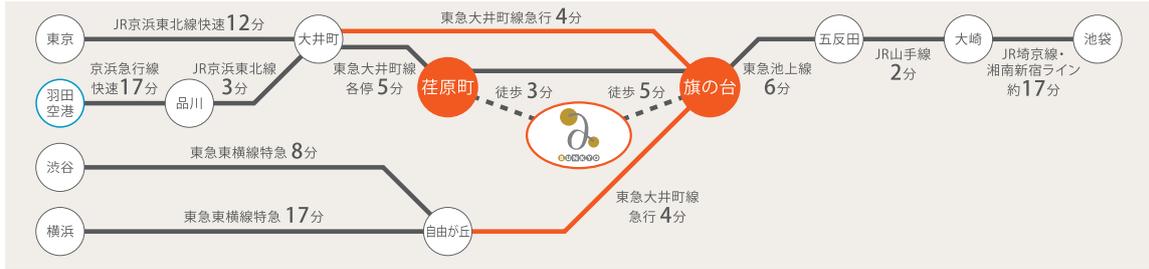


## 運動施設の概要

- ▶体育館(メインアリーナ952㎡/サブアリーナ203㎡/トレーニングルーム72㎡)
- ▶学内テニスコート(全天候型3面) ▶フットサルコート(人工芝2面)

旗の台 キャンパス	所在地	東京都品川区旗の台3-2-17
	主な交通手段	東急大井町線・池上線「旗の台」駅下車
	設置学校等	○文教大学附属高等学校 ○文教大学附属中学校 ○文教大学附属幼稚園

キャンパスの概要



運動施設の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 体育館 (アリーナ1,030㎡/温水プール617㎡/トレーニングルーム98㎡)</li> <li>▶ 屋内運動場 (講堂563㎡) ▶ 柔道場 (北棟3F 198㎡)</li> <li>▶ 中高外庭運動場 (人工芝他1,477㎡) ▶ グラウンド (人工芝他1,743㎡)</li> <li>▶ 幼稚園園庭 (人工芝他643㎡)</li> </ul>
---------	--

## 石川台 キャンパス

所在地	東京都大田区東雪谷2-3-12
主な交通手段	東急池上線「石川台」駅下車
設置学校等	○文教大学附属小学校

### キャンパスの概要

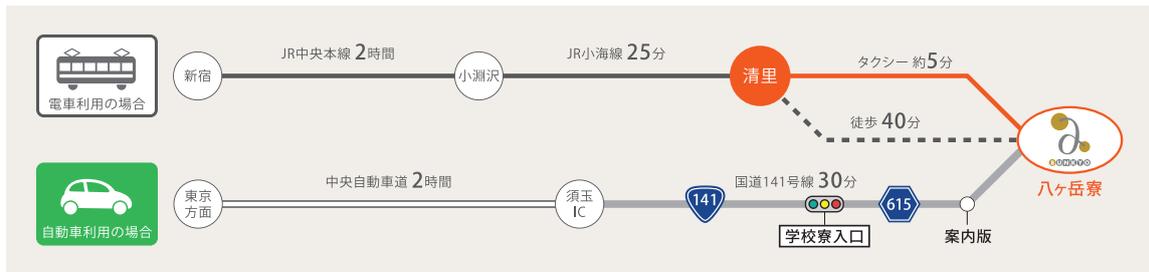


### 運動施設の概要

- ▶屋内運動場 (講堂375㎡) ▶第一運動場 (人工芝等1,602㎡)
- ▶第二運動場 (全天候型862㎡) ▶プール (48.6㎡)

八ヶ岳寮	所在地	山梨県北杜市高根町清里3545
	主な交通手段	JR 小海線「清里」駅下車

八ヶ岳寮の概要



施設の概要	▶研修室(20人用3室 合計111㎡) ▶宿泊室(10畳10室 合計302㎡) ▶宿泊室(8畳3室 合計72㎡) ▶食堂(収容数100人159㎡) ▶建物面積1,728㎡ ▶敷地面積26,464㎡
-------	--

[6] 学生等納付金に関する情報

文教大学

2021年度学納金一覧

学部・学科・課程		入学金	授業料	教育充実費	実験実習費			
教育学部	学校教育課程	1年次	280,000円	837,000円	270,000円	-		
		2年次	-	849,000円				
		3年次	-	861,000円				
		4年次	-	873,000円				
	発達教育課程	1年次	280,000円	837,000円				
		2年次	-	849,000円				
	心理教育課程	3年次	-	766,000円				
		4年次	-	778,000円				
人間科学部	人間科学科	1年次	280,000円	762,000円	270,000円	-		
		2年次	-	774,000円				
		3年次	-	766,000円				
		4年次	-	778,000円				
	臨床心理学科	1年次	280,000円	762,000円				
		2年次	-	774,000円				
		3年次	-	766,000円				
		4年次	-	778,000円				
	心理学科	1年次	280,000円	762,000円				
		2年次	-	774,000円				
		3年次	-	766,000円				
		4年次	-	778,000円				
文学部	日本語 日本文学科	1年次	280,000円	762,000円	270,000円	-		
		2年次	-	774,000円				
		3年次	-	766,000円				
		4年次	-	778,000円				
	英米語 英米文学科	1年次	280,000円	762,000円				
		2年次	-	774,000円				
		3年次	-	766,000円				
		4年次	-	778,000円				
	中国語 中国文学科	1年次	280,000円	762,000円				
		2年次	-	774,000円				
		3年次	-	766,000円				
		4年次	-	778,000円				
	外国語学科	1年次	280,000円	762,000円			270,000円	160,000円
		2年次	-	774,000円				
		3年次	-	766,000円				
		4年次	-	778,000円				
情報学部	情報システム学科	1年次	280,000円	762,000円	270,000円	-		
		2年次	-	774,000円				
		3年次	-	766,000円				
		4年次	-	778,000円				
	情報社会学科	1年次	280,000円	762,000円				
		2年次	-	774,000円				
		3年次	-	766,000円				
		4年次	-	778,000円				
	メディア表現学科	1年次	280,000円	762,000円				
		2年次	-	774,000円				
		3年次	-	766,000円				
		4年次	-	778,000円				
健康栄養学部	管理栄養学科	1年次	280,000円	832,000円	270,000円	130,000円		
		2年次	-	844,000円				
		3年次	-	836,000円				
		4年次	-	848,000円				
国際学部	国際理解学科	1年次	280,000円	762,000円	270,000円	-		
		2年次	-	774,000円				
		3年次	-	766,000円				
		4年次	-	778,000円				
	国際観光学科	1年次	280,000円	762,000円				
		2年次	-	774,000円				
		3年次	-	766,000円				
		4年次	-	778,000円				
経営学部	経営学科	1年次	280,000円	762,000円	270,000円	-		
		2年次	-	774,000円				
		3年次	-	766,000円				
		4年次	-	778,000円				

※授業料は、分納を認めています。※別科生及び別科修了生は、入学金180,000円。※付属高校生(推薦・対象学力入試)は、入学金半額免除。※編入生及び再入学生の学納金は、以下のとおりとする。●入学金は、再入学を許可された年度と同額とする。●授業料、教育充実費及び実験実習費は、入学を許可された学年と同額とする。※実験実習費は在籍5年目以降は徴収しない。(ただし、4年間の在学期間を満たしていること)

その他の費用徴収（免許状等の取得に必要な費用）

※各費用（課程履修費、教育実習費等）の納入時期は、当該費用が必要となる年次に納入。

教育学部

学校教育課程

【2019年以前の入学者】

卒業要件で取得することができる教育職員免許状(正免)のほかに、必要な単位の修得によって取得することができる教育職員免許状(副免〔タテ副免・ヨコ副免〕)があります。

〈正免〉

所属専修(国語・社会・数学・理科・音楽・美術・体育・家庭・英語)

◇小学校教諭一種免許状及び中学校教諭二種免許状の取得

所属専修(特別支援教育)

◇小学校教諭一種免許状及び特別支援学校教諭一種免許状(知的障害者・肢体不自由者・病弱者に関する領域)の取得

〈副免〉

タテ副免

正免に加えて、所属専修教科の中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状の取得

ヨコ副免

正免及びタテ副免に加えて、所属専修教科以外の中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状の取得

※ヨコ副免は、所属する専修の卒業に必要な科目の時間割を組んだ後、空いた時間で取得に必要な指定科目を履修していくため、在学中に免許状取得に必要な科目の全てを履修することができない場合があります。

正免及び副免の取得に係る費用は、次のとおりです。

免許種類【正免】	課程履修費	介護等体験費用
小学校一種 中学校二種*1(所属専修教科) 特別支援学校一種*2	— *3	15,000円*4

\*1) 国語専修、社会専修、数学専修、理科専修、音楽専修、美術専修、体育専修、家庭専修及び英語専修の学生が取得できる免許です。\*2) 特別支援学校一種免許状(知的・肢体不自由・病弱)は、特別支援教育専修の学生が取得できる免許です。\*3) 正免に係る課程履修費は、必要ありません。\*4) 国語専修、社会専修、数学専修、理科専修、音楽専修、美術専修、体育専修、家庭専修及び英語専修の学生が必要となる費用です。特別支援教育専修の学生は、必要ありません。

免許種類【副免】	課程履修費	介護等体験費用
タテ副免	20,000円	—
ヨコ副免	20,000円	
タテ副免及びヨコ副免	40,000円	

※介護等体験費用は、正免取得のために納入するので必要ありません。

【2020年以降の入学者】

学校教育課程の卒業要件を満たしたうえで、「教育職員免許法施行規則」に定める指定科目及び「教育実践に関する科目」を修得すると、教育職員免許状(自専修免・他専修免)の取得に必要な要件を満たすことができます。

〈自専修免〉

所属専修(国語・社会・数学・理科・音楽・美術・体育・家庭・英語)

◇小学校教諭一種免許状\*1

◇中学校教諭一種免許状「所属専修教科」\*2

◇高等学校教諭一種免許状「所属専修教科」\*2

〈他専修免〉

◇中学校教諭一種免許状「所属専修教科以外の1教科」\*3

◇高等学校教諭一種免許状「所属専修教科以外の1教科」\*3

自専修免及び他専修免の取得に係る費用は、次のとおりです。

免許種類【自専修免】	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
小学校一種	— *4	30,000円	15,000円
中学校一種「所属専修教科」		20,000円	
高等学校一種「所属専修教科」			

免許種類【他専修免】	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
中学校一種「所属専修教科以外の1教科」 高等学校一種「所属専修教科以外の1教科」	20,000円	— *5	— *5

\*1) 卒業の要件に加え、所定の科目の単位を修得することによって取得できます。\*2) 小免に加えて、所属専修で取得できる免許状です。\*3) 「他専修免」については、2年次から4年次の3年間に自分の所属する専修の卒業に必要な科目の時間割を組んだ後、空いた時間で取得に必要な指定科目を履修していくため、在学中に免許状取得に必要な科目の全てを履修することができない場合があります。\*4) 自専修免に係る課程履修費は、必要ありません。\*5) 教育実習費及び介護等体験費は、自専修免取得のために納入するため必要ありません。

発達教育課程

発達教育課程の卒業要件を満たしたうえで、「教育職員免許法施行規則」に定める指定科目及び「教育実践に関する科目」を修得すると、教育職員免許状(自専修免・他専修免)の取得に必要な要件を満たすことができます。

〈特別支援教育専修〉

免許種類【自専修免】	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
小学校教諭一種 特別支援学校一種 (知的障害者・肢体不自由者・病弱者に関する)	— *1	50,000円	— *2

〈初等連携教育専修〉

免許種類【自専修免】	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
幼稚園一種 小学校一種	— *1	50,000円	15,000円

〈児童心理教育専修〉

免許種類【自専修免】	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
小学校一種	— *1	30,000円	15,000円

〈幼児心理教育専修〉

免許種類【自専修免】	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
幼稚園一種	— *1	30,000円	— *2
保育士資格		20,000円*3 30,000円*4	

〈4専修共通〉

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
他専修免	20,000円	— *5	— *5

\*1) 自専修免に係る課程履修費は、必要ありません。\*2) 特別支援教育専修及び幼児心理教育専修の学生は、介護等体験費は不要です。\*3) 保育実習Ⅰ施設実習費です。\*4) 保育実習Ⅰ・Ⅱ保育所実習費です。\*5) 教育実習費及び介護等体験費は、自専修免取得のために納入するため必要ありません。

心理教育課程

教職課程を履修する場合の免許状取得に必要な科目の課程履修費、教育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

〈児童心理教育コース〉

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
幼稚園一種	20,000円	30,000円	—
幼稚園一種 小学校一種	110,000円	60,000円*1	15,000円*2

〈幼児心理教育コース〉

免許種類	課程履修費	教育実習費
幼稚園一種	20,000円	30,000円
幼稚園一種 小学校一種	110,000円	60,000円*1

\*1) 幼稚園一種及び小学校一種の免許を取得する場合、幼稚園及び小学校の2校で教育実習を行います。教育実習費は、1校種につき、30,000円です。\*2) 小学校一種免許取得者のみ納入が必要となる費用です。

保育士資格取得に必要な科目の課程履修費・保育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

〈幼児心理教育コース〉

免許種類	課程履修費	保育実習Ⅰ施設実習費	保育実習Ⅰ・Ⅱ保育所実習費
保育士資格	20,000円	20,000円	30,000円

## 人間科学部

教職課程を履修する場合の免許状取得に必要な科目の課程履修費・教育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

### 人間科学科／臨床心理学科／心理学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用	福祉実習費
中学校一種(社会) 高等学校一種(公民)	20,000円	25,000円	15,000円	－
中学校一種(社会) 高等学校一種(公民・福祉)			－	19,000円
小学校一種	110,000円	30,000円	15,000円	－

※高等学校(福祉)及び特別支援学校一種の免許取得の場合は、介護等体験費用は必要ありません。

社会福祉士国家試験受験資格、精神保健福祉士国家試験受験資格を取得しようとする場合の諸費用は、次のとおりです。

資格種類	福祉実習費
社会福祉士	40,000円
精神保健福祉士	

※「社会福祉士国家試験受験資格」取得を希望される方で児童相談所での実習を追加で希望される場合、別途18,000円の費用が必要となります。

## 文学部

教職課程を履修する場合の免許状取得に必要な科目の課程履修費・教育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

### 日本語日本文学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
中学校一種(国語) 高等学校一種(国語)	20,000円	25,000円	15,000円
高等学校一種(書道)			－*1
中学校一種(国語) 高等学校一種(国語) 高等学校一種(書道)	40,000円	30,000円	15,000円
中学校一種(国語) 高等学校一種(国語) 中学校二種(英語)			15,000円
小学校一種	110,000円	30,000円	－

\*1)高等学校教諭免許のみの取得の場合は、介護等体験費用は必要ありません。

### 英米語英米文学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
中学校一種(英語) 高等学校一種(英語)	20,000円	25,000円	15,000円
小学校一種	110,000円	30,000円	－

### 中国語中国文学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
中学校一種(中国語) 高等学校一種(中国語)	20,000円	25,000円	15,000円
中学校一種(国語) 高等学校一種(国語) 高等学校一種(書道)			－*1
中学校一種(中国語) 高等学校一種(中国語) 中学校二種(国語)	40,000円	30,000円	15,000円
中学校一種(中国語) 高等学校一種(中国語) 中学校二種(英語)			15,000円
小学校一種	110,000円	30,000円	－

\*1)高等学校教諭免許のみの取得の場合は、介護等体験費用は必要ありません。

### 外国語学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
中学校一種(英語) 高等学校一種(英語)	20,000円	25,000円	15,000円

日本語教員養成コースを履修する場合の諸費用は、次のとおりです。

資格名	登録費	日本語教育実習費
日本語教員養成コース「1級(主専攻)」または「2級(副専攻)」2級	10,000円	20,000円

## 情報学部

教職課程を履修する場合の免許状取得に必要な科目の課程履修費・教育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

### 情報システム学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
高等学校一種(情報)	20,000円	20,000円	－*2
中学校一種(数学)*1 高等学校一種(数学)*1		25,000円	15,000円
高等学校一種(情報) 中学校一種(数学) 高等学校一種(数学)			

### 情報社会学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
高等学校一種(情報)	20,000円	20,000円	－*2

### メディア表現学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
高等学校一種(情報)	20,000円	20,000円	－*2

\*1)情報社会学科、メディア表現学科の学生が中学校・高等学校一種(数学)の免許状を追加取得する場合は、他学科受講として別途に当該課程履修費が必要になります。また、中学校の教員免許状の取得のため、実習期間が長くなることにより、教育実習費は25,000円となります。\*2)高等学校教諭免許のみの取得の場合は、介護等体験費用は必要ありません。

## 健康栄養学部

教職課程を履修する場合の免許状取得に必要な科目の課程履修費・教育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

### 管理栄養学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
栄養教諭一種	6,000円	15,000円	－

## 国際学部

教職課程を履修する場合の免許状取得に必要な科目の課程履修費・教育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

### 国際理解学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
中学校一種(英語) 高等学校一種(英語)	20,000円	25,000円	15,000円
中学校一種(社会) 高等学校一種(公民)			

## 経営学部

教職課程を履修する場合の免許状取得に必要な科目の課程履修費・教育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

### 経営学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
高等学校一種(商業)	20,000円	20,000円	－*1

\*1)高等学校教諭免許のみの取得の場合は、介護等体験費用は必要ありません。

## その他

## 教員免許状授与の一括申請について

一括申請とは、大学が免許状取得有資格者を取りまとめて、大学が所在する都道府県の教育委員会へ免許状の授与申請をすることです。一括申請諸費用は、一免許状につき次のとおりです。

対象学生	申請先	一括申請諸費用
越谷キャンパスの学生	埼玉県教育委員会	3,500円
湘南キャンパスの学生	神奈川県教育委員会	
東京あだちキャンパスの学生	東京都教育委員会	

※栄養教諭一種の免許状は、大学による一括申請を実施していません。

## 学校図書館司書教諭課程

教育学部、人間科学部、文学部、言語文化研究科、教育学研究科及び教育専攻科の学生が学校図書館司書教諭課程を履修する場合の課程履修費は、次のとおりです。

免許種類	課程履修費
学校図書館司書教諭	10,000円

## 図書館司書課程

人間科学部及び文学部の学生が図書館司書課程を履修する場合の課程履修費は、次のとおりです。

免許種類	課程履修費
図書館司書	28,000円

## 文教大学大学院・専攻科

## 2021年度学納金一覧

研究科等	入学金	授業料	教育充実費	
教育学研究科	1年次	280,000円	626,000円	100,000円
	2年次	—	626,000円	
人間科学研究科 (修士課程)	1年次	280,000円	626,000円	
	2年次	—	626,000円	
人間科学研究科 (博士後期課程)	1年次	280,000円	626,000円	
	2年次	—	626,000円	
	3年次	—	612,000円	
言語文化研究科 (修士課程)	1年次	280,000円	626,000円	
	2年次	—	626,000円	
言語文化研究科 (博士後期課程)	1年次	280,000円	626,000円	
	2年次	—	626,000円	
	3年次	—	612,000円	
情報学研究科	1年次	280,000円	626,000円	
	2年次	—	626,000円	
国際学研究科	1年次	280,000円	626,000円	
	2年次	—	626,000円	
専攻科 教育専攻科	—	250,000円	634,000円	

※授業料は分納を認めています。※文教大学卒業生の入学金は、大学院では半額免除、専攻科では全額免除。  
 ※教育学研究科に現職教員が在籍する場合の金額は別に定める。  
 ※博士後期課程について、当該課程の修了に必要な所定の単位を修得している者が、標準修業年限を超えて在学する場合の授業料は300,000円。(半期150,000円)

## その他の費用徴収

## 免許状上進について

言語文化研究科及び教育学研究科の学生が、専修免許状を取得する場合、その免許状の種類・教科と同じ一種免許状を所有していなければなりません。二種免許状所有者の場合、言語文化研究科の学生は文学部で、教育学研究科の院生は教育学部で科目を履修することで、専修免許状を取得することができます。文学部または教育学部の科目を履修する場合の費用は、次のとおりです。

学部科目聴講費用
1単位につき、3,500円

## 博士論文審査料

博士論文の提出時には、以下のとおり論文審査料を納めなければなりません。

種別	授業料	論文審査料
課程博士	本大学院博士後期課程学生 (在学中に論文を提出した場合)	免除
論文博士	本大学院の博士後期課程に3年以上在籍し、所要の授業科目を16単位以上修得し、かつ、博士論文の作成等に対する指導を受けた後退学した者	100,000円
	上記以外の者	200,000円

## 減免制度

### 文教大学大学院私費外国人留学生の学納金減免制度

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院の正規課程に在学し、在留資格「留学」を有する私費外国人留学生(国費留学生及び政府派遣外国人留学生を除く)であること。</li> <li>・人物、学業ともに優れ、かつ、経済的理由により修学が困難と認められる者とする。ただし、次の各号のいずれかに該当する者は対象から除外する。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 本学を通じて採用された学外の奨学金で、当該年度の授業料減免額以上の給付を受けている者</li> <li>② 文教大学大学院学則に基づく標準修業年限を超えて在籍している者</li> <li>③ 当該年度に休学(半期休学含む)している者</li> <li>④ 研究・学業成績、学習態度または生活態度が不良と認められる者</li> </ol>
採用人数	計14人(2021年度実績)
減免額	授業料年額の30%を限度とした額
申請手続等	<p>【申請書類】 ① 授業料減免申請書 ② その他指示された書類</p> <p>【申請時期】 4～5月</p> <p>【申請場所】 越谷学生課・湘南教育支援課 東京あだち教育支援課</p>

### 文教大学私費外国人留学生の学納金減免制度

対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部正規課程に在学し、在留資格「留学」を有する私費外国人留学生(国費留学生及び政府派遣外国人留学生を除く)であること。</li> <li>・外国人留学生入試または外国人留学生編入学試験を経て入学した者</li> <li>・人物、学業ともに優れ、かつ、経済的理由により修学が困難と認められる者とする。ただし、次の各号のいずれかに該当する者は対象から除外する。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 2020年度までの標準修得単位数を満たしていない者</li> <li>② 文教大学私費外国人留学生に対する奨学金の給付を受けている者</li> <li>③ 本学を通じて採用された学外の奨学金で、当該年度の授業料減免額以上の給付を受けている者</li> <li>④ 留年した者。ただし、病気その他やむを得ない事由により留年した者は除く。</li> <li>⑤ 当該年度に休学(半期休学含む)している者</li> </ol>
採用人数	計22人(2021年度実績)
減免額	授業料年額の30%を限度とした額
申請手続等	<p>【申請書類】 ① 授業料減免申請書 ② その他指示された書類</p> <p>【申請時期】 4～5月</p> <p>【申請場所】 越谷学生課・湘南教育支援課 東京あだち教育支援課</p>

## 付属学校

### 学納金一覧

	授業料		入学金		その他の費用徴収		
	金額	納入時期	金額	納入時期	金額	納入時期	
付属高等学校	420,000円	5月28日	280,000円	2月12日	170,000円	5月28日	
		8月30日 11月29日		～ 2月26日			
【その他の費用の内訳】 維持費(170,000円)							
付属中学校	420,000円	5月28日	280,000円	2月1日	170,000円	5月28日	
		8月30日 11月29日		～ 2月10日			
【その他の費用の内訳】 維持費(170,000円)							
付属小学校	1～2年生	480,000円	毎月納入 40,000円	第1回	11月9日	140,000円	4月27日
					11月10日		
	3～5年生	444,000円	毎月納入 37,000円	第2回	11月24日		
					11月25日		
6年生	408,000円	毎月納入 34,000円					
【その他の費用の内訳】 維持費(140,000円)							
付属幼稚園	ひよこ	384,000円	毎月納入 32,000円	3年保育	150,000円	80,000円	4月27日
	松	348,000円	毎月納入 29,000円	11月4日			
【その他の費用の内訳】 維持費(冷暖房費を含む)(60,000円)、教材費(20,000円)							

## [7] 学生等支援と奨学金に関する情報

## 学生等支援組織

## 文教大学

	組織名	機能
就職支援	キャリア支援課	就職や進学に関する個別相談、学生が描く目標を実現するための具体的なプログラム作成、スケジュールに沿った着実な就職活動サポート
進学支援		
履修支援	教務課・学生課(越谷キャンパス) 教育支援課(湘南キャンパス) 教育支援課(東京あだちキャンパス)	授業支援、試験運営、証明書発行、各種実習対応、学籍管理、課外活動支援、奨学金対応、拾得物管理、アルバイト紹介
生活支援(住居、アルバイト等)		
経済支援		
学生生活全般の相談	学生支援室	学生生活全般の相談
保健・衛生・メンタルヘルス等	保健センター(医務室・相談室)	医務室: 病気やけがの応急処置、日常の健康管理に関する相談 相談室: 専門のカウンセラーによる悩みや不安等の相談

## 文教大学附属高等学校

	組織名	機能
進学支援	進路指導部	進路指導、進学情報提供、キャリア教育
学習支援	学習指導部	シラバス作成、講習、文教ステーションとの連携
保健・衛生・メンタルヘルス等	保健室・教育相談室	生徒の心身のケア、人間関係作り支援

## 文教大学附属中学校

	組織名	機能
学習支援	学習指導部	シラバス作成、講習、文教ステーションとの連携
保健・衛生・メンタルヘルス等	保健室・教育相談室	生徒の心身のケア、人間関係作り支援

## 文教大学附属小学校

	組織名	機能
進学支援	進路指導委員会(高学年部会)	個別の面談による聞き取りと、それをもとにした委員会の話し合いと調整
保健・衛生・メンタルヘルス等	養護教諭を中心に全教員で連携	「からだから」の月一回の発行、学期ごとの発育測定等

## 文教大学附属幼稚園

	機能
進学支援	国立・私立小学校受験に向けた担任及び園長による保護者の要望に応じたアドバイス、文教幼児教室担当講師による特別講演の実施
保健・衛生・メンタルヘルス等	特別支援を必要とする園児への園・保護者・品川区教育委員会との連携による適切な対応

## 奨学金

# 文教大学

### 文教大学奨学金

対 象	勉学の意欲を持ちながら、経済的な理由で修学に支障をきたしている学生(1~4年生)
出願資格	以下を全て満たしていること ※詳細は募集要項参照 ① 勉学の意欲を持ち、成績基準を満たしている者 ② 家計基準を満たしており、学費の支払いが困難な者
採用人数	計216人(2021年度実績)
金 額	授業料の全額または一部(2021年度実績)
申込手続等	【必要書類】 ① 文教大学奨学金願書 ② 所得関係書類 【出願時期】 9月頃 【出願場所】 大学指定送付先へ郵送

### 文教大学緊急特別奨学金

対 象	大学1~4年生
出願資格	下記の要件を全て満たす者 ① 修学の意思があるが、家計急変*により最終延納期限までに学納金が納入できない者 ② 日本学生支援機構等の奨学金を貸与中の者または同機構の緊急採用(1種)応急採用(2種)の奨学金いずれかを申し込んだ者 ③ 当該学期に文教大学奨学金を受給している場合は、授業料の半額未済を受給している者 ④ 標準修得単位数を満たしている者 ⑤ 大学等の修学支援に関する法律に定める学費支給及び授業料等減免の支援対象者に決定していない者 ※その他、家計基準あり
採用人数	0人(2021年度実績)
金 額	授業料の半額(半期分)を上限とする。 ただし、採用は在学中に一度限り。

\*対象となる家計急変の事由  
●主たる家計支持者が死亡 ●主たる家計支持者が失職・退職(非自発的失業に限る) ●主たる家計支持者が経営不振 ●主たる家計支持者が破産 ●主たる家計支持者が倒産 ●主たる家計支持者が離別 ●主たる家計支持者が病氣 ●主たる家計支持者の自宅住居が全壊(焼)・半壊(焼)

### 文教大学学業成績優秀者奨励金

対 象	本学の学部・に在籍し、本学において2020年度の成績評価を受けた学生(ただし、研究生・委託生・聴講生・専攻科生及び科目等履修生は含まない。)で、2020年度までに当該学年の標準修得単位数以上を修得し、成績評価においてGPAの値が最上位の者が対象となります。 ※最上位の者が全国入試特待生に該当した場合は、当該特待生を除いた最上位の者を対象とします。 ※GPAの値が同じ者が複数いた場合は、2020年度の修得単位数が多い者を対象とします。また、GPA及び修得単位数とも同じだった場合は、複数を最上位者とします。
採用人数	52人〔越谷:31人/湘南:12人/あだち:9人〕(2021年度実績) ※各学科・課程の2~4年生から、最上位の者1人(学校教育課程は、各学年の最上位から2人)
金 額	奨学金の給付額は、年間授業料の15%以内を上限とし、毎年年度、学生委員会が給付額を決定します。

### 文教大学私費外国人留学生に対する奨学金

対 象	文教大学私費外国人留学生(2~4年生) ※国費留学生及び政府派遣留学生は除く。 ※当該年度に、他団体から給付される奨学金を受けている者または受ける予定の者は、原則として除く。
出願資格	① 学部の正規課程に在学し、在留資格「留学」を有する私費外国人留学生(国費留学生及び政府派遣外国人留学生を除く)であること。 ② 外国人留学生試験又は外国人留学生編入試験を経て入学した者 ③ 次の条件を満たしている者 2~3年生:前年度に31単位以上修得し、GPA1.5以上 4年生:前年度に16単位以上を修得し、GPA1.5以上 ④ 他の奨学金を受給している者で、その他の団体から併給を認められている者 ⑤ 奨学金が必要と認められる者
採用人数	19人〔越谷:5人/湘南:2人/あだち:12人〕(2021年度実績)
金 額	月額30,000円
申込手続等	【必要書類】 ① 申請書(奨学金希望の理由、将来の希望等を記入します。) ② その他必要とされる書類 【出願時期】 4月~5月 【出願場所】 越谷キャンパス:越谷学生課 湘南キャンパス:湘南教育支援課 東京あだちキャンパス:東京あだち教育支援課

### 文教大学外国人留学生別科奨学金

対 象	文教大学外国人留学生別科生
出願資格	下記の条件を全て満たした者で、クラス担任が推薦する者 ① 修了が見込まれ、本学の学部・大学院のいずれかに進学をする者 ② 学習態度が良く、学業優秀な者 ③ 学校行事参加等での積極性が認められる者
採用人数	0人(2021年度実績)
給付額	授業料の全額または一部 ※給付型の奨学金です。
申込手続等	【必要書類】 奨学金申請書 【出願時期】 2月頃 【出願場所】 越谷キャンパス:国際交流課 ※選考は書類審査により行います。 【結果発表】 3月上旬 【交 付】 修了式当日に交付

※上記「申込手続」は、年度により変更される場合があります。

### 文教大学私費外国人留学生特待生制度

対 象	外国人留学生入学試験合格者の中から選考 ※ただし、留学生指定校推薦入学試験・留学生編入学試験・留学生別科推薦入学試験の合格者を除く。
対象学部	文学部・情報学部・国際学部・経営学部
採用人数	2人(2021年度実績)
金 額	入学金免除と月額30,000円(入学年度1年間限り) ※留学生特待生に採用された場合、当該年度は本学奨学金には出願できません。

## 文教大学大学院

### 文教大学大学院奨学金

対 象	大学院全研究科学生 春募集:2年生以上のみ 秋募集:1年生のみ
出願資格	大学院全研究科在学生のうち、人物、学力共に優秀で、健康であり、学資の支弁が困難であると認められる者 ※ただし当該年度に他の給付される奨学金を受給を受けている者または受ける予定の者は、原則として除く。
採用人数	5人(2021年度実績) 春募集2人〔越谷:2人/湘南:0人/あだち:0人〕 秋募集3人〔越谷:2人/湘南:1人/あだち:0人〕
金 額	授業料の全額または一部に相当する金額
申込手続等	【必要書類】 ① 奨学金願書 ② 本人及び配偶者の収入を証明する書類 ③ 成績を証明する書類 ④ その他、募集説明会において指示された書類 【出願時期】 春募集:4月 秋募集:10月 【出願場所】 越谷キャンパス:学生課窓口 湘南キャンパス:教育支援課窓口 東京あだちキャンパス:教育支援課窓口

### 文教大学大学院私費外国人留学生奨学金

対 象	文教大学大学院私費外国人留学生 ※国費留学生及び政府派遣留学生は除く。 ※当該年度に他団体から給付される奨学金を受けている者または受ける予定の者は、原則として除く。
出願資格	下記①～④の全てを満たした者 ① 在留資格「留学」を有する私費外国人留学生である者 ② 大学院私費外国人留学生のうち、人物、学業ともに優秀で奨学金の給付を適当と認められる者 ③ 留年をしていない者。ただし、病気その他やむを得ない事由により留年した者は除く。 ④ 他の奨学金を受給している者で、その団体等から供給を認められている者
採用人数	8人〔越谷:4人/湘南:2人/あだち:2人〕(2021年度実績)
金 額	授業料の一部相当額
申込手続等	【必要書類】 ① 申請書 ② その他、必要とされる書類 【出願時期】 9月～10月 【出願場所】 越谷キャンパス:越谷学生課窓口 湘南キャンパス:教育支援課窓口 東京あだちキャンパス:教育支援課窓口

## その他の奨学金

独立行政法人日本学生支援機構法に基づいて施行されている奨学金のほか、地方公共団体(都道府県市区町村)・民間育英団体その他の奨学金があります。募集時期、奨学金の月額、給付・貸与種別は、多岐にわたります。

詳細は、大学ホームページにて公開しています。

<https://www.bunkyo.ac.jp/campuslife/scholarship/>

## チャレンジ育英制度

企画奨励	
	下記の「Ⅰ」及び「Ⅱ」の事項に該当する企画を対象とする。(ただし、クラブ・サークルの活動は除く)
	Ⅰ. 下記の全ての事項に当てはまること ① 本学(文教大学(専攻科・別科含む)・文教大学大学院)の学生または本学の学生で構成する団体が実施する企画 ② 育英金を援助することにより、更に高いレベルの結果が期待できる企画 ③ 学生または団体が自ら発案した、自主的な企画 ④ 4年生の出願については、卒業論文等と関連のない企画 ⑤ 大学が実施する他の支援制度等に採用されていない企画 ⑥ 原則として下記「活動時期」の期間内に完結し、結果を報告できる企画
出願資格	Ⅱ. 上記Ⅰの条件を満たし、かつ以下のいずれかに当てはまること ① 独創性溢れる、ユニークな企画 ② 活動の結果が地域並びに社会への還元を期待できる企画 ③ 文教大学の名を世に広めることができる。文教大学のブランド向上に寄与できる企画 ④ 大学内の課題を解決する企画 ⑤ 人間愛の精神を具現化する企画 ⑥ その他、選考委員会が承認した企画
	<p>《備考》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● クラブやサークルでの出願も可能です。ただし、通常の活動の一環と見なされる場合は、審査対象とはなりません。</li> <li>● ゼミでの出願も可能です。ただし、正課教育の範囲内と見なされる場合は、審査対象とはなりません。</li> <li>● 過去に採用された企画と類似する企画の場合、企画の“発展性”が必要です。また、出願者が違う場合であっても、同一グループとみなすことがあります。</li> <li>● 1人が複数の企画に出願することができません。ただし、共同実施者として参加することは可能です。</li> <li>● 活動に関する事前打ち合わせ等での飲食費は活動予算及び収支報告の対象外となります。(実際の活動に伴う食材費は除く)</li> <li>● 当該年度に休学している者または休学・退学する予定の者は出願できません。</li> </ul>
給付件数	各校舎10件以内(2021年度実績:2件)
給付額	個人、団体を問わず1件あたり20万円以内
活動時期及び活動報告	出願できる活動は、下記の期間に実施される活動とする。活動期間は出願年度の4月1日～1月31日とし、活動終了後、速やかに報告書を提出しなければならない。
申込手続等	<p>【必要書類】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① チャレンジ育英制度企画奨励応募用紙</li> <li>② 企画書(任意の書式)</li> <li>③ 共同実施者名一覧(該当者のみ提出)</li> <li>④ 活動予算計画書</li> <li>⑤ 誓約書</li> <li>⑥ 振込口座届</li> <li>⑦ その他添付書類</li> </ol> <p>【出願時期】 4月～5月</p> <p>【出願場所】 所定のgoogleフォームへ出願</p> <p>【活動終了後に提出するもの】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 活動結果報告書</li> <li>② 収支報告書</li> <li>③ 計画を遂行したことが分かる資料等</li> </ol>

論文奨励	
出願資格	<p>本学等(文教大学(専攻科・別科含む)・文教大学大学院)の学生であること。</p> <p>※ただし、当該年度に休学している者または休学・退学する予定の者は出願できません。</p>
給付件数及び育英金の給付額	<p>10件(2021年度実績)</p> <p>① 最優秀賞:10万円(0件)</p> <p>② 優秀賞:5万円(0件)</p> <p>③ 佳作:2万円(5件)</p> <p>④ 努力賞:5千円(5件)</p>
課題テーマ(2021年度)	<p>下記①～④の課題から1つを選択し、5,000字程度で論述してください。</p> <p>① 文教大学への提言</p> <p>② 現代日本の格差社会の解消について</p> <p>③ みんなが簡単につながり合える時代のSNSとの向き合い方</p> <p>④ 特殊な状況において、大学生は地域社会にどのような役割を果たせるか?</p> <p>※複数の課題に出願することはできません。</p> <p>※未発表の論文に限ります。</p> <p>※卒業年次生については、研究論文(卒業論文)と類似のものは認めません。</p>
申込手続等	<p>【出願書類】</p> <p>① チャレンジ育英制度応募用紙</p> <p>② 論文</p> <p>③ 誓約書</p> <p>【出願時期】 9月</p> <p>【出願場所】 所定のgoogleフォームへ出願</p>

## 〔1〕文教大学学園

## ガバナンス

2021年度の文教大学学園の役員は、理事18名（うち非常勤理事5名）、監事2名（いずれも非常勤）で構成しています。2021年度に開催した理事会（全14回）への出席率は、1年間を通じて高い状態（98.4%）を維持しています。また、やむを得ない理由で理事が理事会に出席できない場合には、「意思表示書」を以って議案ごとに「賛否」を明確にするようにしています。「学校法人文教大学学園寄附行為」に則り、全ての役員には理事会開催7日前までにあらかじめ議題と資料を配付し、万一、本人が直接出席できない場合でも、できる限り全ての理事の意思が、明確に各議案に反映できるように配慮した運営を行っています。監事においては、100%の出席率となっています。

また、2020年4月から施行の私立学校法の一部改正にあわせて、2019年度第10回理事会（臨時第2回）及び第2回評議員会（臨時第1回）にて、本学園寄附行為の変更を審議・決定しました。2020年度は、私立学校法改正の趣旨を踏まえた「学校法人のガバナンス体制の強化」を図るべく、変更後の本学園寄附行為に則して、理事会運営の見直しや各種学内手続の整備等を進め、2021年度も継続して遵守しました。なお、2021年度に締結した役員との責任限定契約及び保険会社との役員賠償責任保険契約の詳細については以下のとおりです。

## ア. 責任限定契約

私立学校法に従い、2021年4月1日より責任限定契約を締結しました。

- 対象役員の氏名  
非業務執行理事（小椋郁乃氏、海谷隆彦氏、若松豊樹氏）  
監事（佐藤善吉氏、須原洋氏）
- 契約内容の概要  
非業務執行理事及び監事がその職務を行うに当たり善意でかつ重大な過失がないときは、金120万円と、役員報酬の2年分との、いずれか高い額を責任限度額とする。
- 契約によって職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置契約の内容に、役員がその職務を行うに当たり善意でかつ重大な過失がないときに限る旨の定めがある。

## イ. 役員賠償責任保険契約

2021年4月1日より、下記保険会社の役員賠償責任保険に加入しました。

- 団体契約者 東京海上日動火災保険株式会社
- 被保険者 記名法人…学校法人 文教大学学園  
個人被保険者…理事・監事、評議員、執行役員、管理職従業員、社外派遣役員、退任役員
- 補償内容  
（1）役員（個人被保険者）に関する補償  
法律上の損害賠償請求対応費用、公的調査等対応費用、刑事手続対応費用等  
（2）記名法人に関する補償  
法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用、提訴請求対応費用等
- 支払い対象とならない主な場合（職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置）  
法令違反の認識がありながら行った行為等
- 保険期間中総支払限度額 5億円

## 情報公開の推進

文教大学学園は、2011年4月1日から「学校法人文教大学学園情報公開規程」を制定・施行しました。これは、学園が公教育の担い手として、学校法人の運営や教育研究の諸事業等の社会的説明責任を果たす必要があることに鑑み、体制を整えて事業を展開していくために、学園が保有する情報の公開等について必要な手続を定めたものです。2020年4月から施行の私立学校法の一部改正を受けて、新たに「学校法人文教大学学園役員の俸給・報酬等に関する規程・取扱細則」を公開することを、2019年度第14回理事会（臨時第3回）にて審議・決定しました。

また、事業計画書及び事業報告書については、例年に引き続き記載内容、形式の充実を図っています。事業計画書は当該年度における学園の事業や大学・各付属学校の教育目標、教育研究活動計画を中心とする内容とし、学園・大学のホームページ等で公表しています。事業報告書は、策定した事業計画に対する報告を中心とする内容とし事業計画書との連動を確保していくことに加え、教育研究・管理運営の概要や財務状況等について詳細に記載することで、説明履行責任の主軸としています。

2021年度にスタートした第4次中期経営計画『BUNKYO ACTION PLAN2025』についても学園ホームページに公表し、学内外に向けて情報を発信しています。

学校法人運営の透明性の向上を目指し、主に学園・大学のホームページ、事業計画書及び事業報告書を通じて、教育研究活動に関する情報や財務情報をこれからも積極的に公表してまいります。

## 施設設備整備

学園では、時代に適合した教育・研究環境の整備を図るため、各キャンパスにおいて整備事業を進めるとともに、老朽施設についても教育・研究活動に支障をきたすことのないよう、計画的な修繕工事を行っています。

## [2]文教大学・大学院

### ガバナンス

#### 〈大学審議会・大学院委員会〉

大学の意思決定に係る審議機構として、学長、副学長、学部長、学部選出委員、大学事務局長及び大学事務局次長による大学審議会を設置しています。大学審議会は、大学の教育研究の基本方針に関する事項のほか、学則、大学組織、教員人事に関わる重要事項等を審議します。2021年度は、11回の審議会を開催しました。

大学院に関わる事項については、学長、副学長、研究科長、学部長、専攻長、大学事務局長及び大学事務局次長による大学院委員会を同様に設置しています。2021年度は6回開催しました。

#### 委員会：

学部横断的な事項に取り組むための教学運営上の組織として、次のとおりキャンパスごとに委員会を設置しています。

#### 〈学生委員会〉

学生の厚生補導、学外活動の指導援助、学生の福利厚生に関すること。

#### 〈教務委員会〉

各学部に通ずる教育課程の重要事項に関すること。

#### 〈就職委員会〉

学生の就職及び進路指導に関すること。

#### 〈ハラスメント防止委員会〉

ハラスメント防止及び解決に関すること。

#### 〈学長戦略会議〉

学長、副学長、上記委員会の委員長（ハラスメント防止委員長を除く）と点検・評価委員長、国際交流センター長、図書館長、地域連携センター長、入学センター長、教育研究推進センター長、大学事務局長及び大学事務局次長により、学長戦略会議を設置しており、学長の補佐機関として教学に関する企画及び立案、連絡調整等を行っています。学長戦略会議は、2021年度に11回開催しました。

### 自己点検・評価

学長直轄の委員会として点検・評価委員会が設置されており、担当の学長補佐を委員長に、各学部からの選出委員、キャンパス事務局及び法人事務局から選出された委員で構成されています。2021年度は12回の委員会を開催し、2022年度の認証評価申請に向けて、『自己点検・評価報告書』を作成しました。

### 情報公開の推進

大学ホームページで、受験生を始めとした学外の方々が本学の教育情報を簡単に調べることができるように情報の公表に努めています。

また、日本私立学校振興・共済事業団が運用する大学ポートレート（私学版）にも、本学の教育情報の公表をしています。

### 施設設備整備

施設設備の整備においては、学生の安全・安心を第一義とした各キャンパスの安全性を高める環境整備と教育効果を高める環境整備を二本の柱とし、事業を推進しています。2021年度の具体的な整備事業については、大学の項目に記載しています。

学校法人の目的は、学校を運営して教育・研究を遂行することにあります。教育活動は人材の育成を目的とし、研究活動はその成果を学内に留めることなく、社会に還元することを目的とします。学校法人は、このような特性を踏まえ、永続的に教育研究活動を行えるよう必要な校地、校舎等の基本財産の維持や長期にわたって収入と支出の均衡の状況について確認できるよう、学校法人会計基準に基づき、次の3つの財務諸表を主体として会計処理を行っています。

学校法人会計と企業会計の違いについて  
 企業会計が営利目的の事業活動とその成果(財政状態)について、収益力を高めること及び利害関係者に開示することを目的としているのに対し、学校法人会計は一般企業よりも高い公共性から、学校経営における教育研究活動の健全性や永続性を開示することを目的としています。

財務諸表	説明
資金収支計算書	当該会計年度に行った教育研究等の諸活動に対応する全ての資金の収入及び支出の内容と、支払資金(現金及びいつでも引き出すことができる預貯金)の収入及び支出の顛末を明らかにするものです。これらを「教育活動による資金収支」「施設整備等活動による資金収支」「その他の活動による資金収支」の3つに区分けた活動区分資金収支計算書をあわせて作成することにより、活動区分ごとの資金の流れが分かります。(予算科目の説明:【収入の部】及び【支出の部】)
事業活動収支計算書	当該会計年度の事業活動収入及び事業活動支出の内容を明らかにし、事業活動収支の均衡状態が保たれているかどうかを示すもので、学校法人の負債とならない収入と、借入金返済及び施設・設備購入等の資本的支出に充てる額を除いた支出を計上します。これによって、経営状態が健全であるかどうかを判断することができます。また、「教育活動収支」「教育活動外収支」「特別収支」の3つの区分に分けることで、経常的(教育活動及び教育活動外収支)・臨時的(特別収支)な収支バランスの状況を的確に把握することができます。(予算科目の説明:【事業活動収入の部】及び【事業活動支出の部】)
貸借対照表	一定時点(3月末現在)における資産、負債及び純資産の内容並びに残高を示し、学校法人としての財政状況(ストック)を明らかにするものです。

## 資金収支計算書

収入の部	
科目	説明
学生生徒等納付金収入	授業料、入学金、教育充実費(維持管理費)等、学生生徒等が納入する学費
手数料収入	主に入学検定料等の受験料
寄付金収入	個人や企業からの金銭による寄付金
補助金収入	教育や研究に対しての国や地方公共団体からの助成金
資産売却収入	主に保有する有価証券の満期償還や資産を売却したことでの収入
付随事業・収益事業収入	公開講座の受講料や外部機関からの受託研究資金
受取利息・配当金収入	主に預金、債券等を運用して得た利息または配当金
雑収入	退職金財団等からの交付金や前年度以前に計上した収入または支出の修正による資金収入等
借入金等収入	日本私立学校振興・共済事業団または銀行等からの借入金
前受金収入	主に新入生の入学手続きに受け取る学納金
その他の収入	当年度に入金される「前期末未収入金収入」等

支出の部	
科目	説明
人件費支出	教職員の給与及び退職金並びに日本私立学校振興・共済事業団、退職金財団等の掛金
教育研究経費支出	教育研究、奨学金及び学生生活を支援するために要する費用
管理経費支出	学生の募集活動や事務管理費等の教育に直接関係のない費用
借入金等利息支出	借入金に伴う利息
借入金等返済支出	借入金元本部分の返済
施設関係支出	土地、建物、構築物等の固定資産取得のための支出
設備関係支出	機器備品、図書、車両等の固定資産取得のための支出
資産運用支出	将来の固定資産を取得するための準備金や特定事業目的のための基金等への繰入支出
その他の支出	当年度に支払われる「前期末未払金支払支出」等

## 事業活動収支計算書

※事業活動収支計算書特有の科目を掲載。

事業活動収入の部		
科目	説明	区分
寄付金	資金収支計算書の寄付金に加え、現物寄付を計上	教育活動特別
資産売却差額	保有していた資産の額(帳簿価額)以上で売却した時の差額分	特別

事業活動支出の部		
科目	説明	区分
人件費(退職給与引当金繰入額)	資金収支計算書では人件費支出の中に退職金支出が含まれていますが、事業活動収支計算書では教職員人件費のほか退職給与引当金繰入額という科目があります。これは当該年度末に在職する教職員全員の退職金から、一定額を引当金として確保するため、前年度末の引当金計上額との差額(不足額)を追加的に繰り入れるものです。	教育活動
教育研究経費(減価償却額)	資金収支計算書に掲載されている科目以外に、減価償却額が計上されています。減価償却とは、時間の経過により老朽化することで価値が減少する固定資産(校舎・機器備品)について、資産としての価値を減少させるための手続をいいます。実際に資金を伴う支出がある訳ではありませんが、取得した建物等の資産を活用して教育・研究を行っている実態から、使用期間に応じて取得価額を合理的に配分して毎年費用化します。	教育活動
管理経費(減価償却額)		
資産処分差額	保有していた資産の額(帳簿価額)を下回って売却した時の差額分	特別

基本金組入前当年度収支差額	事業活動収入と事業活動支出の差額で、基本金組入額控除前の金額。これにより、基本金組入前の純粋な収支を把握することができ、単年度における収支バランスを確認することができます。	—
基本金組入額合計	学校法人の諸活動に必要な資産を継続的に維持するために事業活動収支差額から組入れるもので、土地や建物等の施設関係資産の取得額(第1号基本金)、奨学金への繰入額(第3号基本金)、1ヶ月分の運転資金相当額(第4号基本金)等で構成されます。このうち、基本金組入対象となるのは、自己資金で買った相当額となります。	—
当年度収支差額	基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額合計を控除した後の差額。収支差額がプラスであれば、資本的支出(基本金組入額)と経費支出の全てが事業活動収入で賄われたこととなります。この収支差額の累計が翌年度繰越収支差額です。	—

## [1] 財産目録

(単位:千円)

区分	2021年度 (2022年3月31日現在)		2020年度 (2021年3月31日現在)	
<b>一 基本財産</b>				
1 土地	282,188.79 ㎡	12,159,393	282,188.79 ㎡	12,159,393
校舎敷地	200,006.05 ㎡	9,481,823	200,006.05 ㎡	9,481,823
図書館敷地	5,601.13 ㎡	337,295	5,601.13 ㎡	337,295
体育館敷地	5,922.68 ㎡	274,548	5,922.68 ㎡	274,548
運動場敷地	70,658.93 ㎡	2,065,727	70,658.93 ㎡	2,065,727
2 建物	133,283.92 ㎡	20,153,802	133,220.70 ㎡	21,068,961
①校舎	105,687.22 ㎡	14,405,130	105,687.22 ㎡	15,087,156
②図書館	14,226.95 ㎡	2,980,106	14,226.95 ㎡	3,104,202
③講堂・体育館	10,967.12 ㎡	2,472,974	10,967.12 ㎡	2,571,991
④寄宿舍	1,695.10 ㎡	183,195	1,695.10 ㎡	191,705
⑤その他	707.53 ㎡	112,397	644.31 ㎡	113,907
⑥建設仮勘定		1,244,798		57,728
3 図書	573,013 冊	2,634,723	572,318 冊	2,643,085
4 教具・校具・備品	31,210 点	1,466,131	30,304 点	1,060,236
5 その他		1,976,362		2,147,892
基本財産計		39,635,208		39,137,294
<b>二 運用財産</b>				
1 現金預金		11,675,914		12,345,918
2 特定資産		2,526,171		2,518,636
3 有価証券		40,095		40,095
4 差入保証金		330		557
5 長期貸付金		0		0
6 短期貸付金		0		0
7 未収入金		420,910		458,067
8 前払金		108,669		72,846
9 その他		249		1,769
運用財産計		14,772,337		15,437,888
<b>三 負債額</b>				
1 固定負債		7,457,994		7,524,154
①長期借入金		3,700,000		4,100,000
市中銀行		( 3,700,000 )		( 4,100,000 )
②長期未払金		394,718		75,266
③退職給与引当金		3,363,276		3,348,889
2 流動負債		4,807,542		5,127,353
①短期借入金		400,000		400,000
市中銀行		( 400,000 )		( 400,000 )
②未払金		1,284,729		1,852,196
③前受金		2,839,493		2,551,492
④預り金		283,320		323,664
負債総額		12,265,536		12,651,507
四 基本財産+運用財産		54,407,546		54,575,182
五 純資産(四-三)		42,142,010		41,923,676
$\frac{\text{総負債(三)} - \text{前受金}}{\text{総資産(四)}} \times 100$		17.3 %		18.5 %

※千円未満の端数については、四捨五入しているため、合計等の額が計算上一致しない場合があります。

[2] 収支計算書

資金収支計算書

(単位:千円)

収入の部				前年度比		
	2021年度 予算	2021年度 決算	差異	2020年度 決算	増減	
学生生徒等納付金収入	10,708,801	10,504,776	204,025	10,693,155	△ 188,379	前年度より約200名の学生生徒数が減少したことで、予算編成時の算出から減少しました。
手数料収入	448,164	358,948	89,216	423,375	△ 64,427	
寄付金収入	30,132	32,652	△ 2,520	48,558	△ 15,906	大学志願者数減少により入学検定料収入が減少しました。
補助金収入 (国庫補助金収入) (地方公共団体補助金収入)	1,362,188 ( 718,359) ( 643,829)	1,448,405 ( 813,733) ( 634,673)	△ 86,217 (△ 95,374) ( 9,156)	1,611,113 ( 963,458) ( 647,656)	△ 162,708 (△ 149,725) (△ 12,983)	経常費補助金収入や、授業料等減免を目的とした国の高等教育修学支援新制度における補助金収入が増加しました。
資産売却収入	79,376	10,807	68,569	52,283	△ 41,476	
付随事業・収益事業収入	136,716	95,196	41,520	57,948	37,248	
受取利息・配当金収入	14,298	14,643	△ 345	17,723	△ 3,080	有価証券売買の減少によります。
雑収入	324,395	447,083	△ 122,688	449,617	△ 2,534	
借入金等収入	250	0	250	0	0	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、主に大学の公開講座等の実施が減少しました。
前受金収入	2,588,421	2,839,448	△ 251,027	2,550,386	289,062	
その他の収入	484,672	426,998	57,674	476,746	△ 49,748	
資金収入調整勘定	△ 2,875,233	△ 2,972,358	97,125	△ 3,045,574	73,217	主に退職者が増加したことにより退職金財団等交付金収入が増加しました。
当年度収入合計	13,302,180	13,206,598	95,582	13,335,331	△ 128,733	
前年度繰越支払資金	12,435,918	12,345,918		16,020,506	△ 3,674,588	入学予定者の学費(授業料等)の一括納入者が増加しました。
収入の部合計	25,738,098	25,552,516	185,582	29,355,837	△ 3,803,321	

支出の部				前年度比		
	2021年度 予算	2021年度 決算	差異	2020年度 決算	増減	
人件費支出	7,743,796	7,645,669	98,127	7,506,781	138,888	
教育研究経費支出	3,293,921	2,769,611	524,310	2,765,771	3,840	新型コロナウイルス感染症拡大の長期化により、予定されていた教育活動の一部が制限されたため、電気料・水道料金等の光熱水費や旅費交通費が減少しました。
管理経費支出	907,820	728,518	179,302	829,522	△ 101,004	
借入金等利息支出	10,226	10,226	0	10,686	△ 460	
借入金等返済支出	400,000	400,000	0	400,000	0	主に越谷校舎新棟建設工事に伴う建設仮勘定支出となります。
施設関係支出	1,279,300	1,218,945	60,355	5,500,420	△ 4,281,474	
設備関係支出	771,254	754,125	17,129	629,379	124,746	有価証券売買の減少によります。
資産運用支出	90,347	27,462	62,885	49,557	△ 22,096	
その他の支出	1,902,769	1,998,074	△ 95,305	1,220,359	777,715	
予備費	50,000	0	50,000	0	0	
資金支出調整勘定	△ 1,691,954	△ 1,676,027	△ 15,927	△ 1,902,556	226,529	
当年度支出合計	14,757,479	13,876,602	880,877	17,009,919	△ 3,133,317	
翌年度繰越支払資金	10,980,619	11,675,914	△ 695,295	12,345,918	△ 670,005	翌年度繰越支払資金(現金預金)が予算に対して約7億円程増加しました。
支出の部合計	25,738,098	25,552,516	185,582	29,355,837	△ 3,803,321	
当年度収支差額	△ 1,455,299	△ 670,005	△ 785,294	△ 3,674,588	3,004,583	

\*千円未満の端数については、四捨五入しているため、合計等の額が計算上一致しない場合があります。

# 活動区分資金収支計算書

(単位:千円)

科 目	2021年度 予 算	2021年度 決 算	差 異	前年度比	
				2020年度決算	増 減
<b>教育活動による資金収支</b>					
学生生徒等納付金収入	10,708,801	10,504,776	204,025	10,693,155	△ 188,379
手数料収入	448,164	358,948	89,216	423,375	△ 64,427
特別寄付金収入	8,772	5,760	3,012	15,626	△ 9,866
一般寄付金収入	10,360	20,891	△ 10,531	11,214	9,677
経常費等補助金収入	1,362,188	1,444,611	△ 82,423	1,430,243	14,368
付随事業収入	136,716	95,196	41,520	57,948	37,248
雑収入	324,395	446,833	△ 122,438	449,617	△ 2,784
教育活動資金収入計	12,999,396	12,877,014	122,382	13,081,177	△ 204,163
人件費支出	7,743,796	7,645,669	98,127	7,506,781	138,888
教育研究経費支出	3,293,921	2,769,611	524,310	2,765,771	3,840
管理経費支出	907,820	724,464	183,356	829,205	△ 104,741
教育活動資金支出計	11,945,537	11,139,744	805,793	11,101,757	37,987
差引	1,053,859	1,737,270	△ 683,411	1,979,420	△ 242,151
調整勘定等	94,391	68,314	26,077	45,028	23,286
教育活動資金収支差額	1,148,250	1,805,583	△ 657,333	2,024,448	△ 218,865
<b>施設整備等活動による資金収支</b>					
施設設備寄付金収入	11,000	6,001	4,999	21,719	△ 15,718
施設設備補助金収入	0	3,794	△ 3,794	180,870	△ 177,076
施設設備売却収入	0	0	0	0	0
施設整備等活動資金収入計	11,000	9,795	1,205	202,589	△ 192,794
施設関係支出	1,279,300	1,218,945	60,355	5,500,420	△ 4,281,474
設備関係支出	771,254	754,125	17,129	629,379	124,746
施設整備等活動資金支出計	2,050,554	1,973,071	77,483	6,129,799	△ 4,156,728
差引	△ 2,039,554	△ 1,963,276	△ 76,278	△ 5,927,210	3,963,934
調整勘定等	△ 134,807	△ 59,925	△ 74,882	522,389	△ 582,314
施設整備等活動資金収支差額	△ 2,174,361	△ 2,023,201	△ 151,160	△ 5,404,821	3,381,621
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△ 1,026,111	△ 217,617	△ 808,494	△ 3,380,373	3,162,756
<b>その他の活動による資金収支</b>					
借入金等収入	250	0	250	0	0
有価証券売却収入	79,376	10,807	68,569	50,597	△ 39,790
前田学術研究奨学資金引当特定資産取崩収入	3,000	3,206	△ 206	3,091	115
預り金受入収入	23,375	0	23,375	97,226	△ 97,226
差入保証金戻入収入	230	535	△ 305	272	263
貯蔵品売却収入	0	0	0	1,687	△ 1,687
小計	106,231	14,548	91,683	152,872	△ 138,324
受取利息・配当金収入	14,298	14,643	△ 345	17,723	△ 3,080
過年度修正収入	0	250	△ 250	1	250
その他の活動資金収入計	120,529	29,442	91,087	170,596	△ 141,154
借入金等返済支出	400,000	400,000	0	400,000	0
有価証券購入支出	79,376	9,400	69,976	43,947	△ 34,548
前田学術研究奨学資金引当特定資産繰入支出	10,741	17,754	△ 7,013	5,380	12,374
差入保証金支出	230	308	△ 78	230	78
預り金支払支出	0	40,344	△ 40,344	0	40,344
貯蔵品購入支出	0	24	△ 24	3,160	△ 3,136
小計	490,347	467,830	22,517	452,717	15,112
借入金等利息支出	10,226	10,226	0	10,686	△ 460
過年度修正支出	0	4,054	△ 4,054	317	3,736
その他の活動資金支出計	500,573	482,109	18,464	463,720	18,388
差引	△ 380,044	△ 452,667	72,623	△ 293,125	△ 159,543
調整勘定等	856	280	576	△ 1,090	1,370
その他の活動資金収支差額	△ 379,188	△ 452,387	73,199	△ 294,215	△ 158,172
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	△ 1,455,299	△ 670,005	△ 785,294	△ 3,674,588	3,004,583
前年度繰越支払資金	12,435,918	12,345,918	0	16,020,506	△ 3,674,588
翌年度繰越支払資金	10,980,619	11,675,914	△ 695,295	12,345,918	△ 670,005

※千円未満の端数については、四捨五入しているため、合計等の額が計算上一致しない場合があります。

事業活動収支計算書

(単位:千円)

科目	2021年度 予算	2021年度 決算	差異	前年度比	
				2020年度決算	増減
<b>事業活動収入の部</b>					
学生生徒等納付金	10,708,801	10,504,776	204,025	10,693,155	△ 188,379
手数料	448,164	358,948	89,216	423,375	△ 64,427
寄付金	19,132	40,352	△ 21,220	32,713	7,639
経常費等補助金	1,361,649	1,444,611	△ 82,962	1,430,243	14,368
付随事業収入	136,716	95,196	41,520	57,948	37,248
雑収入	324,395	447,120	△ 122,725	449,588	△ 2,468
教育活動収入計	12,998,857	12,891,003	107,854	13,087,023	△ 196,020
<b>事業活動支出の部</b>					
人件費	7,725,612	7,660,719	64,893	7,518,548	142,171
教育研究経費	4,600,641	4,088,779	511,862	3,634,486	454,292
管理経費	1,056,105	869,954	186,151	923,601	△ 53,646
徴収不能額等	500	0	500	170	△ 170
教育活動支出計	13,382,858	12,619,452	763,406	12,076,805	542,647
教育活動収支差額	△ 384,001	271,551	△ 655,552	1,010,218	△ 738,667
<b>事業活動収入の部</b>					
受取利息・配当金	14,249	14,594	△ 345	17,674	△ 3,080
その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
教育活動外収入計	14,249	14,594	△ 345	17,674	△ 3,080
<b>事業活動支出の部</b>					
借入金等利息	10,226	10,226	0	10,686	△ 460
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
教育活動外支出計	10,226	10,226	0	10,686	△ 460
教育活動外収支差額	4,023	4,369	△ 346	6,988	△ 2,620
経常収支差額	△ 379,978	275,920	△ 655,898	1,017,206	△ 741,286
<b>事業活動収入の部</b>					
資産売却差額	1,000	1,491	△ 491	6,856	△ 5,365
その他の特別収入	20,083	34,188	△ 14,105	219,872	△ 185,684
特別収入計	21,083	35,679	△ 14,596	226,727	△ 191,049
<b>事業活動支出の部</b>					
資産処分差額	24,591	54,401	△ 29,810	72,878	△ 18,477
その他の特別支出	0	38,863	△ 38,863	317	38,546
特別支出計	24,591	93,264	△ 68,673	73,195	20,069
特別収支差額	△ 3,508	57,586	54,078	153,533	△ 211,118
予備費	50,000	0	50,000	0	0
基本金組入前当年度収支差額	△ 433,486	218,334	△ 651,820	1,170,739	△ 952,405
基本金組入額合計	△ 2,036,311	△ 2,782,567	746,256	△ 5,897,188	3,114,620
当年度収支差額	△ 2,469,797	△ 2,564,233	94,436	△ 4,726,449	2,162,216
前年度繰越収支差額	△ 10,280,604	△ 10,280,604	0	△ 5,554,155	△ 4,726,449
基本金取崩額	0	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△ 12,750,401	△ 12,844,838	94,437	△ 10,280,604	△ 2,564,233
<b>(参考)</b>					
事業活動収入計	13,034,189	12,941,276	92,913	13,331,424	△ 390,148
事業活動支出計	13,467,675	12,722,942	744,733	12,160,685	562,256

※千円未満の端数については、四捨五入しているため、合計等の額が計算上一致しない場合があります。

**教育活動収支**

(経常的な収支のうち、教育活動による収支状況)

収入では主に学生生徒等納付金と入学検定料が減少しました。支出の中で、東京あだちキャンパス開設による減価償却額が増加しました。全体では新型コロナウイルス感染症拡大の長期化により、教育活動が大きく制限されたことで、教育研究経費及び管理経費が抑制された結果、収支差額は収入超過となりました。

**教育活動外収支**

(経常的な収支のうち、財務活動による収支状況)

主に保有有価証券の利金や配当金を収入として計上しています。支出は外部借入金の利息によるものです。

**特別収支**

(資産売却や処分等の臨時的な収支状況)

主に国の補助金や、東京あだちキャンパス開設及び教育研究環境整備による寄付金収入を計上しています。支出は図書や備品の除却による資産処分差額と、前年度の修正額を計上し、結果として支出超過となりました。

**当年度収支差額**

基本金組入前当年度収支差額は収入超過ではあったが、前年度から比較すると収入超過の幅が縮小しました。基本金は、東京あだちキャンパス建設に係る組入れが終了し、組入れ額は大幅に減少しました。当年度収支差額は支出超過ながらも、前年度と比較してその幅は大きく減少しました。

**翌年度繰越収支差額**

以上の結果、累積収支差額である翌年度繰越収支差額でも累積収支のマイナスが増加する結果となりました。

# 貸借対照表

(単位:千円)

資産の部			
科 目	2021年度	2020年度	増 減
固定資産	42,201,817	41,696,595	505,222
有形固定資産	39,397,125	38,882,383	514,743
土地	12,159,393	12,159,393	0
建物	20,153,802	21,068,961	△ 915,159
構築物	1,738,279	1,892,980	△ 154,701
教育研究用機器備品	1,368,838	948,743	420,095
管理用機器備品	97,292	111,493	△ 14,201
図書	2,634,723	2,643,085	△ 8,362
建設仮勘定	1,244,798	57,728	1,187,070
特定資産	2,526,171	2,518,636	7,535
その他の固定資産	278,521	295,577	△ 17,056
ソフトウェア	68,456	85,285	△ 16,829
有価証券	40,095	40,095	0
その他	169,970	170,197	△ 227
流動資産	12,205,729	12,878,587	△ 672,858
現金預金	11,675,914	12,345,918	△ 670,005
その他	529,815	532,669	△ 2,854
資産の部合計	54,407,546	54,575,182	△ 167,637

主に大学教育研究系システム更新による増加です。

越谷校舎新棟建設工事に伴う建設仮勘定を計上しています。

主に越谷校舎新棟建設工事の支払資金として現金預金が減少しています。

負債の部			
科 目	2021年度	2020年度	増 減
固定負債	7,457,994	7,524,154	△ 66,160
長期借入金	3,700,000	4,100,000	△ 400,000
長期未払金	394,718	75,266	319,452
退職給与引当金	3,363,276	3,348,889	14,388
流動負債	4,807,542	5,127,353	△ 319,811
短期借入金	400,000	400,000	0
未払金	1,284,729	1,852,196	△ 567,467
前受金	2,839,493	2,551,492	288,000
預り金	283,320	323,664	△ 40,344
負債の部合計	12,265,536	12,651,507	△ 385,971

東京あだちキャンパス建設資金の一部に利用している外部の借入金です。

将来の教職員の退職金支給に備えるため、退職金債務をあらかじめ負債として認識しています。

東京あだちキャンパス建設資金の支払が完了したため、今年度減少しています。

2022年度入学生の入学や授業料等です。

純資産の部			
科 目	2021年度	2020年度	増 減
基本金	54,986,847	52,204,280	2,782,567
第1号基本金	53,787,716	51,005,148	2,782,567
第3号基本金	398,132	398,132	0
第4号基本金	801,000	801,000	0
繰越収支差額	△ 12,844,838	△ 10,280,604	△ 2,564,233
翌年度繰越収支差額	△ 12,844,838	△ 10,280,604	△ 2,564,233
純資産の部合計	42,142,010	41,923,676	218,334
負債及び純資産の部合計	54,407,546	54,575,182	△ 167,637

越谷校舎新棟建設に伴う新たな固定資産の取得等により増加しました。

奨学基金や研究資金等として継続的に保持し、かつ運用する資産の額となります。

恒常的に保持すべき資金として、1カ月分の運転資金を算定しています。

純資産は前年度末から約2億円増加しました。

※千円未満の端数については、四捨五入しているため、合計等の額が計算上一致しない場合があります。

[1] 収支計算書の推移

当該年度を含む過去5年間の財政の推移を掲載しています。

資金収支計算書

(単位:百万円)

収入の部	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
学生生徒等納付金収入	10,877	11,018	10,842	10,693	10,505
手数料収入	435	494	491	423	359
寄付金収入	31	11	19	49	33
補助金収入	1,090	952	1,199	1,611	1,448
資産売却収入	80	27	27	52	11
付随事業・収益事業収入	137	138	134	58	95
受取利息・配当金収入	7	12	14	18	15
雑収入	488	204	389	450	447
借入金等収入	0	0	5,200	0	0
前受金収入	2,941	2,708	2,588	2,550	2,839
その他の収入	423	469	218	477	427
資金収入調整勘定	△ 3,281	△ 3,133	△ 3,084	△ 3,046	△ 2,972
前年度繰越支払資金	11,319	12,934	14,501	16,021	12,346
収入の部合計	24,545	25,835	32,539	29,356	25,553

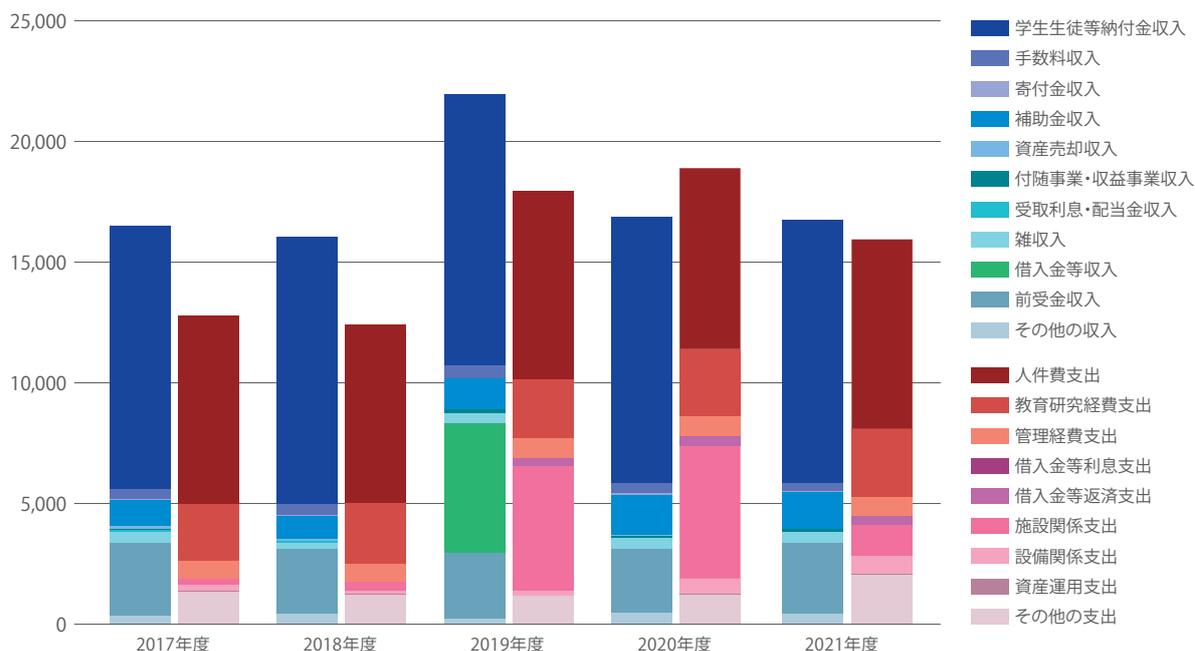
  

支出の部	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
人件費支出	7,826	7,381	7,715	7,507	7,646
教育研究経費支出	2,285	2,452	2,405	2,766	2,770
管理経費支出	818	799	841	830	729
借入金等利息支出	0	0	10	11	10
借入金等返済支出	0	0	300	400	400
施設関係支出	184	346	5,118	5,500	1,219
設備関係支出	272	141	197	629	754
資産運用支出	74	34	40	50	27
その他の支出	1,342	1,252	1,148	1,220	1,998
資金支出調整勘定	△ 1,190	△ 1,071	△ 1,257	△ 1,903	△ 1,676
翌年度繰越支払資金	12,934	14,501	16,021	12,346	11,676
支出の部合計	24,545	25,835	32,539	29,356	25,553

※百万円未満の端数については、四捨五入しているため、合計等の額が計算上一致しない場合があります。

資金収支の推移

(単位:百万円)



※ 調整勘定、前年度繰越支払資金及び翌年度繰越支払資金を除いて表示しています。

# 事業活動収支計算書

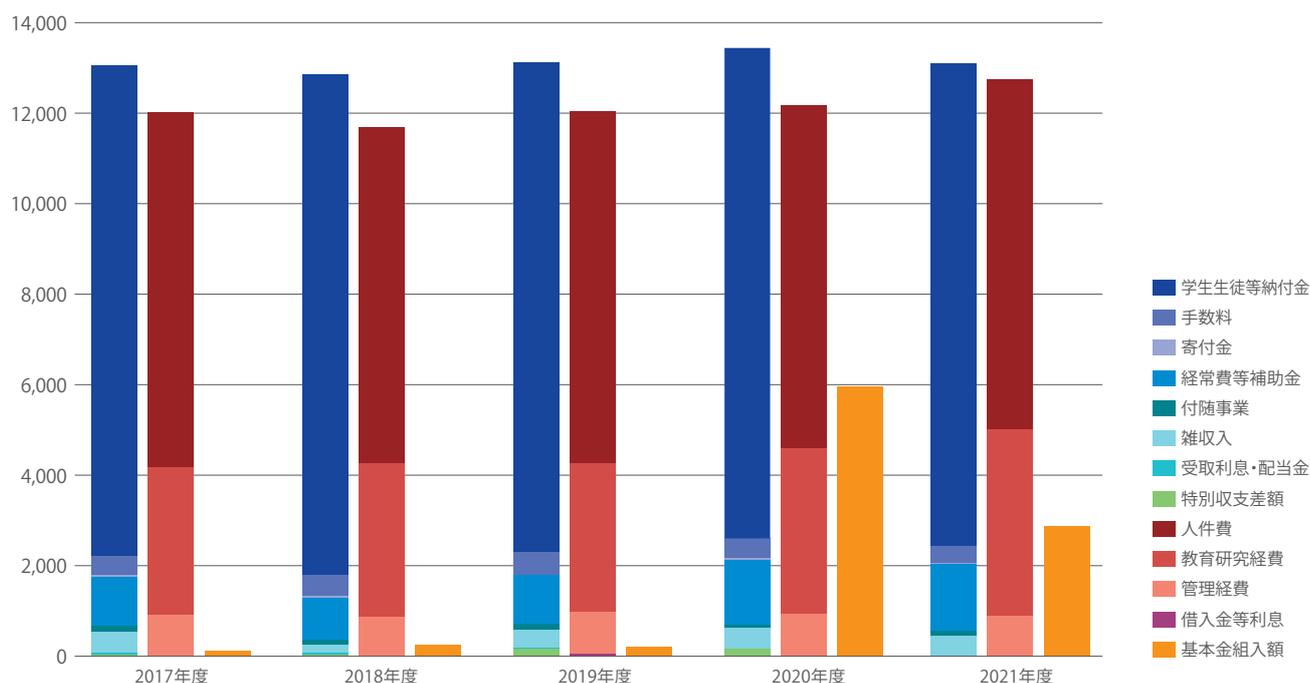
(単位:百万円)

新基準						
教育活動・教育活動外収支		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
収入	学生生徒等納付金	10,877	11,018	10,842	10,693	10,505
	手数料	435	494	491	423	359
	寄付金	8	16	12	33	40
	経常費等補助金	1,090	918	1,072	1,430	1,445
	付随事業	137	138	134	58	95
	雑収入	488	205	394	450	447
	受取利息・配当金	7	12	14	18	15
支出	人件費	7,858	7,406	7,714	7,519	7,661
	教育研究経費	3,256	3,384	3,278	3,634	4,089
	管理経費	897	878	904	924	870
	借入金等利息	0	0	32	11	10
経常収支差額		1,029	1,132	1,033	1,017	276
特別収支		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
収入	資産売却差額	7	2	2	7	1
	その他の特別収入	38	37	150	220	34
支出	資産処分差額	19	17	52	73	54
	その他の特別支出	2	1	0	0	39
特別収支差額		25	21	100	154	△ 58
その他の数値		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
基本金組入前当年度収支差額		1,054	1,153	1,133	1,171	218
基本金組入額(△)		△ 111	△ 254	△ 364	△ 5,897	△ 2,783
当年度収支差額		943	899	768	△ 4,726	△ 2,564
前年度繰越収支差額		△ 8,165	△ 7,222	△ 6,323	△ 5,554	△ 10,281
基本金取崩額		0	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額		△ 7,222	△ 6,323	△ 5,554	△ 10,281	△ 12,845
学生生徒数(単位:人)		10,531	10,637	10,473	10,240	10,051

※百万円未満の端数については、四捨五入しているため、合計等の額が計算上一致しない場合があります。

## 事業活動収支の推移

(単位:百万円)



※事業活動収支の特別収支は超過分の差額を収入として表示しています。

※基本金組入額が上昇している主な要因は、2020年度は東京あだちキャンパス開設、2021年度は越谷新棟建築によるものです。

## 貸借対照表

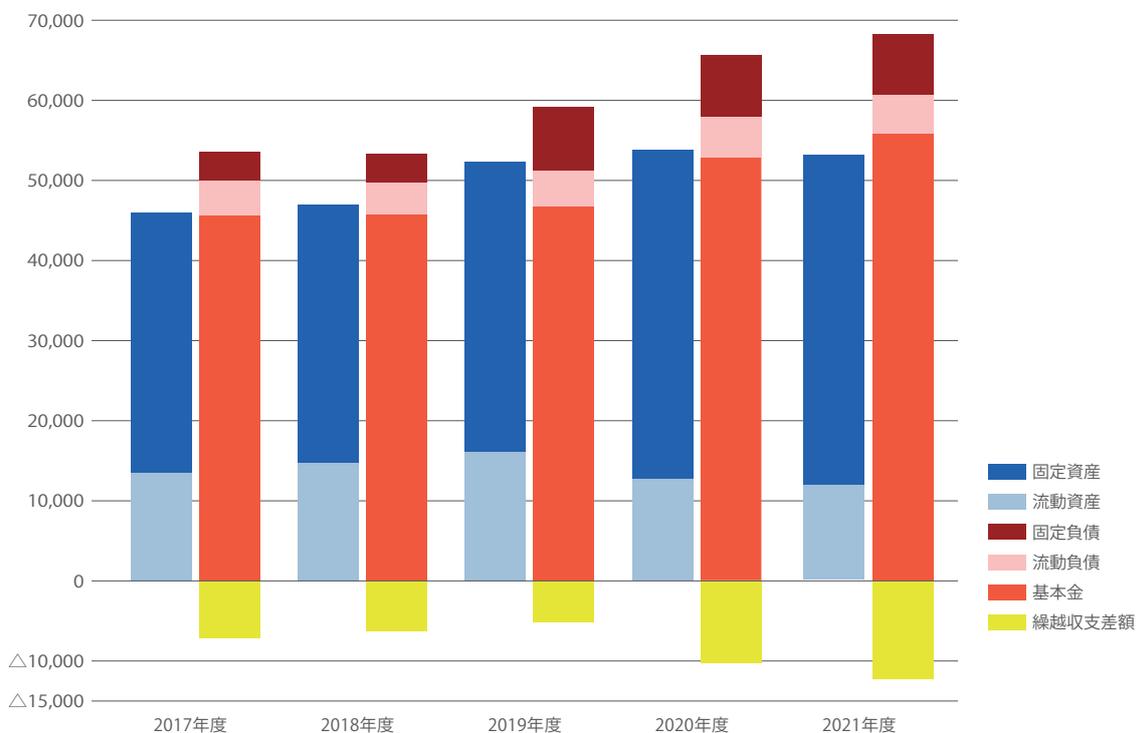
(単位:百万円)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
固定資産	32,768	32,243	36,576	41,697	42,202
有形固定資産	29,926	29,409	33,739	38,882	39,397
特定資産	2,507	2,515	2,516	2,519	2,526
その他の固定資産	335	318	320	296	279
流動資産	13,472	14,780	16,484	12,879	12,206
資産の部合計	46,240	47,023	53,060	54,575	54,408
固定負債	3,476	3,432	7,926	7,524	7,458
流動負債	4,296	3,971	4,382	5,127	4,808
負債の部合計	7,773	7,403	12,307	12,652	12,266
基本金	45,689	45,943	46,307	52,204	54,987
第1号基本金	44,490	44,744	45,108	51,005	53,788
第3号基本金	398	398	398	398	398
第4号基本金	801	801	801	801	801
繰越収支差額	△ 7,222	△ 6,323	△ 5,554	△ 10,281	△ 12,845
純資産の部合計	38,467	39,620	40,753	41,924	42,142
負債及び純資産の部合計	46,240	47,023	53,060	54,575	54,408

※百万円未満の端数については、四捨五入しているため、合計等の額が計算上一致しない場合があります。

### 貸借対照表の推移

(単位:百万円)



※「貸借対照表の推移」について、繰越収支差額をグラフの表示上マイナスの数値として表示しています。

## [2]財務比率の推移

当該年度を含む過去5年間の主な財務比率を掲載しています。

### 事業活動収支計算書の比率

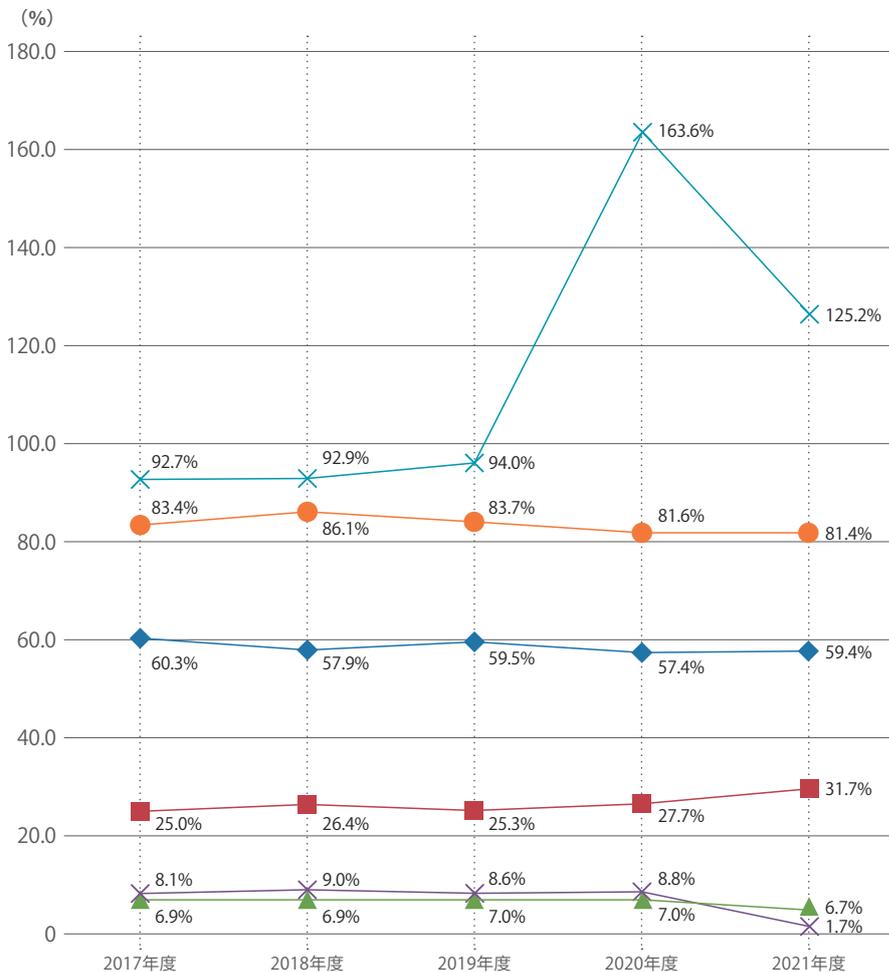
比率名	算出方法	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	評価指標*2	大学平均*3
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}^{*1}}$	60.3%	57.9%	59.5%	57.4%	59.4%	▼	52.7%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}^{*1}}$	25.0%	26.4%	25.3%	27.7%	31.7%	△	33.6%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}^{*1}}$	6.9%	6.9%	7.0%	7.0%	6.7%	▼	9.0%
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	8.1%	9.0%	8.6%	8.8%	1.7%	△	5.3%
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	92.7%	92.9%	94.0%	163.6%	125.2%	▼	107.9%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}^{*1}}$	83.4%	86.1%	83.7%	81.6%	81.4%	～	74.4%

\*1) 経常収入=教育活動収入計+教育活動外収入計

\*2) 評価指標: (目安) △…高い値が良い ▼…低い方が良い ～…どちらともいえない

\*3) 大学平均: 日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」より引用 (数値) 文他複数学部を設置する大学法人の2020年度の数値を表示

財務比率の推移(事業活動収支)



#### 基本金組入後収支比率

比率が100%を超えると、赤字となり、100%未満であると黒字となります。基本金組入額に左右されるため、考慮する必要があります。

#### 学生生徒等納付金比率

外部要因に影響されにくい重要な自己財源であるため、安定的に推移することが望まれます。

#### 人件費比率

学校法人最大の支出要素であり、この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化に繋がる要因となるため、適正な水準を保つ必要があります。

#### 教育研究経費比率

教育研究活動の維持・充実のため不可欠である数値であるため、収支均衡を損なわない範囲で高い数値が望ましいものとなります。

#### 管理経費比率

教育活動以外の目的で支出される経費であり、学校経営のための支出は止むを得ないものの、比率としては低い方が望ましいものとなります。

#### 事業活動収支差額比率

この数値が高くなるほど自己資金は充実していることとなり、経営の財政面において余裕があるものとなります。

※ 基本金組入後収支比率が上昇している主な要因は、2020年度は東京あだちキャンパス開設、2021年度は越谷新棟建築によるものです。

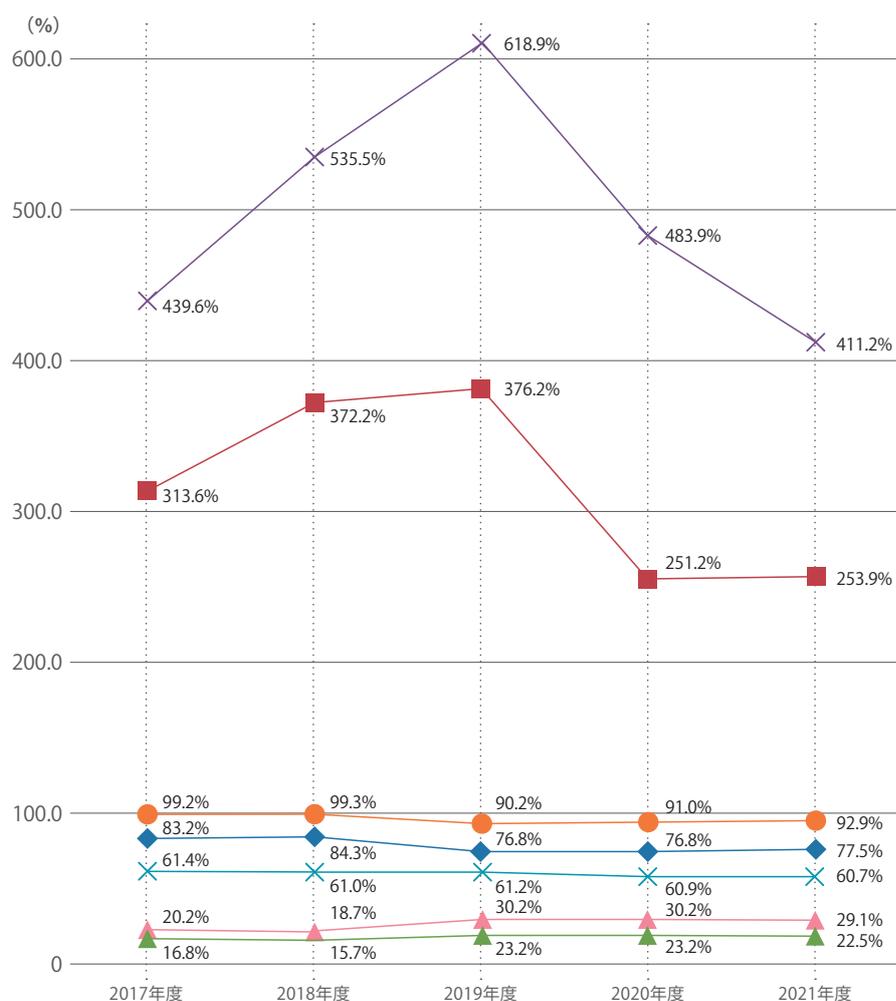
## 貸借対照表の比率

比率名	算出方法	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	評価指標*1	大学平均*2
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債+純資産}}$	83.2%	84.3%	76.8%	76.8%	77.5%	△	88.1%
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	313.6%	372.2%	376.2%	251.2%	253.9%	△	263.0%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	16.8%	15.7%	23.2%	23.2%	22.5%	▼	11.9%
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	20.2%	18.7%	30.2%	30.2%	29.1%	▼	13.5%
前受金保有率	$\frac{\text{現預金}}{\text{前受金}}$	439.6%	535.5%	618.9%	483.9%	411.2%	△	358.2%
退職給与引当特定資産保有率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	61.4%	61.0%	61.2%	60.9%	60.7%	△	73.0%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	99.2%	99.3%	90.2%	91.0%	92.9%	△	97.6%

\*1) 評価指標: (自安) △...高い値が良い ▼...低い方が良い

\*2) 大学平均: 日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」より引用 (数値) 文他複数学部を設置する大学法人の2020年度の数値より算出

財務比率の推移 (貸借対照表)



### 前受金保有率

翌年度の授業料や入学金が現金預金として適切に保有しているか測る比率であり、100%を越えることが一般的とされています。

### 流動比率

1年以内の流動負債に対して、現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかの支払能力を判断する指標です。一般的に金融機関等では、200%を超えると優良であると判断されます。

### 基本金比率

基本金組入対象資産において、どの程度組み入れが完了しているか示す指標です。未組入額があることは、借入金や未払金をもって取得していることを示すため、100%に近いことが望ましいとされています。

### 純資産構成比率

学校法人の資金の調達源泉を分析する指標です。比率が高いほど財政的に安定しており、50%を下回ると他人資本が自己資本を上回っていることを示します。

### 退職給与引当特定資産保有率

将来的な支払債務である退職給与引当金に見合う資産を特定資産としてどの程度保有しているか判断するものです。

### 負債比率

他人資本が自己資本を上回っていないか分析する指標です。100%以下で低い方が望ましいとされます。

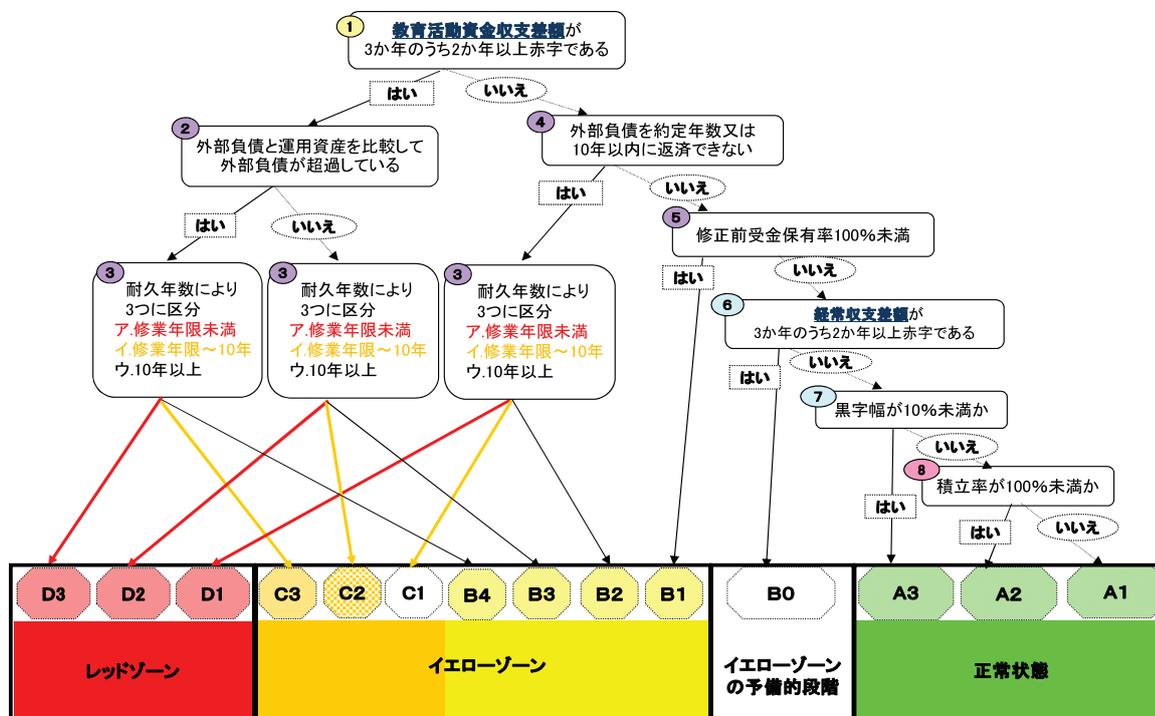
### 総負債比率

総資産に対する他人資本の比重を測る指標です。低いほど望ましく、100%を超えると債務超過であることを示します。

学園の経営状況

経営状況の分析にあたり、私立学校振興・共済事業団が提供する「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分(法人全体)」を利用しております。(引用:https://www.shigaku.go.jp/files/s\_center\_shihyo27-1.pdf)

定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分(法人全体)



(金額単位:百万円)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
①教育活動資金収支差額 (3年中2年以上赤字か)	1,895 いいえ	2,051 いいえ	1,944 いいえ	1,010 いいえ	272 いいえ
④外部負債 (約定年数or10年以内返済できない)	1,316 いいえ	1,145 いいえ	6,155 いいえ	6,427 いいえ	5,779 いいえ
⑤修正前受金保有率 (100%未満)	526.2% いいえ	629.8% いいえ	717.7% いいえ	584.2% いいえ	501.6% いいえ
⑥経常収支差額 (3年中2年以上赤字か)	1,029 いいえ	1,132 いいえ	1,033 いいえ	1,017 いいえ	276 いいえ
⑦黒字幅(10%) (10%未満か)	8.5% はい	9.7% はい	8.7% はい	8.4% はい	2.2% はい
⑧積立率(100%) (100%未満か)	84.4% -	89.3% -	93.5% -	71.7% -	64.5% -
判定	A3	A3	A3	A3	A3

上記指標に基づいて、5年間の経営状況を置き換えると、判定区分は5年連続で「A3」の判定となります。

- ※「A3」 経営状況 : 正常領域
- 収支差額 : 黒字幅10%未満
- ストック : 外部負債を約定通り返済でき、かつ、前受金<運用資産
- 長期的対応 : 計画的な収支改善による黒字の増加

経営上の成果と課題

2021年度予算は支出超過の計画でしたが、同年4月開学の「東京あだちキャンパス」設置、および「越谷キャンパス」新棟建築に係る大型財政支出を含めても、教育活動資金収支差額および経常収支差額で、経年の収入超過を維持することができました。ただし、大型施設が増加したことにより、減価償却費が収支に与える影響を念頭に、学校経営を継続していく必要があります。

今後は、大学の安定的な入学者確保が最も重要な課題であり、さらなる募集力強化を図り、健全な財政状況を維持できるよう注力していきます。

今後の方針

第四次中期経営計画「BUNKYO ACTION PLAN 2025」における「強固な財政基盤の確立」という目標の下、大学および付属学校を中心に、「経営」と「教学」が一丸となって学校運営の強化を図っていきます。

## 監 査 報 告 書

2022年5月24日

学校法人 文教大学学園  
理 事 会 御中  
評議員会 御中

学校法人 文教大学学園  
監 事 佐藤 善吉  
監 事 須原 洋

私たちは、私立学校法第37条第3項及び学校法人文教大学学園寄附行為第27条の規定に基づき、学校法人文教大学学園の2021年度(2021年4月1日から2022年3月31日まで)の、業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況について監査を行った。

私たちは監査にあたり、理事会及び評議員会その他必要と思われる会議に出席するほか、理事等から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、監査室から業務監査の報告を受けるとともに、独立監査人である双葉監査法人と連携し、計算書類について検討を行うなど、必要と思われる監査手続きを実施した。

監査の結果、私たちは学校法人文教大学学園の業務に関する決定及び執行は適正であり、業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認める。

また、計算書類、すなわち資金収支計算書、事業活動収支計算書及び貸借対照表(固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む。)並びに財産目録は会計帳簿と合致し、学校法人文教大学学園の収支及び財産の状況を正しく示しているものと認める。

以 上

# 2021年度 文教大学学園事業報告書

2022年5月31日 発行

編集人 事業計画書・事業報告書策定プロジェクトチーム2021-2022  
[法人事務局] 伊藤 諭・中島 茜・佐藤 翼・堀部 拓也(経営企画室)  
富田 祐未・黒澤 鮎美(総務課)  
二藤 菜津美(財務課)・佐藤 悠太(施設課)  
近藤 華実(中高事務課)

発行人 学校法人 文教大学学園

発行所 東京都品川区旗の台3-2-17 TEL:03-3783-5511(代)

制作/印刷 株式会社 クリエイティブ・マインド/株式会社 精美堂

